（一）　第四十二號　明治廿九年十二月廿五日

郵便物認可　郵便報知新聞第八種

東京小間物商報

第五號

稟告

當商報之儀各位の御引立を以て日に月に隆盛を極め茲に無事第二の新年を迎んとす是全く各位の御愛顧厚きに因らずんば焉を此幸榮を荷ふ能はざる儀と深く奉感謝候就ては右御厚意に酬んが爲め來三十年一月五日初刊の第四十五號は通常十六頁を數倍にて且つ丈長全紙美麗錦繪大附錄を添て進呈仕候間不相變御愛讀之程伏而奉願候

尚本號い數十萬部を增刷して全國一般の同業者へ配布致候儀に付隨て廣告も大幅湊の豫算に有之依て本號に限り規定の廣告料を引下け一行金六錢の割を以て掲載可致間御年賀其他總ての廣告御依賴之御方い來十八日迄に前金相添へ豫め當發行所へ御申込有之度候謹言

東京小間物商報
發行所

雜報

▲陸軍補充條例の改正

陸軍省にては明治二十一年頃より漸次に令部の補充條例を制定して實施し來りしが明治二十七八年の戰役に際して戰時若くハ事變の時に於ける陸軍監督部及び東部の士官特別補充の例を開き其間、二十餘種の錯綜せる補充規程を見るに至りたり軍備擴張と條例整理の必要は新たに一の補充條例を定めて複雜の規程を一律に纏ひるの已むを得ざるに至り即ち百十一箇條より成れる今回の勅令第三百七十九號となりて發布せられたるなり條例改正の主旨は右の如くなりと雖も今回の新條例と雖も從來の制を壞張したるものも少しとせず試みに三四の要點を掲ぐれば

中學卒業者の特典　從來士官候補生に採用せらるゝものは中學卒業生と師範召募試驗を經さゝるからざることなりしに今回の條例に於て官立ハ府縣立或ハ常中學校若くハ文部大臣の指定した或ハ常中學校を卒業したるものには一學科の檢定を除き無試驗にて士官候補生に採用せらるゝことを許したり尤も此條例に於ては文部大臣に指定中學校とは此條例の規定に據り特に指定するものなれバ徴兵令に於ける徴兵猶豫の指定學校と同じからずと知るべし

輜重兵の士官候補生　從來の制に於て輜重兵には士官候補生に殺けあらざりしが今回の新條例に於て輜重兵に士官候補生を置くことゝなりたり

默醫官の見習默醫官　從來の制に於て默醫官は默醫官候補者たる見習默醫官より採用せざりしに今回の條例に於て默醫官は軍醫官、藥劑官と共に帝國大學醫科卒業生より採りたれど新條例に於ては士官候補生たることを許したり是れ亦從來の制に於て未だ曾て見ざりし所の特例なりといふ

獨逸の大計畫　獨逸が此十五六年來歐米諸國に向ひて其商權を張し又近く我東洋に貿易の實權を握らんと力めつゝあるは皆人の知る所なるが近頃同國商人等い我日本に對して驚くべきの計畫を爲しつゝありと云ふ今其概略を聞くに獨逸に在る遊船銀道他各社の重なる人員凡そ二十社許りが勝谷として我貿易の實權を握らんとする大計畫にして即ち我國は戰後二億兩の賠償金を得て軍備の擴張其他種々の經營を爲さんとするに乘じ日本に於ての需用品を纏て獨逸商人の手を經て輸入し其佛國よりもべきものも英國よりすべきものも米國自由主義よりすべきものも其國とに關しある獨逸商人の支社より供給せしめんとするにあらずして獨逸商人の支社より供給せしめんとするにあらずして之が爲めに此勝谷會社ハ横濱に其總理代人を派出し豫て我輸出業にも從事せんとし其代人なるべき人ハ既に横濱に在り我國の紳商某氏も此協議に與りて事業に着手しんとせるの觀なり獨逸が近今世界に其商權を擴張しつゝあるの勢力を以て愈々此大計畫を日本に實行するに至らバ我貿易業に就ても實に由々しき大事にして或ハ遂に我商界より英米佛等諸國を驅逐し我內地への商業上に非常の影響を及ぼすに至らんかとへり

▲日韓通商事項調査

今度露商務省に於て日韓西國間通商上參考に供せんが爲め朝鮮國に於ける各港貿易ハ內地の產物、金銀其他何等に拘らず兩國間の通商上有益と認めたる事項の現狀、將來及び其方法等詳細取調方を日韓貿易協會へ依託し其報酬として金五百圓を給與せしに依り同協會にハ之を引受及び詳密にして且正確なる調査を遂げ報告せんとし已に其準備に着手したりとなり

▲賀屋の開敵

昨今の今頃は賀屋の最盛中なり賀屋の開敵とは昌なりしに引換へ本年の昨今は出賀へ入賀も至て少なく候ゝ賀屋の番頭の話に據れバ他國ハ知らず東京にては賀屋の繁忙は世間好景氣の徴にして其の開敵なるは世間好景氣の證なりと云ふ曾て如何と云ふに江戸ッ兒の氣性は善く云へば意氣の鍵は遣ぬと云ふが如くに一度鍵れば忽ち遣ひ果す習俗なれば世間好景氣の折には賊工勞働者等が賀屋の儲け賀屋の繁盛を極れば餘り金は酒食其他に浪費して手許に金の少きを如何せん爲めに又一度の動めを命ずる有樣にて金が來れば又一受出し又入るゝなど從て賀屋繁昌すれば世間不景氣の際には金廻りの惡きより花客の出賀するもの少なく勿論衣類を新調して賀草を飾やすなどの事なきより自然入賀も少き道理にて賀屋は至て閑散となる常なりと云へ是も単に賀屋の花客のみに云ふべきは多く勞働者などの下等社會に多きが爲めなるべし

▲新規加入者　左の諸氏は今回本組合へ加盟の旨届出ありたり

淺草區旅籠町一丁目五番地　星野外三郎君
同區福井町一丁目二十番地　岡田七郎治君
日本橋區馬喰町四丁目三番地　増田九十郎君

▲品詞贈星京莊園堂齋藤泰助君は此程逝去せられしに付例に據り組合員を代表して頭取より弔詞を贈れり

本組合録事

（禁轉載）

▲推朱類　黒唐木豪物、上中下等にて鏈物の二種、櫛、笄、両天、天神さし
▲時櫛物類　本甲、黒唐張、並物、木豪物、組物、二徳、両天、櫛、笄、天神物上中下
一圓張　自由上中下とも相變らず
右いづれも賣口よし
かんざし類　本甲、黒唐、角物、木豪等にて推朱、浚物、時櫛物、玉入、かさ付、向よ差、花物、天神さし物、細巻、なと向よし
▲簪玉　あるみ、推朱、時櫛物類大に流行
▲牛櫛　丸髷、利休、眞砂、かね、半京、相利休、等に可並、入、無地物上中下とも相變らず賣行なり
▲木櫛の類　上等物本蒔櫛付、研出し、眞砂、福髷、牡丹、麦形、月形、鍬形の類賣口よし
同並物類　追て高下に鍬形なども相變らず賣口よし、三八、福髷、追て、かね初月形上中下、いづれも櫛付又ハ無地物なり
▲櫛櫛　四寸、三八、三五の眼丸、小利休、五寸、とかし上中下等
▲能代　右同斷　黄櫛櫛、同樣、お初並物大に向よし、櫛及び黄櫛ポッ〳〵の賣行
▲黄櫛立　二五、二三、二二、二寸、一八、及び髷あげ、丸形、品川相變らずの賣行あり
▲南京黄櫛　右同斷
▲角成付　上中下とも賣口よし
▲揚枝　角、くとら、水牛、何れも上中下とも賣口よし
▲竹櫛枝　上中物賣行あり
▲帯留金物　上中下賣行あり
▲櫛ぢめ　季節物のみ上等中物下物いづれも大形、中形、小形、胡蝶製の物、櫛付、七寶、あるみ、蝶に類非常の賣行
▲根がけの類　本ゴム玉、粉ひ張玉、ゐるみ、硝子玉、モール、細物等向よし
▲一文字　あるミ巾廣、石入、高彫、透し、三ッ折、四ッ折、五ッ折、石目、鏡入、其他ゴム無地、櫛付の類向よし
▲モール根掛　各種、針線のモール粉ひ結物、房付、相變らず賣口よし
▲掛物の類　内記房付上中下
▲編細くけ細　無地及び友禪上中下
▲組物　無地上中下、房付房なし
金縄　太中、細、金、銀、たき、ばらの類
糸奴及び捻物　上中下相變らず
▲花物結び掛　季節物大に向よし
手柄の類　なまこ、絞り、鹿の子、翻取、糸あみ、織物新形、雲手織、環珞、毛糸、金入、金なし、モス金入、安田の類、絹にしき、メリンスなまこ、龍紗、絞りの類いづれも向よし
▲ゴム花かん　上中下、房付物にて纏て一月物賣口よし
梅、椿、水仙、羽子板、鞠、其他新形物數種、及び樂天簪なども大に賣行あり
▲花かん
新珊瑚美術玉　同品は肇て東京ぬかん本舗田中東京洗堂に於て製造販賣し其目猶浸さっも非常の高評を博しつゝあり、しかも處同店も既に東京ぬかと云へる大立者なれば、同店にて製造に手廻り愛ねる處から該美術玉ハ物あり、て其製造に手廻り愛ねる處から該美術玉ハ

今度日本橋區蠣殻町二丁目十二番地專賣中絶製造本舗辰巳屋雪藏氏へ譲り渡しの約整ひたれば同氏は尚なほ改良を加へ善盡して更に發賣したりと云ふ

▲高評石鹸　獨て神田櫛原川岸なる小林富治郎氏の製造販賣に係る同品は恰かも其名の如く孤比の高評を得て販路の益々増加をるより斯くて其為者香品品質の身に慣るゝを誤認して品位の組に陥いりし如く思ふなとの需用者あるやも計り難しとて今度更に優等の麝香を加へ所謂特別の煉製と爲したれば錦上又花を添るの思ひあり
▲梅が香油と同煉油　日本橋區小傳馬町二丁目田村商店にて製造發賣の同品に就き此程佐病院に依頼して是が試驗を行ひしに其成績は即ち左の如くなりしと

一梅か香油　同煉油
右之を檢するに品質善良にして常に用ふるに衛生上最も良好の品と認め候也

明治廿九年十月十四日

告成堂岩佐病院藥劑局
藥劑師　三浦不二尾㊞

田村庄太郎殿

▲透明なしろいエルベット　横山町二丁目の花王堂より發賣の同品ハ夏化粧の品とのミ思ひ居る人もあれど是ハ化學上より發明のれしろいなれば冬期に於て之を用ふるも素より薬支へなきのみならず、ひい、かかされ、しもやけ等にも著るしき功能ありと云ふ
▲美人ぬか　神田山本町廿二番地美人堂にて製造の美人ぬかと云へるは風光只來同家に傳はる秘法なれとも該品の果して功力ありや否や知るに由なかりしが此程フト雷生徘優山口定雄に依頼して是が試驗を爲さしめたるに同優は數日間試用して其功能の凡ならざるを賞賛の末關優が市村座にて興行の際自ら日々の來觀者へ豐高個を分布せしより非常の賣行を博せし由なるが今度愈〻これを賣品となし日本橋區小傳馬町二丁目田村庄太郎氏方より發賣するに云ふ
▲齋藤泰助氏逝　煉なしろい郷の花を以て有名なる馬喰町四丁目東京莊園堂主齋藤泰助氏は性淡泊能く世故に通じ且事務に熟心にして前途猶多望の人なりしに天此人に霜を振さず去月廿九日病ひを得て遂に逝く嗚呼悲悼しい哉

謝辭

左に列記する諸氏に就れも當時の實業界中に於て其名聲最も鋒々たるの人となるの其熟誠の溢るゝ所又我商報の同業者を益する尠なからざるを賞揚せられ加ふるに印刷費補助として各金若干の寄贈を賜へり幣組合及商報の面目之に過ず依て略儀ながら茲に貴名を列載して聊か其厚意を深謝す

（記名順序不同御海恕）

岐阜市銀屋町　河村商店君
府下向島須崎町長瀬工場　村田藤太郎君
北海道根室市梅ヶ枝町　市川源三郎君
信州松本大名町　田立屋勝造君
陸前石の巻　金森太平君
越中富山中の町　牧田繁太郎君
遠州浜松町　横濱弁天通四丁目　下島佐助君
信州長野町　宮島安兵衛君
上州桐生町　藤江清三郎君
同原市場　牟田喜四郎君
陸前岩沼　阿部吉三郎君
信州長野町　福田屋商店君

▲どゝ逸帽子　つい此程の事なりとか横山町一丁目軍艦屋佐野衛氏の店へ一人の來客あり一個のコールテンの帽子を預け置きしを小僧が何心なく其帽子を手に取り見れば中に「みへの帽子を結ぶ者やないよ塞ましのきの元かくし」と一首の都ゝ逸が認めありしより其處に居合せたる又一人の客が「帽子かくしつて後ぬ塞さは是ぢや天窓がコールテンと返歌もせきに一首を吐けば又一人が「元た天窓を帽子でかくし外飾でないとうその皮」といひつれも唱吟の妙なるに計らず一興を催ふしたりと

▲平尾氏の停車場廣告　小町水ダイヤモンド歯磨本舗平尾善平氏に業務擴張の爲め曩に奥羽地方を巡回し各停車場へ錦板廣告を掲示せ後續いて信越地方へも同樣掲示中なりしが是も已に落成したるを以て今度の東海道筋より大阪以西へ着手の見込なれど本年も最早餘日なきゆゑ先づ静岡まで迄を完了し他は來春早く設計の筈なりと云ふ

▲信越線の休止　例年冬期に際し降雪の爲め運輸の進行を妨害する憂あるを以て去る一日より休止する筈なりと云ふ

▲意匠會誌　雖て本紙上にも記載せし彼の京橋区弓町十九番地へ新設の日本意匠會に於て此程同會誌第一回（菊桐の卷）を發刊せしが流石に意匠家諸氏の手に成れる事とて我が人眼に易に其紙点を見出す能は ず卷頭第一先づ佐野常民伯の題字を掲げ續て前田香雪氏の序文福地櫻痴居士の綺會趣意書等あり夫より本文に入りて各意匠家の考案に係る新圖數種を美麗彩色摺を爲し尚參考としている古代菊桐の模様數十種ありいづれも木版彫刻の上に近頃稀なるの美術雜誌なり若し之を染物織物彫刻蒔繪陶漆器其他百般の工藝に應用せば其稗益する所尠からざるのみならず又一層の進歩を見るなるべし定價一冊三十錢該卷

▲輝り郵税は發行所にて自弁すると云ふ

▲柳翁追善會　故成島柳北翁十三回忌の追善會を冬期恢々俳會を兼ね去廿九日新橋出雲町の多川樓に開かれたり今當日の模様を記さんに同樓三階大廣間の正面には柳北翁水彩畫の遺子成島復三郎氏を描き酒饌を供し其前には翁の遺子成島復三郎氏の左右に別れて着席せし來會者い左の如し

稻田　政吉　磯部　節　嚴谷　季雄　西森　武城　伊藤　清勝
大槻文太郎　沼田　篤　大江　孝之　川村　惇
田口　卯吉　互井清太郎　坪谷善四郎　中川　毅
永島今四郎　中島　勝義　内山　正如　内田福太郎
中井　博愛　山田福之郎　野田一郎　黒岩　周六
巽木幸之助　森　貞一　小林慶二郎　森田　文藏
後藤　昌文　森田　良一　（イロハ順）

出席者い總計三十三名にして藉家が柳翁追善の詩歌並俳へ席上を開筵せる経緯と共に一段の興を添へ宵過の頃詩に席上を開筵せる経緯と共に一段の興を添へ宵過の頃詩に席上を開筵せる経緯と共に一段の興を添へ宵過の頃詩に席上即興の聞詩あり尚ほ杯酒の歡を盡して各々散會したるは午後十時頃なりしと

▲滿留壽商會の正價會　彼の陶磁器の製造販賣に如強家を以て有名なる京橋区新堀一丁目滿留壽商會加藤助三郎氏い毎年年末に當つて正價會なるものを開き家製の陶磁器及び諸國産の同品をも陳列し之に正價を附して廣く同業者に販賣するを例とせり之に反して本年も亦去二日形町通り金清樓に於て之を開らしに其盛んなること近年殆んど其比を見ざる程にして開場は午前九時よりの來客なりしにも拘らず後れて い他に例せらるゝの賛成あるものの考へなるか鼎れも夜の明るを待兼て六七時頃より敷十名の來客あり爲めに加藤氏を始め店員等もろく〳〵朝飯さへも喫するの餘暇なかりしと以て其盛會なりしを推知すべし

▲青山松風堂君の謝辞　赤坂區青山南町なる商工業者の組織に成れる東京商業組合の惠勢として征清分捕パイプ一個と同唐筆一本に鄭寀若干を添へて寄贈を賜へり依て略儀ながら紙に記して其厚意を深謝す

帽子類洗販賣
M
沼倉商會
東京日本橋區大傳馬塩町二番地

○貴顧紳士需必の香料廣告
人造麝香
大瓶價六拾五錢
○小瓶價三拾五錢
○北他香料原料に用ゐる七匁五分入及び壹匁入あり
○新小瓶價三拾五錢
○本品は人造麝香の最良品にして高價を博したり常に此人造麝香を携帶せられば總ての惡臭を防ぎ他人に比類なき純良品にして高尚優美の芳香を放ち人に嫌はれず人造麝香の爲めに造麝香の價國製造元より持約輸入品の如き粗悪品にあらず今日迄に於て

▲新たな歌御會始の御題は「松影映水」なる旨仰せ出され詠進書式並びに期限等は左の通り定められる

八日と之を以て宮中に執行せらるゝ歌御會始の御題は

料紙　檀紙書式杉原紙を用ふべし

但し檀紙遠近の分は美濃紙を用ふるも苦しからず

且詠進期限は一月十日迄

竪　詠　草

御　題

名上

但し五ツ折

裏面書式

茨城府下茨城郡市村町住士族又は平民

苗　字

名

官勤功績及其時代に記載すべし面字上に記載すべし

▲改正條約の消息

記載は最早ご存知の所なれども日西、日墨、日伯の三條約の如き其進行殊によろしく遠からず遂に着手に至らんとの事なれども我が條約改正の大業も既に終局するならんと云へり

▲貿易品陳列場　農商務省にて本年より向ふ五箇年を期し海外各地に於ける我領事館の攝内に國産の貿易品を陳列し廣く縱覽を許し出品の使用法より効用、雅致、巧拙及び意見を聞かしめ以て我國貿易の發達を計らんとすることゝ豫て世人の知る所なるが同省にては本年は差當り右見本を墨西哥、孟買、ヂャヂサ、沙市、浦鹽、新嘉坡の六箇所へ送ることなるが右見本の内上方は先頃既に東京、大阪、京都、名古屋、横濱、長崎、神戸の商業會議所に依頼せし所に依れば大抵各地より同省へ送り來りたれども右の内には寄附に係るものも頗る多きよしなれども同省内にては内國の陳列館も多分本月十日頃より開館の筈なりと云ふ

▲五二會、共同販賣所　京都五二會本部内後藤内貴、甚三郎專任理事中安信三郎の両氏外六十八名が發起人となり豫て農商務省へ出願したる五二會共同販賣所は此程認可になりたる由なり

▲鷲甲　該品は赤道に近き太平洋に最も多く產し南洋貿易品の一に數へられしが近來鷲の捕獲盛んなるが爲め次第に產額を減少し二三年前までは航船毎に二三百斤は歟かさず積み返りしも當今は百斤以上積み歸ること稀なり然るに一方にては數年前獸類風流行の爲め鷲甲の櫛、笄などの一時廢んとせしに近年曾に復し此等の裝飾品流行するに至りより需用の勢益々增加するの有樣なるを以て鷲甲の騰貴の兆かれず と云ふ

▲停車場の混雜と旅客手荷物　我國の鐵道に就て改良すべき點多けれども其中にて旅客に取りて最も難儀に感ずるは停車場の中にて手荷物を持て運ぶ人車を停車場入口に乘捨て切符賣場に至れば多數の人の押し合ひ奔し合ひ爲め所持の鞄は益所なく又幸うして切符を買終れば是より切符改所に所定を通りて客車まで到る間の苦しさ、押し揉され踏み倒されて又廻の中を辛くも潛り透けて客車に飛込みポット一息つくまでの辛さは勇士が千軍萬馬を研拔くると同じ事なり故に婦女子又は老人等に至りては其困難苦痛思ひ遣るべし停車場の當局者も成る可く其困難の人々には保助を與へんと思へども如何ともする能ず當惑し居る由然るに米國紐育の中央大停車場には レッドメンと稱して赤い帽子を被りたる驛夫數多ありて旅客の出入毎に其荷物を携へ客車の便利一方ならず今は歐洲各國共に此制に習ふといふ尤も此レッドメンは鐵道局より給料を得たりて非ずして旅客より運び賃を取るのなれば其費錢甚だ安き爲め旅客には甚だ便利にして多數の人昇降する停車場ならば旅客一人に付き二三錢の手數料をとりても七八人のレッドメンは猶相應の收入はあるなるべし

▲改正條約の消息　日墨條約の交換結了の前号に記載すべき如く最早ご存知の所なれども日西、日墨、日伯の三條約の如き其進行殊によろしく遠からず遂に着手に至らんとの事なれども我が條約改正の大業も既に終局するならんと云へり

▲貿易品陳列場　農商務省にて本年より向ふ五箇年を期し海外各地に於ける我領事館の攝内に國産の貿易品を陳列し廣く縱覽を許し出品の使用法より効用、雅致、巧拙及び意見を聞かしめ以て我國貿易の發達を計らんとすることゝ豫て世人の知る所なるが同省にては本年は差當り右見本を墨西哥、孟買、ヂャヂサ、沙市、浦鹽、新嘉坡の六箇所へ送ることなるが右見本の内上方は先頃既に東京、大阪、京都、名古屋、横濱、長崎、神戸の商業會議所に依頼せし所に依れば大抵各地より同省へ送り來りたれども右の内には寄附に係るものも頗る多きよしなれども同省内にては内國の陳列館も多分本月十日頃より開館の筈なりと云ふ

▲鷲甲　該品は赤道に近き太平洋に最も多く產し南洋貿易品の一に數へられしが近來鷲の捕獲盛んなるが爲め次第に產額を減少し二三年前までは航船毎に二三百斤は歟かさず積み返りしも當今は百斤以上積み歸ること稀なり然るに一方にては數年前獸類風流行の爲め鷲甲の櫛、笄などの一時廢んとせしに近年曾に復し此等の裝飾品流行するに至りより需用の勢益々增加するの有樣なるを以て鷲甲の騰貴の兆かれず と云ふ

▲停車場の混雜と旅客手荷物　我國の鐵道に就て改良すべき點多けれども其中にて旅客に取りて最も難儀に感ずるは停車場の中にて手荷物を持て運ぶ人車を停車場入口に乘捨て切符賣場に至れば多數の人の押し合ひ奔し合ひ爲め所持の鞄は益所なく又幸うして切符を買終れば是より切符改所に所定を通りて客車まで到る間の苦しさ、押し揉され踏み倒されて又廻の中を辛くも潛り透けて客車に飛込みポット一息つくまでの辛さは勇士が千軍萬馬を研拔くると同じ事なり故に婦女子又は老人等に至りては其困難苦痛思ひ遣るべし停車場の當局者も成る可く其困難の人々には保助を與へんと思へども如何ともする能ず當惑し居る由然るに米國紐育の中央大停車場には レッドメンと稱して赤い帽子を被りたる驛夫數多ありて旅客の出入毎に其荷物を携へ客車の便利一方ならず今は歐洲各國共に此制に習ふといふ尤も此レッドメンは鐵道局より給料を得たりて非ずして旅客より運び賃を取るのなれば其費錢甚だ安き爲め旅客には甚だ便利にして多數の人昇降する停車場ならば旅客一人に付き二三錢の手數料をとりても七八人のレッドメンは猶相應の收入はあるなるべし

第三回目國勸業博覽會に於て褒賞拜受

大阪賣　製造本舗　東京新橋　福原資生堂
一丁目　喰町　平尾銀坐　佐々木

(煙製小器金十五錢)

(煙製大器金二十五錢)

粉製金十五錢

各石鹽製造元　澤井栖蝦

東京市神田區江川町拾弐番地

特約大販賣　東京市日本橋横山町壹丁目　天野源七

内外各種　石鹹

化粧洗濯用　軟質石鹸
軍艦用　水石鹸
船舶用　水石鹸
海軍用　水石鹸
銅線用　水石鹸
水彩畫用　水石鹸
香水　香油　石鹸

製造及販賣

◎貴來ノ花主諸君

目録進呈

◎新規開業ノ諸君

東京南鹽町　電話番七ノ六八番

棋香堂

鹽保課

◎賣捌上御便利の爲五百個以上御尊名を書加申候

◎東京小間物卸商組合

本品は化粧料にして其名の如くはだの荒る事を知す潤ひ、もしやけ等に奇効ある旨征清軍人諸君より御懇篤ある趣状を寄られしは特に弊店の名譽とする所なり●本品の定價は一錢と二錢

特約御賣致候間便宜御注文

東京市日本橋區通三丁目十七番地化粧品賣捌店

若菜屋兼吉

都の花

天下無比衛生的顔料優等化粧品
芳香馥郁白美艶麗頗有効靈妙奇劑

雙白粉價
金十錢　水白粉價
金廿錢
金五十錢　金三十錢　金十二錢　金六錢

製造發賣　東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地　東京莊園堂　齋藤泰助

江川商廛賣品廣告

◎鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
◎船來最上黑茶本ゴム櫛各種
◎船來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
◎船來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ曾テ米國幷ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々相撰廉價ヲ以テ販賣仕將ニ層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區横山町二丁目六番地
發賣元　上總屋　江川金右衛門
本舗　同町十四番地（電話千六百十九番）
小間物問屋　同　支店

花王白粉

新製完成やうど我常よ
南風を給ふ口中さやはして
口熱を消ー奇しめる効あまて
傷生上有益の佳品なり

製造發賣元　東京通壽ほ町　大和屋小兵衛

定價
小瓶四錢　中瓶六錢　大瓶八錢
新大瓶拾三錢　極大瓶二拾錢　別大瓶卅五錢

東京日本橋區横山町二丁目
製造發賣本舗　脇田盛眞堂

◎販賣所ハ全國至ル所ノ賣藥店小間物店ニ有リ

美人粧に高評博したる化粧品大王

西洋各國にて大流行の賣に奇妙なる「無毒せる御潤化粧」別鎖ふまろいの一名透明水白粉
原品直輸入
獨乙イスキング會社

定價（金貳錢）一箱（金拾五錢）十五包入
特約大販賣店　伊勢吉　横山町
開花堂　深川仲町
帝國堂　銀座
大與　横山町
井筒堂　佐々木　横山町
三寶堂　森下町
脇田　横山町
德樹　横山町
丸善　横山町
三勇　横山町
柏善　横山町
三善　横山町
花王堂　金
萬　金
守田
右特約店ハ弊店同樣割引仕候間多數御用向奉願上候

十箱以上割引　看板（一枚拾錢）

製造發賣元　大和屋小兵衛

定價　大瓶二十錢　中瓶十四錢　小瓶七錢
別製　五十錢　三十錢

◎此別嬢はしろいの一目見れば只の消水の如くなれども不思議にいろを白くする事雪の如く玉の如し行水湯のかりかゝみを用ひすして其場ですぐに用ふるとも決してひりにならず○あせ疹○ふきで物は立所にさるがゆゑにこれを用ひ玉はゞ人一倍の光彩を放つ

化粧品小間物商磨問屋
東京市日本橋區横山町三丁目一番地
白光散本店
特約代理店　三橋兎喜次郎製
大坂道修町三丁目
關西代理店　天野源七
賣藥卸賣株式會社
全國至る所の小間物店及び藥店に販賣所あり

鶴の噂

第十八回　一瓢子稿

絶えて久しく物語りも子ハ時の移るを知らず遙なる昔しの事ども思ひ出して涙ぐみ給へば、母ハ是れ迄に世に在ては共に語り明し、雨もやう〳〵晴れたれば老僧はやをらと起て朝飯の支度を調へ食事終りて、考世の親の心ハ哨にあらねども子を思ふ故に迷ふと云ふ赤薬衛門の歌に見えたれども親に子故の哨に世を捨て古乃公でもち思ひ迷ふ事ハ日としてはない能く顔を見せて呉れた是で死ても遺憾ハない と眺多度振返して嬉し涙に霧るのみ思ひハ同じ兵藏も二十餘年の星霜をいつかハ質に変遷して母の事を も聞くえばやと切りに望みム居りたれば其本懐ハ云はんち方なく智時なりとも事ハんものをと勝手元に下り立ちて手鍋探もを而白し老僧は見て打微笑考マア〳〵夫ハ御かすとも能い我子ながら二十餘年ぶりの珍客なれば謡をかに致して清まん先づ此處へ來て而白い噂しでも聞かして呉れ時に前夜其方の噂にハ其方ハ高山氏方にて生長り雛やらの養子になつたとか聞たが何と云ふ人であつたかな 兵ハイ主君駿河守の剣道のゆ指南稲川兵太夫とアますと聞くより老僧ハ何とや云はんとせし夫とあらぬ体 考シテ其兵太夫殿ハ今にハ壮健で渉坐るかの、此話に兵藏は鼻打かみ 兵左ハは養父が壮健で居ります事なら私しも主君の御暇を賜ハつて斯樣に流浪致さずも能い事なれ何とぞ致しませう養父兵太夫ハ四五年跡家の跡目を私に譲り老後の身体を保養の爲め温泉へ罷越して湯治を致して居りますうち上州明石の武士とやら菱川軍藏濱崎仙右衛門と申す両人の者刀の鑑定から恨みを猶へ遂に両人の爲に暗殺されました 兵ハ主君の御ハ慰さめかねて悔恨たり兵藏は又ハ言葉を弦さ 兵壁に耳 弈れ盡て染る韓紅秋の錦を地に敷き詰し紅葉と 紅ハ永の別れを乞ひ涙を受けて暗ま刀下の鬼とまなつたる養父の無念を晴させん爲め此年月を旅に暮し右両人の所在を探して居りますが未だに手掛りも御坐いませんと涙を呑んで物語る老僧ハ慈と落附顔 考イヤ斯樣な事ハ左樣急てハ却つて往んもない氣を永くして待つうちに必らず知れるに相違ない然しながら道がに故兵太夫殿の お眼鏡に叶ひなれあつて天晴の心掛け乃公も蔭あから喜ばしい 丈 兵ハ云ふ産の親より育ての親養育の恩ハ産んで呉れた恩より百層倍も優つて居るから必らず疎そかに致してハならんよしんバ此處に産の親があつて其親が養なひ親の仇敵である事ならば美人事其産の親を打果たし養ひ親が草葉のかげの御無念を晴らしヤさせハ相成らん産の親ですら其通り況して其菱川軍藏濱崎某両人の如きハ見付け次第に其刀を以て真此通りと云ひながら傍へに有りし兵藏の刀を取り鞘を拂んで見たるが逆手に持つて我と吾が脇腹グザと突立てれば血汐ハサッと迸る 兵ハ 考 其名にて不審ハ晴れたであらう幼者の源之丞一旦京より旅路へ歸り間もなく濱崎の家に養子となり即ち其名の仙右衛門同じ家中の菱川と ふと連立て有馬へ參り其方の養父の兵太夫殿に 附顔 考イヤ斯樣な事ハ左樣急てハ却つて往んもない氣を永くして待つうちに必らず知れるに相違ない然しながら道がに故兵太夫殿の お眼鏡に叶ひなれあつて天晴の心掛け乃公も蔭あから喜ばしい 丈 兵ハ云ふ産の親より育ての親養育の恩ハ産んで呉れた恩より百層倍も優つて居るから必らず疎そかに致してハならんよしんバ此處に産の親があつて其親が養なひ親の仇敵である事ならば美人事其産の親を打果たし養ひ親が草葉のかげの御無念を晴らしヤさせハ相成らん産の親ですら其通り況して其菱川軍藏濱崎仙右衛門と申す両人の者刀の鑑定から恨みを猶へ遂に両人の爲に暗殺されました 兵ハ主君の御ハ慰さめかねて悔恨たり兵藏は又ハ言葉を弦さ 兵壁に耳 弈れ盡て染る韓紅秋の錦を地に敷き詰し紅葉と 紅ハ永の別れを乞ひ涙を受けて暗ま刀下の鬼とまなつたる養父の無念を晴させん爲め此年月を旅に暮し右両人の所在を探して居りますが未だに手掛りも御坐いませんと涙を呑んで物語る老僧ハ慈と落附顔 考イヤ斯樣な事ハ左樣急てハ却つて往んもない氣を永くして待つうちに必らず知れるに相違ない然しながら道がに故兵太夫殿の お眼鏡に叶ひなれあつて天晴の心掛け乃公も蔭あから喜ばしい 丈 兵ハ云ふ産の親より育ての親養育の恩ハ産んで呉れた恩より百層倍も優つて居るから必らず疎そかに致してハならんよしんバ此處に産の親があつて其親が養なひ親の仇敵である事ならば美人事其産の親を打果たし養ひ親が草葉のかげの御無念を晴らしヤさせハ相成らん産の親ですら其通り況して其菱川軍藏濱崎仙右衛門と申す両人の者刀の鑑定から恨みを猶へ遂に両人の爲に暗殺されました 兵ハ主君の御ハ慰さめかねて悔恨たり兵藏は又ハ言葉を弦さ 兵壁に耳 弈れ盡て染る韓紅秋の錦を地に敷き詰し紅葉と 紅ハ永の別れを乞ひ涙を受けて暗ま刀下の鬼とまなつたる養父の無念を晴させん爲め此年月を旅に暮し右両人の所在を探して居りますが未だに手掛りも御坐いませんと涙を呑んで物語る老僧ハ慈と落附顔 考イヤ斯樣な事ハ左樣急てハ却つて往んもない氣を永くして待つうちに必らず知れるに相違ない然しながら道がに故兵太夫殿の お眼鏡に叶ひなれあつて天晴の心掛け乃公も蔭あから喜ばしい 丈 兵ハ云ふ産の親より育ての親養育の恩ハ産んで呉れた恩より百層倍も優つて居るから必らず疎そ

かに致してハならんよしんバ此處に産の親があつて其親が養なひ親の仇敵である事ならば美人事其産の親を打果たし養ひ親が草葉のかげの御無念を晴らしヤさせハ相成らん産の親ですら其通り況して其菱川軍藏濱崎仙右衛門と申す両人の者刀の鑑定から恨みを猶へ遂に両人の爲に暗殺されました 兵ハ主君の御ハ慰さめかねて悔恨たり兵藏は又ハ言葉を弦さ 兵壁に耳 弈れ盡て染る韓紅秋の錦を地に敷き詰し紅葉と 紅ハ永の別れを乞ひ涙を受けて暗ま刀下の鬼とまなつたる養父の無念を晴させん爲め此年月を旅に暮し右両人の所在を探して居りますが未だに手掛りも御坐いませんと涙を呑んで物語る老僧ハ慈と落附顔 考イヤ斯樣な事ハ左樣急てハ却つて往んもない氣を永くして待つうちに必らず知れるに相違ない然しながら道がに故兵太夫殿の お眼鏡に叶ひなれあつて天晴の心掛け乃公も蔭あから喜ばしい 丈 兵ハ云ふ産の親より育ての親養育の恩ハ産んで呉れた恩より百層倍も優つて居るから必らず疎そ

しかコハ何事と振狼ふれば老僧ハ徐かに押止の涙滴りかゝる血汐を押へて苦しき息をホッとのさイヤ〳〵感ぐには及ばぬ氣も狂はねば心も離れず親の仇にハ俱に天を戴かず君の仇にハ俱に地を踏まず 考 其ハ何故に 兵 其ハ濱崎仙右衛門を打取て其方ハ嘸かし本望で あらうとの仰 考 其ハ何故に 兵 然らず父上が何故に 考 濱崎とは 考 其ハ不審サコ〳〵何を隠さう乃公こそハ摭州有馬の温泉にて其方が養父の兵太夫殿を殺害致した仙右衛門其証拠ハ那なる位牌と雲へる手もて指さす兵藏ハ不審晴れねども指さす儀に佛壇の戸帳を開けて取出し一基の位牌を更見角見れば表に同の一字を書き下に お歌と兵太夫の名を記し裏に仙右衛門の名を記して廻回の香り馥郁なる其名に疑がひ容る可くもなければ兵藏ハ唯面おされに呆れて茫然夢に夢見る心地 考 其名にて不審ハ晴れたであらう幼者の源之丞一旦京より旅路へ歸り間もなく濱崎の家に養子となり即ち其名の仙右衛門同じ家中の菱川と ふと連立て有馬へ參り其方の養父の兵太夫殿に 附顔 考イヤ斯樣な事ハ左樣急てハ却つて往んもない氣を永くして待つうちに必らず知れるに相違ない然しながら道がに故兵太夫殿の お眼鏡に叶ひなれあつて天晴の心掛け乃公も蔭あから喜ばしい 丈 兵ハ云ふ産の親より育ての親養育の恩ハ産んで呉れた恩より百層倍も優つて居るから必らず疎そ

▲前田氏の餞宴

前田正名氏ハ此程師時博覧會評議員仰付られたる虚實國体を代表して評議員として出席し之を餞宴し同氏の前田正名名代として御受け出席受け出席し之を餞宴し同氏の前田正名名代として御受け出席受け出席し之を餞宴し同氏の前田正名名代として御受け出席受け

▲松方大隈兩大臣の演說　去月廿六日帝國ホテルに開かれし東京商工相談會に於て松方大隈兩大臣の演說されたる要旨左の如し

松方總理大臣の演說　予輩今日經濟界を以て恐慌既に極まれり者と思ふ此度の米國大商會の倒産は戰勝者每に必ず來る者に恐慌の國を以て恐慌を經濟界の發達と云ふ事は實に恐慌の如き恐慌を利用して以て經濟界の發達を期すべき可きなり諸君宜しく此の意を諒せられて今日以降商界に處られ度しと云ふ

大隈外務大臣の演說　大要

我邦の外交は從來いかなる地位に國運を置くべきかを考へ出でざるべからず今日の外交は從來の外交と異なり國民の輿論を重んじ國運を進むるの方針を定めざるべからず故に外交の地位を定むるに當りては文武の士を網羅して是れ蓋し國運を開かんとするの方針なり我邦維新の大業を成就するに當りては國運を開かんとするの方針なり我邦維新の大業を成就するに當りては國運を開かんとするの方針なり我邦維新の大業を成就するに當りては

▲臨時商業會議所聯合會決議案

營業稅法改正意見に對する同會の意見左の如くに決定したるに依り此段通知す

右決定したるに付ては大藏大臣へ建議し且帝國議會へも請願するよしなり

營業稅法改正意見

第一　營業稅法の缺點

凡そ稅法を制定するに方りて注意すべき第一要義は課稅方法の簡明にして而かも公平を失はざるにあり苟くも課稅方法にして煩雜に失するならん乎揭り多額の微稅費を要するみならず納稅者は爲めに非常の苦痛を感じ其結果莫に負擔の公平を缺くに至るべからざるの理數なり謂て明治二十九年法律第三十三號營業稅法を案するに課稅方法甚だ煩雜にして加ふるに稅額の負擔公平を得ざるものあり請ふ尙に其然る所以を開陳せん

其一　營業稅法は建物賃貸價格を以て課稅標準の一に定められたりと雖も營業の種類に依りて營業者の目數一定せず且つ隨時增減するも少からず是の如きものを以て課稅の標準とせば其は亦只單に稅目を增加するに過ぎざるなり

其二　營業稅法は又從業者を以て課稅標準の一に定められたりと雖も營業の種類に依りて從業者の目數一定せず且つ隨時增減するも少からず是の如きものを以て課稅の標準とせば其は亦只單に稅目を增加するに過ぎざるなり

其三　營業稅法は又資本金額を以て課稅標準の一に定められたりと雖も資本の多寡は人が營業に對して放下する運轉資本の如きは到底觀察知る由なきものなり獨り運轉資本の如き觀察に止らず固定資本に於ても家屋の規模其構造

要するに課税方法の簡明にして而かも公平を失はざるを以て歸旨と爲さゞるべからず

其一　一個人の營業に對して左の標準に依り相當の課税を爲す事

（一）物品販賣業
（二）銀行業
（三）金銭貸附業
（四）保險業
（五）土木請負業
（六）公会員周旋業

右は總金額を課税標準と爲す事
右は賃貸料を課税標準と爲す事
右は賃貸料を課税標準と爲す事
右は物品賃付業　製造業　印刷業　寫眞業　倉庫業　運送業　運河業　機械業　貸物陳揚業　船舶碇繋場業　料理店業　旅人宿業　席貸業
右の收入金額を課税標準と爲す事（本號に列記する營業以其課税標準同一なるも其税率に至りて夜此通宜に差異を附するを要す以下各號亦同と）
勢力請負業
仲立業
代辨業

右は報償金額を課税標準と爲す事

前記の如く營業税法を改正するに於て内閣に課税上煩雜の弊あり且無益の經費を殆ども得べきの税上煩雜の弊あるは本公平の課税を爲すに最も手數を要すと雖ども其所得を現金に換算するに在て一個人に比すれば其所得を爲すに幾多煩雑なる手數を要すと雖ども何ぞ故に其税額の多寡を容易なるものに比すれば其所得を爲すに最も煩雑なる手數を要すべきに依り已むを得ず他に課税標準を求むるに外ならず然るに會社組織の營業に在て内株式會社の分論他の合資、合名會社と雖も一個人に比すれば其所得を爲すに最も煩雑なる手數を要すべきに依り

東京平舎永安製造
香之石鹸
廣告

優香

三日月

菊印

特約販賣東京小間物問屋各店

●陸海軍御用●近頃非常に名高きはみがき

登録

米國シカゴ府……グレード會社製

參印商標粉の彼の米國にて世界に其名高きなる微科學博士「ウイルハム」氏の方剤にして當時シカゴ府に於て非常の名聲を博し紳士貴婦人社會に賞賛せられたる良品なるを以て還回弊店日本一手特約を結ひ洽く販賣す其の衛生上有効なるは扉くも左の諸大家の信認と証明により敢て喋々を要せず

米國シカゴ府　グレード會社製
日本一手特約販賣店　東京銀座二丁目　平尾賛平
英國倫敦　ロンドン大學醫科學博士　ヒ、ヒ、ヒ、

▲はき物

【時事新報】（前号の續）

次に小町形とて菅牛四郎下駄を改良したるものなれども異なる所は臺裏の堀を幾分か精密に改めたると鼻緒の附け可き臺裏の前部なる穴を丙にして外に現はさゞるため穴がないとて小町下駄とは唱へ難いたりとなん然れども穴なるために鼻緒を掛けることの困難一方ならず困難と流行とは永く駄目で立たゞすして目今流行する小町形は幾多の改良を加へて穴を前部に現はしたれども銅片を張り深く包み隱したること面白けれ次に萬年堀として廣くして段の改良を加へ表は南部を附け鼻緒は鹿皮の眞色を用ひ醫師又は老人の間に多く流行し明治七八年の頃まで用ひられれとも極高價の品に至りて現今に至り只其形を存せるに過ぎず然れとも少婦人等に用ふる木履は之より漸次改良し來りたるものなることを忘る可からず

明治の初年より今日に至るまで流行し來るものは以上數種の改良したるものに目下流行の小町形は菅小町形の堀を改めて穴を前に附したるもの臺に横柾と本柾（並とも云ふ）とあり横柾とは目すじの横面を眞直に通りたるもの流行二段小町形は目すじの堀傍に更に段階を附したるもの裏と表とを接して兩者相合するとき堀の横形「もつこう」の紋に似たるを以て「横もつこう」とも云ふ夜咄しは一名流行改良小町形とて矢張り流行小町形の堀を改良したるもの其改良したる所は月の形に似たるを以て月形とも云ふ府下の駄種商、稻荷方にて之を始め流行道島形は菅島形を改良したるものにて以上の數種は表用とつらばき（地下に展くものにて表なしと云ふ）との兩樣あれども表附きの方賞行宜しからんなれば助六下駄を改良したるものの形なりとも之を天保年度の品に比すれば雲泥の差り薩摩下駄は此飛（一名兩掛とも云ふ）の齒高きものなれども飛は兩者の齒相合するとき は裏と裏と縋しく相接するものの薩摩下駄は接合せざるものなり芝櫛は俗に云ふ駒下駄にて飛の前裏を改めたるもの之を用ふるに足るかへりよきため一時流行し之より踵角芝櫛はれ後部を角にして一時奇觀を示したれども重きがために其反動として芝櫛跡絞と唱へ後部に齒を附したるもの現はれ次に飛の齒の出ぎ以上の數種は何れもつらばきを主とし跡齒物には表附きのものあれども賞行剥合に宜しからず流行跡丸形は小町形と道島形とを折衷したるもの、兩掛形にも赤表附のものあり前の飛と同樣なれども少しく丸味を帶び重に表用に用ふるの差あり木履は一名堀りと唱へて專ら婦人の婦女子に愛用さる足駄の內にて大坂は齒の高さ二寸俗に目和下駄と稱するもの、京指は齒の高さ三寸五分內外にして兩天に用ふるもの、其外各個の賞店にて銘々の名を附したる種類多からざれども以上記したる數種を目下の流行物とせ

いつの頃とやありけん淺草の奥山に「古今未曾有の大怪獸」と筆太に記したる看板を掲げサア〜入らッしゃい〜これは此度足柄山より生擒たる大怪獸眼が三ッで齒が二本、甲良があつても手足が見えない古來未曾有のけだもの、水の中から泳ぎ出したはダメ〜と笑ひさまサア〜入らッしゃい〜早いかた徳〜見世先の男滿面に流る〜汗を拭ひ最寸鐵太鼓を鳴しながら盛を枯して怒鳴り立つれど之を見すんはあの可からずと我先勝に木戸錢を拂ひ引幕の內に入りて見るに何ア圖らん盥の中に古下駄を浮めて六〜〜〜させ居るのみなれば餘りの事に呆れて言葉もなき眞實腹は立つものの、喧嘩にもならざれば强腹紛れに出て行きながら手を拍て「これは評判々々、眞の怪獸々々」と却て景氣を附くるより山なす人は押しつ返しつ割る〜詳りに木戸口へ押寄せ入りて入出でつ入出でつ何れも專の意外に呆れ果て評判〜〜と怒鳴り立つるのみにて確しも其正體を云ひ觸らすものなきため滑稽半分の見世

（未完）

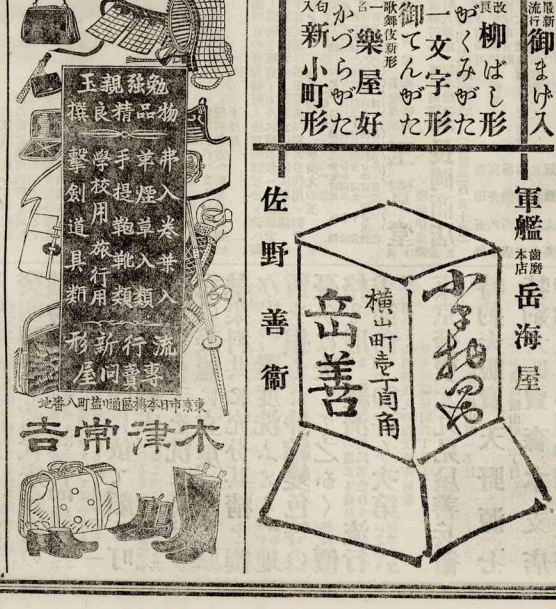
◎儀式用竈甲櫛笄ふ入鬢製造　東京本店　岳海屋

晨新流行御まげ入　改良　柳ばし形　一文字形　御てんがた　歌舞伎新形　一名　樂屋好　かづらがた　句入　新小町形

軍艦齒磨　本店　岳海屋　東京三谷鍛工場內　いせき屋音吉

岳善廣告

佐野善衛



キレー石鹼

此新工夫石鹼ハキレー水の原料を以て調製したる最上石鹼なり

壹打以上七十錢　五十打以上五十錢　五打以上六十五錢　十打以上六十錢　一打金壹圓廿錢　一打以上六十錢

電話本局四百三番　銀座四丁目　佐々木玄英商店　丸善商店　四ツ目屋商店

三個丸筒入　廿五錢　一個拾錢

麝香入一個　廿錢　三個丸筒入

本舗　一キレー石鹼割引　キレー水本舗

發賣元　東京神田花房町　香料翁發賣元　横濱　長者町　秀善堂

特約店　日本橋區通旅町　横山町二丁目　馬喰町二丁目　仙台市大町　大和屋小兵衛　田中花王堂　高尾製平　高甚商店

山崎帝國堂　橋町四丁目　横濱伊勢崎町

反古ホゾベ

▲主從日用條目

作者不詳

▲子息の式目

一幼少の内より手習の讀書の稽古をし十二三歳より筆鉛を賜み習ふべき事

一十五六歳より家業に精を出し奉公人同樣に働くべき事

一遊所は勿論娼妓　婢女其外遊藝がましき事を慎ひべき事

一善友を擇びて交りのしるき友に交るましき事

一遊廓の分限に慮と落花狂雪茶手前等は少く心掛けるべし淨瑠璃其他の藝は無用たるべしと善く戒にても夫に耽りて家業を疎かにすまじき事

一四十歳を過るまでは酒を慎み禍ひの種と心得べき事

一碁將棋其他總ての勝負事は身の仇なりとおもひ努メ一たづさはるべからざる事

一衣服紙入提物花美なる品を好まず公道の掟を慎み守り質素たるべき事

一暇ある折は手習讀書し忠孝五常の道を弁ふべき事

右の外若き内は高を慎むべし世上の若き人の中には我身上のよりか又ハ樣威の稼さあれハ自慢の鼻を高ふし我身を驕り人を直下し三絃淨瑠理なゞを疑習ひたゞすべて女の業を席へ立交り女に思はれんとて身を悪を飾り或ハ悪き友にすゝめられて花街へ通ひ一夜ながれの遊女の空誓文を誠とおもひ現を抜かし通ひ詰りする人あれども間入ず親の物は子の物とは若いうちは二度いなしの樂みをせずして何年すゝき滑稽の數居を踏ねは男の中にわらず入らぬお世話とは心の中にふやきを親が辛苦して儲け為めし金銀を揚水のやうに遣ひ捨はてゝ背櫻の拂ひにつまり雑費多く掛る金を借り義理わろき借金につまりを終には親の勘當を受け仕つけもせぬ手代奉公するか又は他人の内の食客となり今までの奉燈に事變り粗食を喰ふさへ氣兼する身となるも金銀の罰なりされば子息たる人は色と酒とを慎み夜遊び夜更しせず兩親に案じをかけはやう常に心にかけて守るべき事第一なり二男三男たるものは他の家に貰はれ養子となるとも其家の風姑を實の親の如くに事へ身上を讓られたれバとて自分勝手の計ひをもやからず其家を大切に守り奉續をはかるべし養家の衰へとなるは其身の不屈きにして耻辱なり況んや養家滅亡に及ぶは養子たるものゝ大罪なり他の家督を嗣ながら我儘に長じ恩を忘れ我働きと思ふとゆめ／＼おもふべからず實子なゝゆゑに養子となれば高事格別に慎み守ること肝要なり實家養家にかぎらず身代に付讓り受たる金銀を大切にして一圓に家業に精を出さば商賣も繁昌し其身の孝道もたち世間の子息の鑑ともなるべし

▲娘の式目

一娘たる身ハ幼少の内より手習し十二三歳より縫針の業を勵み習ふべき事

一習ひはすとも若しからず暇あるときは女大學其外身の躾方になるべき本を讀むべき事

一高ぶりて髪化粧衣服等は伊達を好まず公道にし常に端近く出ぬやうにし諸事淑少なにすべき事

一男子に心安げにものいはず世間かしこき事を云はず利口立をすまじき事

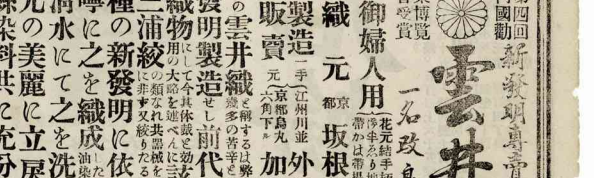
一髪は自身に結習ひ人に手傳はすまじき事

一親の詞に背かず孝行を忘れず兄姉を敬ひ弟妹を憐み下女下雇にも詞やさしく物をいひ假にも大聲して叱るまじき事

一役者の噂　のよしあしを取沙汰すまじき事

一内娘は氣隨氣儘出やすきものなり婆子等をとら大切にし親さの薦身になり貞心を盡もべき事

專賣特許人造珊瑚珠



今般弊舗に於て發賣仕候人造珊瑚珠は以儀に多年研究の結製作者に專特許賣特許を得発明者に專賣にの粹を得た珊瑚珠は毫も異ら寸從如く身と品に無之古渡

織元　都　坂根兄弟商會

（電話三百五十番）

販賣製造　手（江州川並元六角下）　外村新五郎　加納作之助

長岡商店　東京市神田區鷹瑚珠類　須田町六番地　類小間物商　特約大販賣店

玉寶堂　飯塚伊兵衛

東京發賣元丸見屋善兵衛

特約大販賣天野源七

特約大販賣森本支店

特約東京小間物問屋各店

第四回内國勸業博覽會受賞

新發明專賣特許

雲井織

一名政良織ノ子

御婦人用　花元結手拭　帶半ダラ地　▲金入り　帶ハ帶揚

織元　坂根兄弟商會

發明製造　この雲井織と稱する弊店が多年の經驗と幾多の苦辛とを積み淬やく技に

三浦絞　この新發明に依て頗る叮嚀に之を織成し清水にて之を洗ふ時は元の美麗に立戻るのみなら原絲染料共に充分其精を撰び分かるる幾度洗ふとも夫が地質を損し又の伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にして經濟の道にも適し流行季節向何れ何れ御好み次第何卒一度御試用の上陳經御法文の程伏而奉願候

清水　元の美麗に立戻る

絲染料　共に充分其精を撰

織物　用して大略を進べ此に發表し効能は從來に於て氷の如く無色にして目覺しく無增加成に從ひ殊に御愛顧の程何一つ其体裁と効能とを以て編めたる一種の新發明

右の外諸事女子らしく優かたにし假にも遊女役者等の風俗を見習ふべからす世には親のしつけわしく十二三より立ち過ぎ男さへ見れば可笑くなき事をけらく〜笑ひ又はしてはかみて孤手下作なる流行物を買せず櫛髮指も役者の紋のうしを嬉しがりなど居れ誉を得る年に見れば居れば食物を貪り琴三絃には疑れども縫針をさらへ親の詞にそむき假初の事にも顔をふくらしてすね廻り近所隣りて夜遊びし下女下僕を使ふに叱もいしり假初の事を親に告口し又は賢がりて人の事をそしり三日にあげず物見遊參に出たがりなどする娘さい多し是れ皆親のしつけのわしき故なり然所惡き風俗い見習ふべからず育てわろしといへども元い其身の心ばかりわしく親の氣質より出る事にてかやうの娘は容貌よくども見醜のするものにて嫁入して舅姑の氣取も得ずに大につかへる事も疎かにて終には去られ其身は勿論親兄弟の顔をも汚すものあり慎むべし

（未完）

▲たわけ問答●（は問　答は）

▲水を汲たる壺を瓶といふかん
●鍋の手をつゝ云ふがごとし
▲土藏の戸をうち白といふかん
●當分に遣ひ捨る物をゆづり葉といふがごとし
▲せつかいを鍋けて驚といふかん
●蛙の子をかえるを乳母といふがごとし
▲女の腸にあるを玉杓子といふがごとし
●めりけを姜（小）といふて本妻を大と云はざるがごとし
▲酒の席をとりもつ者をたいこといふかん
●世を憚らぬ我儘者を大どら者と云ふがごとし
▲はゞながら指脱といふかん
●足の先さで入れあがらもゝひきと云ふがごとし
▲髪結あつて櫛橫なきといふかん
●髮結あつて佛結なきがごとし
▲白をめぐらせを引とはいかん
●新しき粉を通しを篩（右）と云ふがごとし
▲竹にもあらぬ酒をさゝといふかん
●少しの贈もの物を松の葉と云ふがごとし
▲智惠の足らぬ足らぬを九十九文といふかん
●嬰ゝ育ちを三百安といふがごとし
▲米を入れて搗ならずから臼といふかん
●一斗たらず入れて千石通しと云ふがごとし
▲黑染ち古びたるを五〇〇色といふかん
●丸ばかりの紋所をこゝろもと云ふがごとし
▲句もなき物を丁子やきといふかん
●聞にいたいらもぜぬに烏帽子餅といふがごとし
▲不穢ひの口譯を淨瑠といふかん
●腹立顏を饒面作ると云ふがごとし
▲烏にもあらぬ地名を自白といふかん
●茶にもあらぬ烏を五〇〇〇と云ふがごとし
▲水をくむ器を掬（水）抄といふかん
●木鐵で造りながら鐵（土）といふがごとし
▲人の腸より下を腹（原）といふかん
●人のうしろを海川ならねど脊（瀨）と云ふがごとし
▲二ッ供へて神酒といふかん
●一ッともして燈明といふがごとし
▲人の自慢しるを味噌といふかん
●よく働く人をまめといふがごとし
▲江戸生れの氣ちがひを狂人といふかん
●大坂新町の銀城を東といふがごとし
▲水の出入する門を樋の口といふかん
●旱魃にあふて天水場といふがごとし
▲近道の路路を東海道といふかん
●遠い道を京（今日）大坂と云ふがごとし
▲側に居ながらいぬ（居ぬ）といふかん
●けいはく者を張ものと云ふがごとし
▲橋の鐵物ならぬ草花を植うしといふかん
●官女を持ぬと檜扇と云ふがごとし
▲水車にもあらぬ水仙といふかん
●里にあれども山吹といふがごとし
▲材木屋にあらぬ瓦屋を白木屋といふかん
●縮ばかり寶らねども越後屋といふがごとし
▲老人のあたるものを百（子）燈といふかん
●眞中にけいて炭（鬼）火と云ふがごとし

パイプ製造元
ライスペーパ各種
薄荷パイプ材
舶來パイプ問屋
東京市日本橋區通り壹町四番地
（但し壹店前向）
菅谷爲吉

諸品精々
當世金銀洋白鑄髮飾附屬品
問屋
品長
新形萬屋
東京日本橋區若松町四番地
村上伊太郎撰
廉價販賣

初雪
定價（大五錢　小二錢）
近世無比
關西特約大販賣
土州高知播磨屋町
井上作次郎

牡丹香
化粧品
石鹼問屋
東京日本橋區通壹町五番地
山田篤三謹製

高評
優等麝香入
特別練製
發賣元
東京市神田區柳原川岸十八番地
小林富治郎
市内は勿論全國到る處の和洋小間物店藥舗及牛乳店に販賣致し居候間最寄にて御購求を乞ふ
抑此石鹼は世間在來の物と大に其質を異にし練好なる原料に純性麝香を混和せるを以て芳香佳烈一たび用ゆれば皮膚滑かに色澤を加へ一種得ならぬ匂を含み其爽快なる云ふ斗りなし夙に江湖貴紳の高評を博し日一日需用の增加する程實に其名に背かざるを以てなり乞ふ益々愛顧渗試用之程伏而奉希望候

高評
優等麝香入
特別練製
發賣元
東京市神田區柳原川岸十八番地
小林富治郎
優等麝香入高評石鹼
○定價壹號一個廿五錢
○同貳號一個十五錢
石鹼

餘興

●狂歌

橋上雪　槍馬屋

たゝすみて袖打はらふ人もあり
駒止橋の雪の夕暮

我物と思へば見にかゝる橋
はらふもをしき牽の雪

ものさしに積てみれば降雪の
丈もあつぶりある呉服橋　素朴

棚下のかゝらも目老の眼に
かゝる目鼻の橋の上の雪　鶴年

白鷺の島越橋を渡るにも
一足ぬきにあゆむ大雪　露交

常盤でゝ橋の鉄に乳のみ子を
かゝへてゆくり雪の袖乞　何の屋

三昧線の定神橋に歌澤の
もゝ見ぬ人ぞしらさるなり　宇治山人

雨風（五分）寸ばかりゝ積れる雨雪
手形裏垣　手形裏垣

年をへて縁を委の銀ばし
かゝらに白くもるはつ雪　静江

たはむかの氣遣ふまでに積れども
雪をれとてはなき柳橋　駒の屋

豊年の印とぞなりがうらゝ
萬世橋につもる大雪　平野喜雪

降雪は山のいせんと揚肇とは
いてて鋼たつ委見のはし　秋の屋

▲狂詩

飲仙會冬期大會課題七律

詠雪　陰雀詩

一面敷銀諸物香。休裁早替興無遑。　骨皮道人
寒鴉化鶴顔
奇姿。枯木着花亦絶佳。欲作達摩垂鼻子。　難離
蓉陸拭篷傳。豊年瑞兆民欣外。俄有金儲十二階

遊獵

獵銃擬肩終日馳。更無手柄氣根疲。持歸土產果
何物。鹿鹿有藜紅葉枝。

▲小間物商報の口輸に寄せる

青山　松風堂

ふしの根に霞の帶の二重三重
ふしの根に霞の帶の二重三重の口かも

▲東京小間物商業の益々盛なるを祝し
其十字を假り冠を爲す　秦隣山人

阿州
東雲に一整たかし駿鳥　山人
東京さむいの雪よ廻りは雪の山

祝

小家には此花は見す冬牡丹
間をかへて客に成けり燈開く日
物事に先此ことし番ひ鶯鶯
商ひの神を備へて爽子譜
業なから此幸抱や鯉つかみ
盛なる答なり狗の咲
大井川水潤る日や鳴の聲
祝はれて花やかに著る鬪巾哉

○智惠くらべ新題

（年末に付二回相休みす）

▲同第四十號の解

（一）オ、痛（大分）　（二）鍾馗が居す、肥後、伊賀、伊豆

（三）朝顔やかき（柿）をはな（尾花）れて屋根の上

（廣告）
東海道掛川町旅籠屋一樂　●仙台市元柳町江刺小僧
●同掛川町井桁屋朝霧　●同家寄同高橋國坊　●小家寄

衛生齒磨元祖

陸軍御用品

小瓶入　大瓶入　袋入

官様御用

近來類似の飽く迄注意を乞ふ

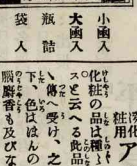
大瓶入　小瓶入　大曲入　小曲入

製造本舗　松本屋　比留間民藏　東京神田區久右衛門町一番地

特約大販賣　東京横山町一丁目　近江屋　天野源七

販賣所　東京小間物商組合中　於テ販賣致候

謹告　各位益御繁榮奇慶ニ御座候ハ、弊店儀業日不盛ニ相成候ハ、偏ニ御愛顧ノ賜ニ御座候ハ、何卒御引立ノ程奉願候



化粧用アイスの功能

化粧品の品は種々あれど、今度新規に發賣の、アイスと云へる化粧品は、今西洋に流行の、秘法を以まへ受け、之に多年の讃驗を併用したる化粧下、色はほんのり櫻色、香ひは梅か薔薇の花、服脂香も及びなく、殊に普通の出來よりは、餘はと濃厚

なを少し許を手に移し、適宜に水を合されて顔手其他へ用ひなば、其功能の不思議なる、色を白くし、艶を出し、潤やかに光るのみか、夏の暑さも日に燒ず、冬の寒さも膚荒れず、柔やかさ、凍瘡も忽ち消て痕を絶つ、世にも稀なる品なれば、淳婦人方も、殿方も、常に淳使用遊ばせと、主人に代りて

骨皮道人述

特約保證販賣　三丁目　東京市日本橋區馬喰町三丁目　故良煉ばらの香本店　武井龍三製

特約販賣　日本橋區馬喰町二丁目　同横山町　平尾

特約販賣　同通　同橋町　山田

特約販賣　同丁目　三橋

特約販賣　丸善

特約販賣　東京橋町四丁目

特約販賣　大坂南久寶寺町

特約販賣　備前岡山市西大寺町

特約販賣　函館末廣町

特約販賣　陸奥弘前市

特約販賣　同　弘前市

特約販賣　同八ノ戸町

特約販賣　越後高田町

特約販賣　陸中盛岡市

發賣本舗　東京馬喰町二丁目　淺井支店

定價　小貝一錢　大貝二錢　雛入四錢

一日本之親玉三升翁化粧傳士先生の近來發明に係る梅一名樂屋にしきの櫻の義は老翁多年練せられたる經驗より精製せ無比の粧一品にして開闢以來に世第一きめをこまかに色を白くし艶をまして玉の肌の如くならしひるゝ勿論常に是を用ふる時は皮膚病及傷染惡疫の病毒を防ぎ以て長命富貴光榮を得る衛生上かくべからざる有功品なり升御希望の御方へもお上に効用速かなる時は偽品に御高評わらゝ事を乞ふ

淺井本店　寺澤三久堂　淺井大澤常太郎　寺澤覺兵衛　加藤内文五郎　關崎藤九新助　野清兵衛　工藤直七　海老屋兵衛　松本與兵衛

廣告

勉強

本舗　日本橋區小傳馬町壹丁目四番地　田村庄太郎

特約東京小間物卸商組合

販賣所ハ全國小間物商藥油店ニアリ

なまりおりおーろん

ちごさくら

此みよ～野の「ちごさくら」は世界無毒性白粉の元祖にて專ら責任帶着賣製造爲ス者ニ候間御安心の上御注文を乞ふ

販賣店　東京小間物商組合各店

關西特約販賣元　大坂南久寶寺町二丁目　寺澤三久堂

特約店　東京淺草區新森田町　みよ～の園

元祖

大日本帝國農商務省御登録濟

東京馬喰町壹丁目

小町水

岳陽堂平尾賛平製

別製大瓶一箱十本入　定價二瓶　廿五錢

大瓶一箱十本入　三十錢

中瓶一箱十五本入　八錢

小瓶一箱廿四本入　五錢

特製品

御便利の爲め正味誂替品も販賣仕候即ち二合入●四合入●八合五勺入●四合入は石油明箱へ十四本入●八合五勺入は石油明箱八本入●但四合入にて小町水八錢賣の瓶に凡廿七八本の誂替に相成申候

本品は世上販賣品と異なり我國にて合剤せざる効驗品を以て製造し身體を害する事なく第一ひゞ●をばすべ●はたけ●たゞし●其外吹出物顔●手足のあれ●ことわをばし●夏日に燒ず●あせ●もなく●ひ等の憂なく眞に潔白美艶となる肌となし

ダイヤモンドの命名に背かず請け御使用上効能を知り賜へ

割引方法

三十打以上五五掛　●二十打以上五七掛　●一打以上六掛

但し三十打以上御注文之御方は一割限り御割引名入美麗なる木箱一枚進呈す又研磨板ブラフ等贈物加入可仕候也

製造元東京平尾賛平

商標登録

ダイヤモンド

一名美容おろい

●信越線并ニ東海道線（静岡附近迄）兩鐵道附込同業者諸君へ謹告スス

十月以來共榮廣告社員中村時明儀弊店製造小町水●ダイヤモンド廣告鐵板ヲ各停車場へ掲示ノ爲出張致サセ候處各地同業者諸君ニ非常ナル御配慮ニ預リ候爲メ意外ニ迅速ニ相濟ミ去月三十日無事歸京致シ候間此段御禮申上候併セテ近日東海道線静岡迄本年中ニ又ゝ出張仕リ候間右同業者諸君中へ參上之節ハ何卒御配慮之程偏ニ願上候也

小町水ダイヤモンド

本舗　平尾賛平謹白

東京市馬喰町一丁目　電話浪花六百五十二番

○オハヨーサンはみがき發行以來日猶淺ーと雖ども品質非凡なるに因り特別の御愛顧を増ー難有奉謝候尚御便利の爲左の特約店設け候間續々其方へ御注文の程偏に奉冀望候以上

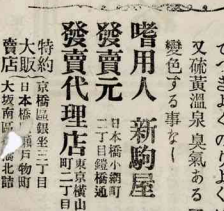
京橋區銀坐　佐々木玄兵衛
全區神明前　松澤八右衛門
芝區三田三丁目　岩本新兵衛
麻布區霞町　田部
本舗　東京市京橋區泰町　全全全
日本橋區濱町田中花王堂
大橋通三丁目　大橋榮堂
村田藤七　若葉屋
川口長吾堂　紅白

●陶器入　半ケ月用　五錢
●金属入　一ケ月用　十錢
三ケ月用　廿錢

電話千五百廿四番

世に齒磨の類多しと雖も此大博士ほど齒肉口中及び齒の有効要を以て精製せしゆえ第一齒を白くし磨滅の害なく衛生上七ツの効を奏す故に大博士の名稱を得たり常に之を使用ひ給へ生涯口中の病を患る事なし江湖諸生家諸君は試用の上有益無比なることを信吹聽の程奉希望候也

◎各地藥店小間物店に有之候御最寄にて御求を乞



嫌　八錢。拾錢。廿錢。特別製　卅五錢
水　八錢。十五錢。　同

○此うら梅おろいは眞正無鉛毒製にしてつきよくのりよくはげをちる事を一又硫黄溫泉臭氣ある所に入るも決して變色する事なー

嗜用人　新駒屋　中村福助
發賣元　赤心堂
發賣代理店　東京横山町二丁目　田中花王堂
特約賣店　京橋區銀坐二丁目　松澤八右衛門
日本橋小網町二丁目鏡橋通　玉置金八
大阪　日本橋一番月物町　中商店
大坂南區北詰　山

毎月五日十五日廿五日三回發行登録郵便金壹錢五厘一ケ年分前金五十錢（全國無遠近料）爲替ハ兩國郵便局　編輯兼發行人　西森

(一)　(第四十三號)　明治廿九年十二月十五日

郵便報知新聞別刷　電信番號可入

東京小間物商報

第弐號

稟告

當商報の儀各位の御引立を以て日に月に隆盛を極め拙に無事第二の新年を迎んとす是全く各位御愛顧の厚きよ因り候儀と深く奉感謝候就ては右御厚意に酬んが爲め來三十年一月五日初刊の第四拾五號は通常拾六面を倍して三拾二面と爲し之に當今有名の畫伯小林清親翁の揮毫に係る

文長金紙　美麗錦繪大附錄

を添て進呈仕候間不相變御愛讀の程伏而奉懇願候

尚本号は數拾萬部を增刷して全國一般の同業者へ配布致候儀に付隨て廣告も大幅湊の豫算に有之依て本号に限り規定の廣告料を引下け一行金六錢の割を以て掲載可致候間御年賀其他總ての廣告御依頼の御方は來る二十日迄よ前金相添へ當發行所へ御申込有之度候也

東京小間物商報

發行所

雜報

（禁轉載）

▲櫛類の部　黄楊四寸以下三五位の廻髮物相變らず上向にて品不足、四五、五寸、鼈甲、利休物も少

▲ケヅヘの賣行　櫛ケヅし　五寸利休及び三ツ組物、四五、東形、四五丸、四二、四寸、三八、三五、三二鼈甲物大に向よし

▲新賣場能代　四寸以下三八、三五物新丸大に向よし黄楊の類も右同樣四寸以下の物賣口よろし

▲塗櫛　肉色、紫色、鰻色、栗色、ゴム、茶色、溜色其他各新形塗物三八物にて鼈甲丸絵付及び文字刷物相變らず上向、子供櫛に異形、新形、お初、田之助、月形物、茶塗にて絵付物大に賣口よし

▲竹虎櫛　地黒來、鎌刀木、黒檀、紫檀、蝶、白耳の類にて二〇より五六〇位の品相變らず向よし

▲毛筋立　黄楊製二五、二二、二寸、寸八、寸五等の物にて品川形及び給形物相變らず同京立は二寸以下、寸五位の品川形上向、髮揚及び元結通しも右同樣賣口よし

▲鍔の類　塗縁、桑縁、金縁等にて四枚引、三枚引、二枚引、一本、一枚の物相變らず向よろしく、塗縁及び金縁相形牛枚引は少々づゝの賣行なり

▲天眞鍔　六寸、五寸、四寸、桑鞘、五寸、四寸、桐鞘一枚引、六寸、五寸、四寸、三寸、いづれも賣口よし

▲懐中鏡　舶來厚ガラス上中下並物、絵付さし込上中下及び二枚折絵付大形入等向よし

▲シャボン入　硝子製、竹製かご、真鍮、トタン色板其他各種新形物あり何れも賣口よし

▲はさみ紅　五寸、四寸、前茶、大王川、唐草等賣口よし

▲附櫛　綿入、耳綿、綿なし、中厚、丸櫛形にて極大大々、一番、二番、三番物大に賣行あり、唐人髷五番以下入丸番位の物上向

▲丸櫛形　燈心入、司、極大、大々、一番位の物上向、並綿入、厚形、薄形物右同樣

▲かご髪　細三ツ組物及び中筋一番、二番、三番切たば、一番、二番等の賣行あり

▲楊枝類　角ブラシ上中下、鯨、水牛、舌こき付上中下、竹楊枝、光毛、並毛、ゴムぬり、蠟塗白生地等三行物上中下賣口よし、小楊枝ハ東都、江戸、丸皮付、平綿入、袋入、上中下、其他新形各種いづれも賣口よろしく羽楊枝、房楊枝、寒木は相變らず品切にて間に合ず、象牙小楊枝は上中物賣口よし

▲掛物類　金原紙付、一號より八九號まで金縁、極太、太、中、細、金蛭、太、中、細、絵蛭、太、中、細、絵蛭、太、中、細、絵蛭、中、中、白蛭、極太、太、中、細、絵蛭、太、中、細、絵蛭、平たち、蜻蛉、蝶、大、中、虎、拍打、房付新形、大、中、小、金種、新形物、縮緬、くけ紙、友染、無地、房付、房なし、細、女紙、無地、房付、房なし、太、細、いづれも賣口あり、細よりの糸物、金物、金花山、吉原より、新四段、金銀角捻、中物、房付上、花かけ結物、水仙、梅、梅柳、蹴鞠、輪飾の類新形流行、花かんざし、季節物にて梅、椿、水仙、鼈甲草、泡老、輪飾、柳、蹴鞠、蹴玉、羽子板、鞠鞠の大房物、大、中、小、いづれも賣口よし

▲ゴム花かん　お染菊、大、中、小、房付物及び梅、菊、牡丹などの向ふ差類向よし

▲針打留ざし　ポッ〳〵の賣行

▲手拭の類　糸あみ、安田、三升織、毛糸、並、金入、金なし、モス、金入、金なし、メリンス、なまこ、環珞織、羅紗絞り、縮取、ながひ、花絞り、鹿の子、京絞、角なと最も賣行よし

▲瀬川の類　縮み物上中下、木綿賣、紙綿賣、蠟引等相變らず向よし

▲玉根かけ類　本ゴム、砂玉、其他色變物、かうス、煙玉の類相變らず賣口よし

▲廣告料　五號活字廿二字詰一行三回迄拾錢四回以上六回迄九錢七回以上八錢

發行所　東京市日本橋區蠣殼町七番地　東京小間物卸商組合事務所

本組合録事

◉組合員轉居　都ゐか製造元松井助丸若夫婦は從來日本橋區米澤町に住居の處今般都合により淺草區馬道町七丁目三番地へ轉居の旨新出ゐもたり

◉政府委員　第十議會の政府委員は左の如く内定せられたる由なるが此外頗る時に政府染の出る毎に其主任者の之を命ぜらるゝことあるべき由なれば今の事なり

法制局長官　神鞭知常
通商局長　藤井三郎
鉄道局長　古市公威
大蔵省官　田尻稠次郎
内務省官　松平正直
主計官　田尻稠次郎
主税局長　田尻稠次郎
内務省官　松平正直
主計官　田尻稠次郎
陸軍主計官　長谷川好道
海軍主計官　伊藤雅吉
陸軍省官　見玉義太郎
海軍省官　横田國臣
司法省官　横田國臣
文部省官　牧野伸顕
農務局長　酒匂常明
逓信省官　永井久一郎
文部省官　牧野伸顕
内務省官　松平正直
主計官　田尻稠次郎
内務省官　松平正直
主計官　田尻稠次郎
内務省官　松平正直
主計官　田尻稠次郎

▲東京商業會議所臨時總會　東京商業會議所にては去九日午前十時より役員會議を開ひたり出席員は議長澤柴一、奥三郎兵衛、梅浦精一、中野武營、加藤治郎の諸氏にして臨時總會は同日午後四時より開會され正午散會せり同總會提出の議案目は左の如し

第一號　臨時商業會議所勝合會の結果に關する委員報告の件

第二號　改正條約實施準備に關する農商務大臣より照會の件

第三號　海外貿易上金融機關に關する報告の件

▲小銀貨の缺乏　近來小銀貨の缺乏せるは何に因て來りしかと云ふに單に軍用金として支那朝鮮等に使用し彼の國人の懷に入り歸り來らざるものも少からず殊に過ぐる高も少なからず殊に軍用に使用し剩合小銀貨は增すして需用は一般に加はるに反し折衝近來は各地手形取り引き常に減じて多くい現金取り引きとなりたるなども缺乏の原因となりたるなるべし殊に九州地方に缺乏甚しき石炭坑夫などに支拂ふもの多く其支拂ひたる小銀貨は汽車賃などにて一停車場に流し或いの舞貨物の代金として外出し或は米は上作にして一般に非常に好景氣なる爲に多少農民の貯蓄となるものもあるべし各炭坑に於て其坑夫に支拂ふ金高は餘程の高なるべく現に三池炭坑の如きは一箇月の支拂高四五千圓いづれも小銀貨をもてするものなるに之を大坂の銀行に請求して東京に送附するも一口に二萬圓の大口となれば其需用に應じ得る銀行なくして月末の支拂ひに困却するに至るべしと云ふ

▲陳列館の開會延期　農商務省の貿易品陳列館は本月十日より開館し縱覽を許す筈なりしも餘す所の日數僅なるにも拘はらず今尚ほ館内の飾箱飾棚等の取附準備整ひて目出品の未だ到着せざるものも少からざれば陳列館長の意見に依り年内に悉く整頓せしめ來る廿一月の御用始めと共に目出度開館することに決せしよし

▲最近登錄商標摘要

▲品名右肩　楷書にて實體と横書したるもの　小林　奥助

▲品名右側　一線圓内上方に「下部形に抱れ上半部に花咲きたる櫻枝を配置したるもの　鈴鹿　保家

▲品名同上　楷書にて書したる富士形の文字　藤太郎

▲品名成上　中間に一太線と挾みて内外數本の線　黑の縁を横に横線を方圓連列せしたる裝の面内に施し頭部に横線を横に横列せしたる裝の面内に施し母數に横線を横に横列せしたる裝の面内に施し母數に横線を横に横列せしたる裝の面内に施し母數

▲勧業銀行設立委員任命

同委員ハ去八日の閣議に於て確定され左の如く任命ありたり

大蔵次官兼理事官　田尻稠郎
農商務次官　酒匂秀一
大蔵書記官　田中源太郎
大蔵書記官　梅謙次郎
法科大学教授兼理事官　岡松参太郎
法科大学教授　松崎蔵之助
同　正員位　富田鐵之助
同　従四位　渋沢栄一
同　従五位　中上川彦次郎
同　正六位　山本達雄
同　正七位　田中平八

日本勧業銀行設立委員被仰付

▲東海道線上り時刻變更　本月五日より静岡の内東海道線中左記の旅客列車を休止せり

新橋行　下り列車
濱松着同六時廿五分發
静岡着同六時廿分發
同　着同七時二十五分發
神戸行
同　神戸行
馬場着同七時十五分發

濱松行　同七時廿五分發
名古屋行
同　名古屋神戸間休止
全区間休止
同　全区間休止
同　上

新橋行
濱松着同七時廿五分發
名古屋行
同　上
神戸着後八時十四分發
馬場行
同　上

濱松行　同七時廿五分發
名古屋行
同　上
全区間休止
名古屋神戸間休止
全区間休止
同　上

新橋行
濱松着同八時廿五分發
名古屋行
同　上
神戸着後八時十四分發
馬場行
同　上

濱松行　同八時廿五分發
名古屋行
同　上
全区間休止
名古屋神戸間休止
全区間休止
同　上

其他略

此度海道線通り例年歳末に至れば旅客の數減ずて貨物の數非常に増加するを常とし爲替手形の高低表に依て見るに昨年に比し割以上の騰貴を來したり爾後物價の騰貴は益々甚だしきを加へつゝあるやの説論なれとも其説果して比較するときは勞銀の物價騰貴の度合を超過し居るの疑を容れず乃ち参考の爲め高低表を左に掲げんとす

勞銀高低表（東京市中四等一日一人の勞銀）

	大工	石工	左官	瓦職	造園職	職工	鍛冶職	職工	船大工
昨年同月に對する高低	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
一月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
二月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
三月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
四月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
五月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
六月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
七月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
八月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
九月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
十月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
十一月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
十二月	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢

▲戰後勞働者の調査に係る　日清戰役戰後に於る經濟事情の大變を見て昨年六月より廿九年六月とを對照し様式の數三百三十六資本額八千百十九萬二千餘圓、銀行の數千六十二資本額一億四千八百五十一萬五千餘圓私設鐵道の數十二資本額四千八百一萬五千餘圓、官私設鐵道哩數六百七十餘哩を加へ整理公債及四國下蒲し清水式以上七種腰貸せし分利金利子商業手形割引ともを日歩一錢五厘腰貸して二錢四厘となり同他所割引は一錢一厘當坐貸越利子は八厘腰貸して其に日歩二錢五厘となり白米小賣相場は一等九升六合なりしもの七升五合となり其他清酒は三升五厘、食鹽は四分一厘、石油は三分七厘、炭は四分方腰貸し諸木材は三分三厘乃至五分六厘方引上げたり

▲郵便條例改正の調査　現行郵便條例度を改正せんとして内閣に於て目下調査の事項は左の如くなりと議したることなるが其筋に於ても同様の議起り居る由にて発當り調査の事項は左の如くなりと

一第一種郵便物の重量を増加する事
一市内に於ける書留は其郵税を減ずる事
一封筒郵便物の制を設くる事
一印刷物の郵税を軽減する事

▲物價騰貴と勞働　近年物價騰貴の結果勞働者をして其生計を困難ならしめ遂に勞働賃上げの强請をして其生計を困難ならしめ遂に勞働賃上げの强請をして其生計を困難ならしめ遂に勞働賃上げの强請

專賣特許人造珊瑚珠

今般弊舗に於て發賣仕候人造珊瑚珠は多年の研究を以て始めて成製仕候に付ては其筋の榮譽を得たる者にて實に純粹の珊瑚珠と異ら ず從來の「ニセ玉」「明石玉」の如く臭き品に無之右渡の珊瑚珠は有性の生命を有し色澤に於ては遜色無之其儘造化の妙を盡し候へバ實に高尚にして貴人婦人令嬢の御用に適し且つ安価にして決て永く御使用相成るべき品なれば何卒御愛顧相成度ひ

注意　弊舗專賣の專賣特許人造珊瑚珠なるを云ふ偽物を販賣するやに聞及候へバ御請求の節は商標御覧の上御用命被下度候

特許人造珊瑚珠　一個に付　四分半　同　十五錢　同　廿五錢　同　五十錢　同　一圓　同　一圓廿五錢　同　一圓五十錢　同　二圓　同　二圓五十錢　同　三圓　同　三圓五十錢　同　四圓　同　四圓五十錢　同　五圓　同　六圓

特別製　一個に付　四分半　同　十五錢　同　廿五錢　同　五十錢　同　一圓　同　一圓廿五錢　同　一圓五十錢　同　二圓　同　二圓五十錢　同　三圓　同　三圓五十錢　同　四圓　同　四圓五十錢　同　五圓　同　六圓

東京市神田區龍閑町珊瑚珠類小間物商　長岡商店（電話三百五十番）

特約大販賣店

橫濱市伊勢崎町　伊勢國中津原郡白根町　宮山市大字總曲輪　京都市五條通高倉西（入）　名古屋市末廣町　武州川越町　千葉縣西三丁目　札幌市一條西三丁目　山口縣近江町　取次所内各小間物店にて販賣す

東京下谷池の端貴金屬美術裝物商　玉寶堂

飯塚伊兵衛　仲町廿九番地

須田町六番地　長岡商店

東京市麻布區南部坂　高橋五郎　富田井久太郎　富田久美　平田信七　藤田政信　西田倉吉　近藤田太郎　山田三郎　野原昌三

登錄商標　專用商標

定價　大瓶廿錢　中瓶十錢　小瓶六錢

小間物化粧品各種

白くしろめてさかになる　花王洗粉

元祖爆ヤスリ　クシ入ハ喜春製　艶自慢

芳香卓絶　純良爆石鹸　都すがた

巴白くしろめ　ノベしなるめ　さまし石鹸

使荒性にして　きめのはた

定價　大瓶廿錢　中瓶十錢　小瓶六錢

東京市神田區　金城堂

東京　大野五郎

製造本舗　五溪堂

東京市日本橋區浪花町廿七番地

●全國各地至る所ニ取次アリ

ねりおしろい　小町　露の香　大瓶廿錢　小瓶五錢

水おしろい　露の香　大瓶廿錢　小瓶五錢

八重ひと　八重ひと　角瓶入金八錢　丸瓶入金十二錢

珠肌美人　角瓶入金八錢　丸瓶入金十二錢

●小賣望之御方ハ御照會相當第次御仕候

乙姫石鹸廣告

大阪代理店　清原勝太郎

第四回内國勸業博覽會

有功賞牌受領

最良香油　八千代

精撰香油　めしい油

弊店製香油幷燈油之廣く世上の好評を得品質の精良香氣の可愛販賣の夥しき既に諸君の御信認を辱する所也益々勉强御愛顧の厚きに酬ひ率んとす伏而御用の程寄

東京市日本橋區田所町十番地　井谷屋香油店

各種內外

鶏の声

第十九回　一瓢子　稿

兵藏は父の死骸に取付きて呼べど叫べども口なしの花色衣血に染みて主命なれば顔の色さ変り果てたれば如何ともすべき様なく詠方なみだに暮の錦織鳴る樂の響きをうとき眼の動揺れて哀れはいとゝ増しけるが涙を押拭ひアー何時までか嘆くも詮ない事泣くい冥土の友もと聞ばなつかしい赤目御待ちいまゆき分らぬ四の上人の上郷藤が子の鶴ひも赤縮の糸とある夫に喜ビ是は又なげきと変る因果問志今の今まで父と知らず浦嶋仙右衛門夫を驚いて地に潜らば潜れ無念なる義父の仇なにかは報ずで置べきかと行燈みて其所に伏し候てゝ鳥の鷹を掌て恨みを忍れず付縋ひしが今に思へば切体なる雨宿りに圓らず此處の軒を借り半圓の間に對面して名乗て見れば年頃目頃尋ねし甲斐の甚蓋と底しつゝ逢ひし喜びは餘怨嘆ひと身の品の蓋と底しつゝ逢ひし喜びは餘怨嘆ひと所を替えて晴間も見えぬ涙の雨に命なに代へ袖も変して去りながら是も天女の命なり彼義川に誣らかされ過つて我父を殺せし實父は其身の罪忽を悔ん多年追福を祭みしのみ親子の愛を犠牲として其子の前に親戦せしは誠に義あつて別みありて其子に生れながら女しき涙に心を鈍らし義父の仇實父の仇又た其兵竹の母の仇なる彼加藤が首を打ちて佛に合す顔なしと我から心を眼直しし獄餓は比隣の人を頼みて庵のほとりに取繕め慢中したる路銀を出して佛の為の法會を營み兵竹の餞へも彩の由を報せて百ヶ日までを此處に過しねば斯て法要果たれば兵藏の比隣の人を呼集め扨永々の間世話に預かりたれも少しく志願の事もあれば先づ此地を打立べし迷惑ながら此庵に於て預かり置き迎の人あらば主国となして給われとの口吟に願みければ何れも快く承引つ折角お馳走となりし間もなくお別れ申すは殘念なり責ては今宵宅に於て樹飯一椀献じ度しと一人が云へば又一人明日の必らず私共へと我も〜と云出るを兵藏強かちに否みもならず一日二日と日を繰ムしヤ十日余り過しければ明日の未明に出立せんと行李を調へ居る處へ一人の飛脚急き切て入来り　為モシ〜れ願ん申ます　私は大磯より参る所から遥ゝ参つた飛脚でエすが此方に柳川兵藏様といふお侍が居なさいますか御問書にて云へ入る。兵藏不審の眉をひそめ大磯よりの飛脚あれば兵竹の使に相違なし百里餘りを距たる地に

何用ありての使にやとやをら禍先へ立出れば爲め様が柳川様を侮り申すか兵竹の書狀より急ぎの手紙請狀と別替えて了あれやと一封の書狀を差出すを見れば正しく兵竹より己れへ宛て書狀なれは早速請狀を書認め飛脚を勞ひて跡やり跡にて書狀を請下せ外へ賞父の死を悼みし心を記し其火に　左ゆへかゝねへ　と傳前様の傳話しに来まはり且へ妻も母の跡の菱川笑藏如何もして名乗合の為の仇なりとて名乗合ひ及ばぬまでも一太刀恨み度とあらるる神佛を

の字を名乗相乗べくかと心配致し居ル間くれし〜もの早くお出の程偏に傳待アル書外へ傳眼にかゝり委しく傳話し申上べく先は用事のみあら〜ゝ　と走り書事に認めありしかバ兵藏は飛立ばッ打喜ビ初ハ那奴月日の經つに心を詫して菱川軍藏の本名を名乗り大磯の色町へ浮れ入しと聲之たも此上ハ片時も猶予なら寸直に此地を發足すべし兵竹使ビ今知せしと手の舞足の踏所を知らぬまでに雀躍りし急き行李を肩に負ひ土地の謝彼に暇

申して大磯指して急き行らぬ

細逸に成げる重なる

▲外○の○大○計○畫○と我實業家○二○十○の○會○同○盟○して我國の貿易事業に關係を○なるものは爲めに一驚を喫し殊に在留外商の如きハ此計畫將来果して如何に成り行くべきや我邦人の之に從事せんとするもの何人なるか獨國二十會社の代表として渡来せるもの一輩れなるかを知らんと欲し朔に奔走しつゝあるものゝ如し扨此事の目下計畫中に在るは全く事實なる從来我國の貿易事業は專ら英米佛の三國に於て其重きを致し獨國も亦近来大に我に其勢力を伸ばさんとを努めつゝあれども彼が業務の進歩を見て此大計畫を實際に試みんとするも果して能く行はるべきとなるや否や彼等は目下絶交す此計畫を進めつゝある趣きなれども其成功に至ては當事者雖ども測のあり然るに彼等が此計畫の外に又別に我國なるロースチャイルド家にして此計畫は資本金五千萬圓を以て銀行を設立せんとする由に在り現に本邦人にして密ゝ之が爲めに奏功の計畫に傾きつゝあるものゝ如し之が爲めに英国人の如き大資産家を募りつゝあり之が爲めに計畫實に傾きつゝあるものゝ如しロースチャイルド家の大計畫も亦疑べきものならずや戦後の我國は有外時大に吹聴せられ本邦に於ては未だ見るべき驚嘆の記述されたるもの多からざるに拘て外人中に此等の計畫を見る我經濟家たるもの宜しく一考慮を要すべきことなるらずや

▲開業七十年の祝ひ　彼の有名なる大阪市久寶寺町寺澤鹿兵衛氏は本年開業の七十年に相當する由にて盛祝意を表する爲め縮緬の服紗に記シ一字及び字田川文海氏の和歌等を染出し目頃取引もる全國各問屋へ夫〻贈呈為したる由

▲金融の前途　昨今東西に於る金融は年末なるにも拘らず稍や緩慢の傾きあるより株式の如き何れも多少狀況するに至れりと云ふ者あれども或銀行家の說に依れば實際い寧ろ過退に赴くの勢あり彼の金融上に大關係ある手形交換の如き十一月中に於る統計は十月に比して大坂は百五十萬圓東京は百五萬圓の減少を現はし、隨て各銀行の預金何れも減少するは疑ふべからざる事實なれど明治十年緑市場に稍や活潑の取引ありしも三萬有餘の產業興起せざる今日之が爲め金融を助くるとこの程には至らざるべく大坂に於る金融緩慢なりと云ふは諸仕拂期日の延期を得ると雖すれども第二期目に至れば又々困難に陷るべく殊に年末に迫り商家の振引繁なれば金融は自然逼迫に至るは免るゝかたき數なりと云へり

▲陶器製造所　其他の陶器等の諸國に於いて陶磁器の既に充分發達し居るに拘はらず獨れ夫れ政府に於て陶磁器模範製造所あるもの如き理由如何と問ふに其製造法を研究し當業者と相提携して其改良を計らんとするなるが我國の陶磁器は尻に發育せしに拘らずこれを海外に輸出するに至れば其歩方頗繼にして且此等の機關こそ彼の工業學校の如きも其規模小なるのみならず其目的も自ら異なれば言へに足らず而して陶磁器製造の度の如きは遙に後進なる有樣の爲め是迄我國より輸出せし陶磁器は美術品たるに非ざれば或は玩弄品たるに過ぎず今後我當業者にして少しく肉皿、珈琲茶等の日常實用に供する器皿に關し如何の嗜好を察し及び實用に適する物を製造したらんにいまより十倍の輸出を見んと是嘱ひなく現に朝鮮皆曷に於て戰勝後間もなくして磁器のみ一萬餘圓角を現はし其商人、却て清商を壓倒する加藤助三郎外六十二名の市中當業者は甚に是を所あり五二會陶磁器部の會員及び尾州、濃州及び肥前等の產業者を始め廣く全國同業者の贊同を求め第十議會の開會を待ち我國に於る產業興起の目的を以て金錢等を騙取致候者有之候趣に相聞候間此段爲念廣告仕候也

▲氏の當選と各國の影響　マクキンレー氏當選の報一たび全國に達するや米國商工業者の爲面白に一新し閉鎖せる幾多の製造所は再び其業を始め下營せる株式は再び好況を呈し數十萬の勞働者は其職を得て國利の資本家今年の如き勝を米國に投じて其資本を放下せんとする形勢に至りしが之に關する歐州各國の影響及び評論の一班を記さんに當選後四日即ち十一月七日倫敦發の電報に曰ク英國市民の外形事件に注意すると今回の如きは非ず新聞紙は選擧に關して入手せるあらゆる報道を掲載し市民の其勝敗如何に注目して途に其務確なる報道を知らんと熱心し其狀恰も國内に於る大事件に於るが如くなりチリーメール紙員分朝サー、ヒーナルド、スミス氏を訪ふや氏曰ク氏當選せば稅率に至て大の變化を生ずべしと、余の愚解ずるなる所なり何となれば彼を賛成せる者は種々雜多の人なれば稅を增するの事に出ずるべく自ら金派中の人と雖も亦此稅率增加に反對するものの多きを以て假令其議案の提出せらるゝことあるも到底之を通過する能はざるべけれ故同日に於る英國四巴里よりの通電に據れば曰く下院の議員ハ氏の當選を歡しマ氏の當選は米國に資本を放下せる英國の資本家及び佛國の農夫を利すべしと雖も佛國の興業は保護稅主義に就て大に憂慮すべきに黙なるを以て佛國の貿易を害するなかるべしといひ又獨逸よりの報に接に過ぎ氏の當選に關して大に其意を注ぎ選擧後一週間より各新聞紙は其論に忘らざりしが其國民一般の感情は獨逸は兩國の中に在りて已なを得ず其中の一箇を選擇せざる可からず而して氏の當選は稍ま害を緩しと云へり若し就中最も苦慮したるは露國なりしが一たび氏當選の報達するや銀行株式會社は生氣を加へマ氏當選の報達するや銀行株式會社は生氣を加へ鐵道株も亦漸次に騰貴するに至れりといへり

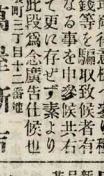
此頃傳承する處に據れば弊店の名義又は代理人に稱一名相當の意樣へ參り種々の由實を以て金錢等を騙取候者有之候共右樣之儀い弊店に於て更に存ぜず素より無關係に御座候間此段爲念廣告仕候也

小間物問屋　萬屋新吉

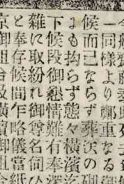
日本橋區馬喰町三丁目十二番地

花の君白御粉

花の君廣告

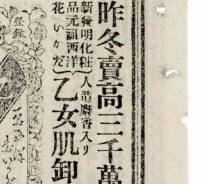


花の君の石鹸

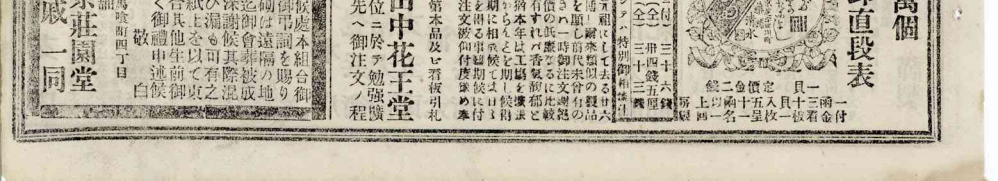


定價表

昨冬賣高三千萬個



乙女肌卸直段表



東京荒園堂
親戚一同

▲臨時博覽會評議員　西暦千九百年を以て佛京巴里府に萬國博覽會を開設するに付我國出品者の出品手続並に等々評議する為め左の諸氏に臨時博覽會評議員を仰せ付られたり

勝田四郎　高橋琢也　香川成一郎　物品精一　岡倉覺三　安藤太郎　山高信離　手島精一　前田正名　田中芳男　樹下茂兵衛　渡邊洪基　柴村喜寛　義美　鹿島秀麿　澁澤榮一　和田維四郎　佐原鼎次　望月軍四郎　大倉喜八郎　平賀義美　田中市兵衛　渡邊洪基　高木貞雄　早川龍介　中村榮助　藤本莊太郎　阿部孝助　内貴甚三郎　小知和敬明　鹿島秀麿　松尾儀助　雨宮敬次郎　長谷川謹介　松田源五郎　原敬郎　櫻井勝之助　星野錫　長谷川謹介　濱岡光哲　森田茂　大谷嘉兵衛　山本忠一　高木貞雄　新家孝　正義　澁澤榮一　澁澤喜三郎　澁澤篤太郎　澁澤萬次郎　穂積陳重　穂積八束　田中不二麿　渋沢栄一　益田孝　中野武營　渋沢栄一

同第一會は去る十日午前十時より開設され、上なる諸氏に評議員の任を委嘱し、次で開會せられ九鬼男爵総裁金子男爵官長より評議員十餘名出席一同席定まるや榎本農商大臣の演説あり其大要は左の如し

今般臨時博覽會評議員を開くの要へ一旦政府が賛同したる明治三十三年巴里萬國博覽會の開設に係る方針を定めし以後の成績を顧みるに、我國が外国人に対し欲せるにあり是より先き我國が外国人に対し博覽に賛同したるの前後十數年に迄て一回は一回よりも進歩し最近明治二十六年の博覽會に於て我國は世界諸國と肩を並べて遜色なき程に至れり、我産業の如きは実に我國富強の根本なるは実に我産業の発達と国運の大進に足れるは明らかにして、既に明治二十七八年の戰役後、我國は一躍して一等国の位置を占めたるは実に我産業の発達に負う所多大なりとす、我産業の発達は国力の培養産業の発達と国会は全く吃緊に関係し、国力の充実は

岩渕の仇討（二）

双龍書房　講演
今村次郎　速記

然るに文化の三年、三枝重太郎改名いたして二代目三枝重太郎が、御道損南役を仰せ付られ、櫻井とは逆のまして家富み榮へて居ります。此方は時勢の病氣、介抱の手當さへ叶ぬまでの貧苦に陥れまして、それに引替へ親子二人驚の命を繋ぎ兼ねる、殊に當時の病氣、介抱の手當さへ叶ぬまでの貧苦に陥れまして、それに引替へ親子二人驚の命を繋ぎ兼ねる、殊に當時の病氣、介抱の手當さへ叶ぬまでの貧苦に陥れまして、街道へ出まして人足となり追ひかもに使はれます。僅かに露命を繋いで居るの賞に哀れは かなる有様でございます。其年の九月十一日、人足で小金吾と云ふ者も可笑く叶ぬまでいますから、金五郎と名乗る者が、向ふから三枝御屋由と札の付た荷物がチョイ〳〵見へます。是は上の叶ぬ用で市ヶ谷の叶ぬ上屋敷へ越すので、之を小金吾が見て、金アヽなさけない事だ。同じ御道損南役を勤めた身、隣にも暖簾所成取り、相討となって、又い其場に倒れ、御解出の儘かに存命して我家の門口さへ往たとて、其家へ立てなされ我家へお取潰しになり、其無念〳〵が固て、之に加へて病氣、現在その敵さが此度をるのを武士の家に生れた此身、今年既に十八歳、身へ厚しいまして三枝御屋由を取て、兩親の無念を晴したいものと、小金吾の兄貴の如く三枝を詞さんと思へども、何分にも御物がなく、どうかいたして、弁物が欲い、さうかと云てマサカ出及厚丁や御月代へ行くとも出来ず、向ふも尾州の御用番役で、入れの用事が優れて居ても、万物がない、向ふに

男女を問はず眞の白色美人となるは此藥に限る

宮内省御用品

第一白色艶美の光澤を出し鉛毒を消し顔あさ黑くあれ症にさゝぐソバカス或は無名のぼつ瘡出來顔の皮むけ又は紫色の地出來あせも日にやけひゞ丸もやけ等總て皮膚の病をとりのぞきてこまかに艶し能く小兒くさい臭の類は忽ち治すキレー水の製法は全く普通化粧品と異りて一種特別の調劑なれば彼のリスリン精又は蒸溜水製の類なるが如く能上を潤水に用ゆれば鉛毒を防ぎ白粉のノビよく迎上を潤の狀氣を拂ひ水の種類多しと雖も外國輸出多く日に賞高增一加するも全く原料宜敷故なる可き

本舗よりは空瓶を預り替も致す外定價は小十錢甘錢五十錢一圓ためし小瓶金五錢遠國へ送料十錢瓶は四錢以上一瓶送料十五錢相係候

發賣元　廣國米穀町五番地圓本舗　大木口哲
横濱吉田町二丁目　永井永進堂

顔の吹出物は只一瓶で直ち升の内實に奇妙で御坐い升其上艶の美しくなるのが嬉う御坐升

本舗　東京外神田花房町角
無毒れしろいの香羽菊
山崎帝國堂

東京　安齋永香舎製造
平成　廣告　石鹸

特約販賣東京小間物問屋各店

大販賣所　日本橋區馬喰町一丁目　平尾賀平
日本橋區通油町　村田藤七

親王家御用をみがき

金國登る所の高名なる賣藥店和泉小間物店
最次育之候間御最寄ふて御求めをもふ
東京横山町三丁目
御用花柳品問屋白光撰
豆橋鬼喜次郎

諸官省御用

◎全國五二會品評會に於て進步銅牌受領

人石は花王石鹸は光力非常に強く炎上迅速に利益を上げ保つ時間長く故に經濟上に利益を上げ保つ時間長く故に經濟上に比類なくまた一倍價安くまた原料清淨なるをもて神佛燈明其他裝飾家には尤適し殊に美麗なるを以御進物等に宜し

大形五時間中形四時間小形三時間持受合

製造發賣元東京馬喰町二丁目
花王石鹸本舗（九二二番）長瀨富郎

市内は十銭以上便利の所に出張販売見本部設置
近來類價の人石印偽長瀨富郎名を騙り詐欺惡

◎鼈甲御祝儀用櫛笄製造御賣

東京下根岸町
三谷屋工場内　いせき屋音吉

▲はき物（明治年報に掲載る）（前号の續）

下駄の來歴斯くの如しとなれば三眼二齒は殆んど其特性の如くなれども世て臺灣にて一眼もなき下駄あるを見受けたり形は日本の駒下駄同樣なれど緒を右より左に廻一文字に巾廣き綿撚縄を縛り附たるのみにて其他は悪くから下駄の如きもの時代にして一本齒を用ふるものあり鼻緒の掛け方も一樣ならず近來ハ雪駄と靴と下駄の折衷したる混和物等もあり多く冬季中に用ひられ、緒を十文字にして結ぶ故のまゝハくもり、此後一層改良したらんにはぜんなるもの、現はれ出づべきや當業者たる中には隨分相應の新案もあることならん

賣行に就て は詳細なる取調なきも府下の下駄問屋四十餘名の中に組合を設けて種々の打合をなすもて十八年に下駄甲長問屋と改めたれども二十六年に至り再び下駄柳問屋と稱して今に毎月集會して其賣捌上并に改良の事等を謀り居る内此甲長問屋に稱するは駒下駄に類する下駄等を小賣店に卸売して甲長の可に製したるものなれども其賣買入るゝ能は ずして甲長問屋は只甲長（足駄の歯を云ふ）のみを卸し他をすげるは小賣店の受持と定まれるより甲長問屋も稍々なる可稍に製したるものなれども斯くては下駄の材料と成る可き材料等の材木を其儘買入るゝ能は ずして甲長問屋は材料商人の鑑札を受けざるを得ず依て下駄問屋改稱して凡て風物の種となるべし桐材、杉材等を自由に買入るゝことになり桐材は他利を得て買捌方も大に張し居れり

同二年廻より雪用者の増加するに從ひ品拂底にして供給乏しきため明治二十五年度の安直に比すれば並物にても五割方の高直となり上等に至りて は殆んど倍するに至れり本年の初めに至りて又ハ上等品の賣捌宜しと云ふ今右の組合にて取扱ひたる桐下駄と桐甲良との賣行表を掲ぐれば左の如しと

桐下駄賣捌（下駄と桐甲良に入りたるもの）

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐甲良	三三八八〇〇足	三五三七〇〇	三八〇五〇〇	四一〇五〇〇	四二〇五〇〇	二六〇七〇〇
桐下駄	三三八八〇〇足	三五三七〇〇	三八〇五〇〇	四一〇五〇〇	四二〇五〇〇	二六〇七〇〇
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

桐甲良賣捌（下駄と桐甲良に入りたるもの）

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐甲良	三三八八〇〇足	三五三七〇〇	三八〇五〇〇	四一〇五〇〇	四二〇五〇〇	二六〇七〇〇
桐下駄	三三八八〇〇足	三五三七〇〇	三八〇五〇〇	四一〇五〇〇	四二〇五〇〇	二六〇七〇〇
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

又市中へ販賣する歯足の如し

桐下駄

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐下駄	二二〇〇〇〇足	二二〇〇〇〇	二二〇〇〇〇	二六〇九〇九	二六〇九〇九	二六〇九〇九
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇五〇五	〇五〇五	〇五〇五

桐下駄の產地は南部也と、宮城、福島、岩手、青森、新潟等の各縣より產出するを上とし次ぎを其次とも雖ども皮、桐に類似するものを云へり、椎、樅、杉の類を用ふるものにて皮は桐の一種にして柄木縣下より產するもの多く次を福島縣下にして毒柄は上總房州等より出るもの多く樅地方を其次ぎとす椎は内内にて製出せるもの多く樅は市内及び千葉縣下より出で杉は静岡縣下より出て表類は尚三百餘年前來原料（箱の皮）不足のため昨年八九月の頃より漸次騰貴し昨今は前年より並物七八割方騰貴し上等物は九割方騰貴せり表に下駄表と草履表とあり下駄表は下り表と天和、山城、甲斐、河内、和泉、尾張等より出で一兩年前より三河より產出するものゝみにして下入津せり草履表は伊勢より出るものを上とし次を天和とす麥物に上藺の「みと」にて製したるを用ふ右は羽前の最上藺より產するものゝ次に新町産あり入王子産抔すれば若干の産物あり入王子産は練馬村より產出するものゝ次に是を製造する一人前として本市部物は一日一足又は一足半

商標

獨乙國ロンドル、フリーチェイ先生傳授

透明石鹸販賣御披露

桐下駄

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐下駄	二二〇〇〇〇足	二二〇〇〇〇	二二〇〇〇〇	二六〇九〇九	二六〇九〇九	二六〇九〇九
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇五〇五	〇五〇五	〇五〇五

桐下長

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐下長	二五九〇〇足	二七〇八〇〇	二七〇八〇〇	二六〇八〇五	二六〇八〇五	二六〇八〇五
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

獨乙國ロンドル、フリーチェイ先生傳授

透明石鹸販賣御披露

TRANSPARENT EXPORT TOILET SOAP

其特性の如くなれども世て臺灣にて一眼もなき下駄あるを見受けたり形は日本の駒下駄同樣なれど緒を右より左に廻一文字に巾廣き綿撚縄を縛り附たるのみにて其他は悪くから下駄の如きもの時代にして一本齒を用ふるものあり鼻緒の掛け方も一樣ならず近來ハ雪駄と靴と下駄の折衷したる混和物等もあり多く冬季中に用ひられ、緒を十文字にして結ぶ故のまゝハくもり、此後一層改良したらんにはぜんなるもの、現はれ出づべきや當業者たる中には隨分相應の新案もあることならん

賣行に就て は詳細なる取調なきも府下の下駄問屋四十餘名の中に組合を設けて種々の打合をなすもて十八年に下駄甲長問屋と改めたれども二十六年に至り再び下駄柳問屋と稱して今に毎月集會して其賣捌上并に改良の事等を謀り居る内此甲長問屋に稱するは駒下駄に類する下駄等を小賣店に卸売して甲長の可に製したるものなれども其賣買入るゝ能は ずして甲長問屋は材料商人の鑑札を受けざるを得ず依て下駄問屋改稱して凡て風物の種となるべし桐材、杉材等を自由に買入るゝことになり桐材は他利を得て買捌方も大に張し居れり

同二年廻より雪用者の増加するに從ひ品拂底にして供給乏しきため明治二十五年度の安直に比すれば並物にても五割方の高直となり上等に至りて は殆んど倍するに至れり本年の初めに至りて又ハ上等品の賣捌宜しと云ふ今右の組合にて取扱ひたる桐下駄と桐甲良との賣行表を掲ぐれば左の如しと

桐下駄賣捌（下駄と桐甲良に入りたるもの）

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐甲良	三三八八〇〇足	三五三七〇〇	三八〇五〇〇	四一〇五〇〇	四二〇五〇〇	二六〇七〇〇
桐下駄	三三八八〇〇足	三五三七〇〇	三八〇五〇〇	四一〇五〇〇	四二〇五〇〇	二六〇七〇〇
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

桐甲良賣捌（下駄と桐甲良に入りたるもの）

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐甲良	二二〇〇〇〇足	二二〇〇〇〇	二二〇〇〇〇	二六〇九〇九	二六〇九〇九	二六〇九〇九
桐下駄	二二〇〇〇〇足	二二〇〇〇〇	二二〇〇〇〇	二六〇九〇九	二六〇九〇九	二六〇九〇九
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇五〇五	〇五〇五	〇五〇五

桐下長

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐下長	二五九〇〇足	二七〇八〇〇	二七〇八〇〇	二六〇八〇五	二六〇八〇五	二六〇八〇五
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

又市中へ販賣する歯足の如し

桐下駄

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐下駄	二二〇〇〇〇足	二二〇〇〇〇	二二〇〇〇〇	二六〇九〇九	二六〇九〇九	二六〇九〇九
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇五〇五	〇五〇五	〇五〇五

桐下長

	明治廿三年	同 廿四年	同 廿五年	同 廿六年	同 廿七年	同 廿八年
桐下長	二五九〇〇足	二七〇八〇〇	二七〇八〇〇	二六〇八〇五	二六〇八〇五	二六〇八〇五
差引	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

（未完）

特約販賣

日本橋區馬喰町二丁目

同區通油町

同區馬喰町

二丁目

同區横山町

二丁目

進行舍可兒鏡三郎謹言

東京の上等品賣捌を委られし數品左の如し

市川團次郎	市川九郎治	市川權太郎	市川八郎治
市川團次郎	市川升之助	市川若米助	市川孫次郎
市川藏人	尾上菊五郎	尾上梅之助	尾上藏人
尾上三郎	尾上菊五郎	尾上藏人	尾坂市村
中村勘五郎	中村富之助	中村家女	中村藏人
中村時藏	中村藏人	中村藏人	中村藏人
中村藏人

反古ゑとべ

主從日用條目

作者不詳

▲主代の式目

一第一主人を大切にしたとひ輕き親方にてもあなどるべからざる事

一朋輩中除まじく口論ひを堅く慎むべき事

一得意衆を大切にあしらひ緩かなる得意たりとも組略にすべからざる事

一店の勝手を能く會得すると雖も良家に我なくば立ましと我傲氣隨すまじき事

一我が新參の手代に成なをいたはり假にも詞わるく用を云付す隨分育て知らざる事は懇に教へ申ふべき事

一金銀の取扱ひを正直にし僅かの錢にても私しにつかふまじき事

一主人より定めの利口錢の上を私しに直賣し製方へ定めの勘定にし私しの儲けをなし不正の利を取るべからざる事

一少し氣に叶はぬ事ありとも無理に暇取なと顰ムまじき事

一得意廻りに出て私しに物見參り又ハ青樓芝居等へゆめ〳〵行べからざる事

一下女乳母その外立入する女と不義のかたらひすまじき事

右條〻堅く相守るべし身代に於て少しも變りあるべからず心得わしと手代に表向かつ實体に見せかけ得意廻りに出ると風呂敷荷物を知邊へ預け物見芝居は成ハ青樓遣入し遊び歸りてあらぬ偽り言ひて主人を欺くは商ひの金銀を私しにかひ紙先にて帳面をくろくまし親方の私しに安く賣拂ひて已が奢侈の代と内外に隱し密かに親方の若旦那より立派な形をし内にて目下の者に無理を言ひ付け叱り馬り追ひ出先ばかり忠義かり己が身の暗き者舞をして人の仕業は少しの惡事を見出したり己れと同服中の者は贔屓して國の家にも悪公しと云なる實体の者を忌み憎みて親方へあしざまに言なしたりとせんと巧む手代世間に多くあり是等は主人の間に金銀の間にて終に主家を退出され淺間しき身に零落する者なり只齋日向なく素公に身を入て主人を大切にすれば其加にて末終に分家繁昌の身と成ぬべし

▲小僕の式目

一丁稚素公は親方を大切にし朝早く起て掃除し水打ち火吹竹孟の掃除等を可嘱に行べき事

一使ひに往かせ餘所見遊ばせず早く歸りて先方の返事をまことらに云ふべき事

一朋輩の好惡を親方へ告日すまじき事

一番頭手代乳母下女等に憎まれざるやうすべき事

一着類を大事に着て綻ぶる又は汚れざる樣家を付べき事

一諸事返事をはき〳〵とし假にも不返事すまじき事

一夜れ手習ひ十露盤を踊みならひ硯ふみたる事

一嘆しなには仕たくなく使ひ小使ひ夜中に取はづさぬ用心し枕をはづさぬ樣に寢るべき事

一使ひに行し路にて犬をけしかけ他の丁稚手供と喧嘩口論ゆめ〳〵すまじき事

一町下を歩き看板にて天窓を打ち溝へはまるまじき事

一宿下するとも總ての勝負事なと堅くすまじき事

一總て丁稚素公は主に手代に目を使ひ立らゝなれば忍び成たけ尻頭につゝかれぬ樣心掛ん使ひに至るまで如才なく用の暇ある間には手習ひ算盤を心がけ賣買のかけ引をよく覺へ人は手代になりし暫らくにて程なく丁稚を使ひ身となるものなり心得のあしき丁稚は眞事に骨惜みし使ひに出れば道草にひまを入れ他所の丁稚手供に喧嘩口論衣類を引裂き又ハ汚し或ハ内うつかり物に見入て持たるものを紛失ひ或ハ小遣ひ錢を盜みかけられ或ハ小遣ひ錢を盜みて買喰ひ内でハ目に掛る程の食物をつまみ喰し水汲に行ば雑魚をすくひ蟹を捕へ又ハ皿鉢を割子に怪我をさせ物蟹の中害をいひ蝦を見て居眠り手習算盤は是ハ無しく数へもせず唄ひ人より早く覺へる丁稚多し是等は終に親方に追出され何方の家にも素公しとゞ成難ひ是ハ限りなく悪しき丁稚素公なる身は是等の事を能くつゝしめべし

（未完）

天下無比衛生的顔料優等化粧品
芳香馥郁白美艶麗顔有効靈妙奇劑

都の花

水白粉價　金六十錢　金十二錢
金五十錢　金三十錢

東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地
製造發賣　東京莊園堂　齋藤泰助

登録商標

新發明　園用　なんでもおまもり　西めぐり
谷鋪　東京淺草馬道二丁目　沙見藏製造發賣

東京小間物卸商組合

東京鬼一義太夫本板元

花王白粉

價定
小瓶四錢　中瓶六錢　大瓶八錢
新大瓶拾三錢　極大瓶二拾錢　別大瓶卅五錢

製造發賣本舗　東京市日本橋區横山町二丁目　脇田盛眞堂
◉販賣所八全國至ル所ノ藥屋店小間物店ニ有リ

◉莫大小製造卸稟告◉
小間物屋さん仲間へは特別に働て賣升

肌着　靴下　各種
めりやす　手袋　呂
莫大小製造卸問屋　鈴木卯兵衛
東京市日本橋區横山町三丁目八番地

此の太しい商ひ先生の發明せしものにして第一染つき早く脂口臭を去り齒の根固め常に使用ひ給へ殊に美肌の患を救へす天下無二の良品なれ操正しき眞の使方は神の敬を守り使用ひあらんと願ふ

附言　尚東京小間物卸商組合は勿論全國至る所の小間物店賣藥店に販賣之有之餘問御求寄に御求ひ給へ

東京鬼一義太夫本板元

▲たわけ問答（承前）

▲樒にもあらで偽りをいふを嘘を突とはいかん
▲打掛もせず餞舌る事を口を叩くと云ふがごとし
▲非人にあらぬ昔しの書物を古事記とはいかん
▲手足をいためぬに貧事記といふがごとし
▲末になりても初穂といいかん
●新米でもおはり（尾張）米と云ふがごとし
●婦もなき女房をいくぢなし引ずると云がごとし
●はすッぱ娘をおきゃんと云おてんばとはいかん
●つりあげても干鰈といふがごとし
●嘘をつく者を嘗八といふがごとし
●番人ならぬ眼瞞しとも腕守といふがごとし
▲袁てゐるものを左見といいかん
●恋に貪婪の見へもせぬに天びんばうとはいかん
●有編なくらしでも任鍛た屋といふがごとし
▲口をさく神の使ひを御使とはいかん
●悪紙にもあらぬ宗門の始を組織とといふがごとし
▲裏中の事を内ぶと（裏ぶ）しとはいかん
▲幅をつくる者を厚ひと云ふがごとし
▲雑ばかりに喰せもせで蝙蝠とはいかん
▲蚊にもあらぬ草をたんぽぽと云ふがごとし
▲樹間にあらぬ木の實を枇杷と云ふかいかん
●かけ物をあらぬ本の掛軸と云ふがごとし
●木を張る水に浮めて筏（鳥賊）だとはいかん
●紙細工を袋へ入れたこと云ふがごとし
▲神無月ありて備月なきはいかん
▲水無月ありて火無月なきがごとし
▲かたい娘を石といはず木むすめとはいかん
●ろくい男を盥口に二本棒といふがごとし
▲花にもあらぬ草を清ぶ炭とはいかん
▲早く火にあらるものを消ぶ炭といふがごとし
▲糸を通さず鍋もせぬ材木を樂とはいかん
▲村の穴（通しながら貫といふがごとし
▲病に血（地）の道あり天の道なきはいかん
●かけ入ればれも地かんなきがごとし
●てんかんわれも地かんなきがごとし
▲草花にもあらぬ綿を小菊とはいかん
●能役者にもあらぬ紙を奉書貧生と云がごとし
▲子供を渡りながら鋸橋とはいかん
●考へなく渡ッても世樂橋と云ふがごとし（まだある）

▲昔はなし忍ぶ草

むかしむかしは人の噂をねばとしてよろづのもの笑ひとなりなれりけるが世の中にある人ことわざしげきものなれば見るものの聞くものにつけて云ひ出せるなり山に遊ぶ花咲流水にしづむ狸の土舟いづれか咄しにもれざらんちからをも入れずしておとぎのかきがねをはづさせ手にあまるわんをく子僧高きかいらんの顔も笑はするわはなしなり東方朔が滑稽さまざまにもいはず咄しにあやしく妙なりける鹿野武左衛門の露の五郎兵衛の上にたゝん事かたく五郎兵衛は武左衛門が下にたゝん事かたくなるあけるの後の世にひらきあめしは天明六と廿卯月釋迦の生れて四日めに牛島なるひさしやに於ては今の會が機三りさした四方の赤良朱樂管江の雨うと此二柱をふして立て前の立川談洲棧鳥亭焉馬棟樂しもはや六十といふ年の昔しばなしをはなりぬせしもはや六十といふ年の昔しばなしをはなりぬさるからに立川の流れの末のひろごりてさる業をなしてなりはひとせるもの澤あり げに弘化の今をさかりとやいふべきかくたはれたるされもの世渡りとせでなりしもひとへに太平の御代のしるしと有りがたきまでに添けなきことになんされば開祖前の焉馬居士のはたとせ餘り三廻りの忌にあたりたれ可昔をしの忍ぶ草と上ゆきなして天明ふりの落しをなしをかいしるすと爾り

弘化二やよひ　二代目　立川鳥亭焉馬

▲子の日

金原亭　立川　馬生

正月初子ハ官女が緋の袴で小松を引といふが江戸には、わるめへ「あらやう雨図と日本橋にて「うそを「何うそなるものか檜物町と柳ばしでは、正月二日の御酒に老松をひらやせ

▲真もの

鮪には、わしが八本ざっすいかにもといふ昔し咄しいせうもいゝあり手がるゝ出窓へ「ナ今でも出来やす「せうだ「ナ「ナ「ナ甲州でいくだ物が大きうな金サ「なるほど

（未完）

木櫛類・眼鏡類・
三味線類・
諸道具附屬品一式
諸花用種類一式
各店製有名化粧品取次販賣　三味線店　前川支店

當世新形魁小間物屋
花簪・根掛・特約品大販賣
亀屋　前川忠兵衛
日本橋區廣小路一丁目

全世界無比
たゞの
登録商標　匂袋兼用玉の肌石鹸（郵券代用取扱）
玉の肌は薫香馥郁四方を拂ひ匂袋の代用玉の肌は結良の薬品を撰び白く色白く皮膚一切用を爲す日常に必携の高等石鹸なり玉の肌は婦人の化粧に宜しき皮膚の病に宜しき衛生唯一の石鹸なり
玉の肌用法簡易使用法次第御届可申上候効能及詳細は本品に副書あり
本舗　東京市芝西久保巴町十五番地　玉の肌本舗
○取次所へ全國至る處の賣藥店和洋小間物及び荒物店等にて取賣せり
久保巴町十五番地　西洋小間物商所　稲生商店

新製宝来やうとう地薬
内用外用共に効能あり
口臭を消し一奇と効あり
傷生打身益の佳品
東京通ほり町
製造發賣元　大和屋小兵衛

定價（金弐錢）一箱（十五包入金拾五錢）十箱以上割引　看板（一枚進呈・拾箱ニ付）
特約大販賣店　本所横網町　伊勢吉　横山町二丁目　脇田　横山町一丁目　柏善　横山町二丁目　花王堂
通町開花堂　深川仲町　大與　鍋売町二丁目　井筒堂　深川西深下町　山徳　橘町四丁目　丸善　馬喰町一丁目　萬金
外神田帝國堂　銀座一丁目　佐々木　本町三丁目　三實堂　北町　三勇　馬喰町　三善　下谷車坂町　守田
花房町　右特約店ハ弊店同様割引仕候間多數御用向奉願上候

餘興

●狂歌

雪中煤搗

而白き雪なれば煤搗の箒ゝ我はとられざりけり
降しきるなり中なれば煤ゝ庭にとろけず出る犬張子
ふる雪に寒さを後へ入れる煤搗　裏垣　柳の屋
風寒し五德にしてなる雪のいきの屋　竹の屋　星の屋
鳥肌にしてなる雪のいきの屋　竹の屋　多摩園
煤はきの袋をもに降出す雪白の袋　多摩園
煤はきの袋をふる手傳ひ　鶴輔
降積る雪と花とを歌のつゝみ　鶴輔
春の雪の中の白き煤はきやすの　眞砂
來も春を　煤はきの朝のいとまに　眞砂
煤はきの出す朝のいとまに　輝雄
夜をこめて煤を拂ひて仕舞ところ　輝雄
ふり出したる明むつの花　輝雄
煤とちえ竹につゞいて朝すがら　小靡
拂ふゝをしと思ふ白雪　小靡
煤はきて庭先に　交
ふりに舞ふ雪の白かぬね　交
つもりたる家内の煤をはらふ月の　好
ふる初雪は拂ひ兼けり　好
白雪ハ鷺毛に似ひはらく煤ゝ　秋の屋
どこで散亂したる中庭　秋の屋

▲一口はなし

▲田舎漢の中食　東京　さわむら

田舎漢が三人連で淺草の公園を見物して居るとき弁天山の鐘撞堂でゴーン〳〵と十二時を打ち初めました田舎漢ハ何處か年飯をたべに彼處此處をさがして居りますと丁度向ふに「御膳しるこ」と書てありますので一同ハ大いに喜び御膳しること書てあるから御飯と味噌汁を買るのに違ひない早速其家へ參り　田御飯を出せ　安田　ハイ　田御飯ハ出ますべえ　ハイ……何を差上ますか　田御膳と汁を頂まべえ　ハイ　程なく女中ハ「ハイ待遠樣」と例の通り汁と粉を持て參りました　田ハア東京チウ處は飯よりか汁の方を先に呑ませるかなアと掬を取て一口吸つて見ると大層甘いから　田モシ姉さん是ハ餡まり甘過るたアナント辛いのハあるまめへか　女中「イヤ御飯も御坐います

▲流行感冒　柳雲けまり

世の中に流行といふものは其時によつて種〳〵御坐いますが同じ流行物の中でも餘り感心しないのハ流行の病で或時インフルエンザとか云ふ舶來の風邪が流行いたしました、スルと外に遊んで居る子供までが矢張その時さをして「金ちやん惡しの宅へ行ては阿母さんも阿父さんも姉さゝ者なる風邪を引て寢て居るから前の家へ行て遊ばゝ」ウンニヤ自家でも大變風邪を引て寢て居るから往けないよ源ちやんの家へ行て遊ぼう……ね、源ちやいから源ちやんの家へ行て遊ぼう……ね、源ちやんお前の家ちやア誰も風邪を引た者は居ないだらう一　豈なんデー自已の家だつて今に皆な風邪を引て見せらア

▲智惠くらべ第四十一號の解

(一)胡瓜　(二)抱火やはな(鼻)しのさこを焚てきく(菊)　(三)第一蚊(石狩)第二インキ　第三新聞紙第三鉛(ふる)四方士(梨)

(皆當)島坂魚澤商店　東京神田ッ子　信州一商人　(二)武州小川近良　日高竹一商店小僧　(三)函館末廣町加藤商店商海生　東海道掛川町井桁屋　朝寢坊　東京牛込區面白佳樓　同深川近藤　(三)常州龍ヶ崎野口店員　(三)胃山松風堂　上州日野屋店員　信州高遠町紙屋店員

謹告

來三十年一月五日發行の商報第四拾五號は通常の頁數を二倍一餘興の種をも成べく澤山掲載の見込に付、漢詩、狂詩、正文、狂文、和歌、狂歌、俳句、狂句、三題ばなし、落語、一口ばなし、其他何なり共澤山御投書被下度候

但メ切は本月廿三日まで延期也

御郵送の東京市淺草區須賀町十九番地西森武城宛にて御差出の事

東京小間物商報　編輯局

農商務省特許專用商標

卸直段據置廣告

追日寒氣相增候得共各位愈々御健勝御繁榮之段欣喜不斜奉存候陳者各位も豫て御了知の如く近來は何品に拘らず其原料に非常の騰貴を來し加ふるに職工の拂底は自然工賃にも影響を及し候て現に數割を高め候等より各種の製造販賣者は大に困難の場合に立至候處から止を得ず品質をおとし容器を縮少し或は定價を改正を加へ候向往く有之候由聞及候得共弊舗製造ぬれがらす之儀は先般來洋製の器械力に據て意の如く多額を製造し得候爲め隨て職工の手數も相減じ候のみならず原料の騰貴致候共一時〳〵數千萬斤を仕入候得ば是以て其割合に影響を不感候儘兎も角収支相償ふ限りは只々御得意諸君の御愛顧に酬ひ奉らん事をのみ專要とし猶益々振て品位を精撰致候は勿論此先原料に於て格外の暴騰を見る迄は當分の内矢張從前通の直段に據置候事に確定仕候間何卒不相變御引立之程只管奉願候謹言

大坂清水橋西ノ辻角

本舗　益田第一堂
東京市日本橋區久松町三番地
支舗　益田第一堂

各石鹼製造元　澤井栖蝦

特約大販賣　東京市神田區江川町拾貳番地
東京市日本橋横山町壱番地
天野源七

特約保證販賣

改良はばらの香水店　東京市日本橋區馬喰町三丁目
日本橋區馬喰町四丁目　平尾
同横山町　武井龍三製
同通　山田
同横町　丸善
同馬喰町三丁目　三橋

化粧用アイスの功能

化粧の品は種々あれど、今度新規に發賣の、アイスと云へる此品は、今西洋に流行の、秘法を其まゝ傳受け、之に多年の識驗を、併用したる化粧品にて、色は白の、香は梅か、麝香の花、龍腦麝香も及ばなく、殊に普通の出來よりは、餘は遙に、優れり、

大一ダース三十錢小一ダース十八錢

BEST

化粧アイス

東京市本橋區馬喰町三丁目
武井龍三製

冬の、寒さも、肌荒れず、脈やわかれ、凍傷も、あれず、皮膚、ひびも、なく、名も、あるる、吹出物、忽ち、治て、痕を、絶つ、世に、稀なる品なれば、婦人方も、殿方も、常に、使用、遊ばせと、士人に、代りて、

東京市日本橋區馬喰町三丁目　曹　皮　述

人造麝香入　西洋花いかだ

品質純良芳香卓絶ニシテ價格低廉ナルハ弊舗ノ保証スル所ナリ

定價（鑛入五錢○大具入二錢
中具入一錢

特約割引法

鑛入一箱十二個入五圓未滿五掛
大具入一箱廿五入五圓以上三五掛
中具入一箱五十入廿圓以上五掛
猶亦多數ノ御注文之節ハ特ニ相談可仕候

據賣法

●引札看板等御入用之節ハ何程ニテモ無代呈上可仕候

●製造本舗下谷區御徒町三丁目　●大販賣東京小間物卸商組合中　●發賣元横山町二丁目化粧品問屋　●同賣藥卸商組合中　丹頂堂　田中花王堂

第三回内國勸業博覽會ニ於テ褒狀拜受

（製造大器金十五錢）

（粉製金十五錢）

（製造本舗東京新橋　大販賣横山町一丁目　福原資生堂　銀座　平尾　佐々木

懷中面桁　懷中鹽壺

東京八丁堀　神田橋ヶ町二丁目　小間物問屋　岳海屋　佐野善衛製

●登録商標　軍艦はみがき

TRADE MARK 國内大勝利　發賣特許　軍艦　齒磨

東京市横山町二丁目　本舗　岳海屋　佐野善衛製

此齒磨粉は單に齒牙を清潔純白ならしむるの効わるのみならず能く口臭を保全し又堅く口中の惡臭を去るを以て常時之を用れは身躰健康强壮にして神氣亦自ら發揚すべし

定價　二錢　三錢　五錢　六錢　十錢　十五錢

全世界齒磨之大元帥

海陸征途紀念

商標　カテキ

東京新橋二丁目　田中花王堂

●本品は植物性有効品にして何れも使用せざる貴重の精品を使用し且配劑の如きは吾國高等齒科學士の賛成を得て使用後精神恍惚として爽快其靈妙なる効能は實に驚くべし先一度御使用あらんことを配伍なしたれば使用後口中

元祖濃厚白入リスリン

東京本舗　横山町　三福亀喜衛

電話浪花四百四十八番……日本橋區橋町四丁目……丸見屋善兵衛

●猶本品發賣以來日尚浅ニシテ不拘販路日ヲ追テ盛ニ趨シ本品ハ是全ク品質善良ニシテ價格廉價ナルノミナラズ御販賣者諸君ノ御引立ト深ク感謝ス鳴謝候然ルニ目下原料容器等非常ニ高價ニシテ不拘一層品位ノ改良ヲ加ヘ以テ諸君ノ御厚意ニ酬ントス何卒倍當ノ御愛顧御引立之程奉願候

東京小間物卸商組合中

○大具入瓶　○小具入箱　○中具入箱　○定價　拾錢　五錢　三錢

江川商廛賣品廣告

●鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
●船來最上黑茶本ゴム櫛各種
●船來最上人造ゴム無地鼈甲ばらゝ各種
●船來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ曾テ米國幷ニ英國ノ需賞ナル曾テ特約直輸入致シ居候間物品ハ精々相撰廉價ヲ以テ販賣仕猶一層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區横山町二丁目六番地

發賣本舗　上總屋　江川金右衛門（電話十六百十九番）

小間物問屋　同町十四番地　同　支店

元祖

大日本帝國農商務省御賞錄濟

東京馬喰町壹丁目

小町水

岳陽堂平尾賛平製

別製大瓶一箱十本入定價一瓶　廿五錢
大瓶一箱十本入全　三十錢
中瓶一箱十五本入全　八錢
小瓶一箱廿四本入全　五錢

豊國幼色粉

名称商標　ダイヤモンド

製造元東京平尾賛平

御便利の四合入●八合五勺入●四合入は石油明箱へ十四本入●八合五勺入は石油明箱八本入●但四合入にて小町水八錢賣の瓶に凡廿七八本の諸替に相成申候

本品は世上販賣品と異なり我國にて合劑せざる効驗品を以て製造し身體を害する事なく第一ひはだをすべすべたけ●たるむしは外吹物●顔手足のあれ●しわをのばし●夏日に焼すべあせもの●くひ等の憂なく眞潔白美艶となし

ダイヤモンド用法

割引
上五五掛●二十打以上五七掛●一打以上六掛

三十打以上販賣品の命名に背かず請ム御使用上効能を知り賜へ

懐中

はもとんぼは手ぶくろ持ちてやっぱり持ひるもとう夜間終書ホ不動業の食ひ続いの密平尾賛平

新工夫

粉末製便東京馬喰町壹丁目小町水平尾賛平製送

大瓶　壹箱　壹ヶ
中瓶　壹箱　二十ヶ
小瓶　壹箱　三十ヶ

商標　おろしうら梅

嗜用人　新駒屋中村福助
發賣元　赤心堂
發賣代理店　東京横山町二丁目田中花王堂
特約　京橋區銀座三丁目　松澤八右衛門
大阪　日本橋區瀬戸物町　山玉置金八
賣店　大阪南區戎橋北詰　中商店

煩八錢。拾錢。廿錢。特別製　廿五錢
水八錢。十五錢。同　廿五錢

○此うら梅おろしんは眞正無鉛毒製にしてつきよくのりよくはけをちる事なー又硫黄溫泉臭氣ある所に入るも決して變色する事なー

SANITARE DENTIFRICE Trade Mark

CRADE & Co CHICAGO

米國シカゴ府……グレード會社製

陸海軍御用●近頃非常に名高きはみがき

登錄

「クイルハム」氏の方劑にして世界に其名稱々たる德科學醫學博士象印齒磨學ハ彼の米國にて當時シカゴ府に於て非常の名聲を博し紳士貴婦人社會に賞賛せられたる良品なるを以て當國弊店日本一手特約を結ひ益く厚賣す其の衛生上有効なるは尋くも左の諸大家の信認と証明により最て喫々を要せず

シンコウみがき西洋象印はみがき　定價　三錢　十五錢

米國ハーバードカレッジ大學醫科學博士　東京築地病院醫師　四等醫官　英國醫學士

益田廣信先生御信認
マクドナルド先生御証明

日本一手販賣　安藤井筒堂

非常高價販賣店　東京京橋尾張町水天宮前

特約販賣商標店

東京銀座一丁目　玄氏薬術
横山町二丁目　佐々木
石町四丁目　花王堂
原川岸　松田
小林富次郎　澤常吉
横山町三丁目　佐野小兵衛
通り鹽町　奥谷久郎
横山町三丁目　三橋
今橋四丁目　村長三
南一條西三丁目　西村
幸太郎　草野
札幌十丁目　南部
函館　佐々木七郎

各古屋傳馬町六丁目
會津若松　甲府町　内田屋
信州諏訪　松田町
大坂市東區道修町
大東區伏見町　大澤五郎
横濱石川町　大澤藥式會社
其他至ル所ノ小間物店賣藥店ニアリ

水谷仁三郎
酒井太平
近江屋寅吉
河内屋
村田屋
捧藥師

電話浪花四十二番……日本橋區横山町二丁目……脇田盛眞堂

新形各種　簡單安價　麻絲道具　問屋　善一　日本橋區横町平尾賛平　花見屋ヲ　長谷為次郎

毎月五日十五日廿五日三回發行　發賣部金壹錢五厘　一編輯兼發行人　西森武雄

（一）　（第四十四號）　明治廿九年十二月廿五日　郵便報知新聞（明治廿八年第一種）　郵便物認可

東京日日新聞

第五卷

謹告

當商報の儀各位の御引立を以て日に月に隆盛を極め茲に無事第二の新年を迎んとす是全く各位御愛顧の厚きに因り候儀と深く奉感謝候就ては右御厚意に酬んとの爲め來三拾年一月五日初刊の第四拾五號は通常拾六面を倍して二拾二面と爲し之に當今有名の講釋小林清親翁の揮毫に係る

丈長全紙 **美麗錦繪大附錄**

を添て進呈仕候間何卒不相變御愛讀の程伏而奉懇願候敬白

東京小間物商報
發行所

雜報

▲營業稅屆

營業稅法實施に付大藏大臣は其出力を左の通御側定公布せられたり

大藏省令第十八號

明治二十九年法律第三十三號營業稅法に關する營業及び課稅標準屆書は左の樣式に準て調製し所轄稅務署に差出すべし但し北海道は明治三十年三月三十一日までは所轄郡區役所に差出すべし

課稅標準屆書本金額、建物賃貸借治及び營業者は各其の計算の基る處の計算の基く處及營業稅法施行規則第二條但書に明する計算の要件を詳記したる明細書を相書に添附すべし但し課稅標準額を豫算する場合に於ては資上金、請負金及報償金の總て仮本項に準據すべし

明治何年營業屆書
營業場所（海道）何郡（市）（區）何町（村）大字何何番地番號
一何何業
何何商（何何製造）
一資本金額　如資何程
小賃何程
一請負金額　何程
一賃貸金額　何程
一從物賃貸價格　何程
一從業者　何人（內訓練工何人給料者何人、臨工劣役者何人、雇傭人何人とする）に區分
何年何月何日開業（營業稅法第十三條第一項）
右之通に候也　（但開業日前に開業する者は開業日）
年月日　住所（會社の位置）
氏　名　印
（何々會社代表者名印）
北海道廳長官氏
某地稅務管理局長氏名宛

備考

一營業稅法第一條の營業種類及營業稅を課せらるべき店舗其の他營業場毎に各別紙に記載すべし但し一稅務署所轄內（北海道は明治三十年三月三十一日までは郡區役所轄內）に於て數箇の店舗其の他の營業場を設け同種の營業を爲す者は其の店舗其の他の營業場を區分して營業及課稅標準を記載するを妨げなし

二一稅務署轄內（北海道は明治三十年三月三十一日までは郡區役所轄內）に於て數種の營業を爲す者は各屆書中營業名記の下に其營業名を記載すべし

三　同一の場所に於て六箇月以內に前の營業者と同一の營業を開始したる者は開業年月日の下に其の旨を附記すべし

▲高等教育會議新設

高等教育會議設置の事は目下議會より政府に建議の要求せも伊藤前首相及び西園寺前文相等の途に之を採用せざりしが樞密顧問官相及び蜂須賀現文相は去十八日を以て左の勅令を公布せらる

勅令第三百九十號　高等教育會議規則

第一條　高等教育會議は文部大臣の監督を受け教育に關する事項に就き文部大臣の諮詢に應じ意見を開申す○第二條　高等教育會議は教育に關する事項に付其の意見を文部大臣に具申することを得○第三條　高等教育會議は左の議員を以て之を組織す

一帝國大學總長及各分科大學長
二文部省各局長
三高等師範學校長及女子高等師範學校長
四高等商業學校長東京工業學校長及東京美術學校長
五專門學校長一人
六學識ある者又は教育事業に閲歷ある者七人以內

前項議員の職務上當然議員たる者を除く外文部大臣の奏請に依り內閣に於て之を命ず○第四條　文部大臣は必要に依り前條の外都下高等官を以て會議に臨時出席せしむることを得但し可否の數に加はらず○第五條　高等教育會議に議長及び文部大臣の奏請に依り議員中に就き之を勅命す、議長事故あるときは議員に於て議長代理者を互撰す○第六條　議長は議事規則に依り議事を整理し會議の決議を文部大臣に具申し又勅旨を奏聞す○第七條　高等教育會議は會務整理の爲め規則を議定し文部大臣の認可を受くべし○第八條　高等教育會議は秘密會とす、高等教育會議は職務を以て臨席を許さず○第九條　高等教育會議の日時の外傍聽を許さず必要に應じ臨時之を定む○第十條　議長及議員の任期は三箇年を以て一期とす○第十一條　議長及議員には一箇年三百圓以內の手當を給する事得○第十二條　第十條及第十一條の規程は職務上當然議員たるものには之を適用せず○第十三條　高等教育會議に書記一名を置き議長の指揮を承け議事の筆記及會務に從事せしむ○附則　第十四條此の勅令は明治三十年四月一日より施行す

▲疫痢に關する訓令

去十八日樺山內務大臣は各地方長官へ左の訓令を發せらる

春來東京大坂及び京地方に流行せる疫痢は夏時に際し一時稍々衰へしも秋冬の候に至るや流行再燃今や東京、兵庫、大阪、福岡及沖縄等の各地に於ては火蛇其勢を逞うし中國四國亦漸く流行を見るに至れり抑疫痢の傳防には僅易卑實なる和疫法わりと雖も消毒其他の注意を相待て則ち實に能く効を奏すべしと雖しなれども之を實行するに非ざれば其効を奏し難し故に此度の疫痢に流行するや之を防ぐ方法あるも其効なしと雖も尚ほ深く信用する所の事柄なれば一層深く信用するに至り種痘普及の一方に傾倒し消毒其他の注意に至ては往々之を等閑に付し去るものあるは是れ各地方に於ては能く此邊に着目し種痘の普及と同時に消毒法の施行を厳重ならしむる樣注意すべし

◎全國戶口數　明治二十九年末內務省の調査に依れば全國の戶數七百九十三萬五千九百六十九、人口四千二百二十七萬六百二十、內男二千百三十四萬五千七百五十、女二千九十九萬五千八百六十九、計六千三百二十四萬、此男女合せて千五百四十六萬八千百五十二人、無配偶者は男子三百六十一萬千六百七十四、女子三百十九萬七百九十四、即ち女の方が四十二萬八百八十人少き勘定なり又同年出生したるものは男六十三萬八千八百九十五、女六十萬七千五百三十二、合計百二十四萬六千四百二十七、死亡したる人は男四十四萬八千八百七十三、女四十萬三千五百四十九、合計八十五萬二千四百二十二、即ち生の死に超ゆること三十九萬四千五人なり又同年中結婚の數は三十六萬五千六百三十三件にして離婚は十一萬八百三十八件ありしと云ふ

◎全國高齡者數　明治廿八年末現在の高齡者にて百歲以上のものを表示すれば左の如くなりしと

	男	女	計
百年	四五	六三	一〇八
百一年	一八	四七	六五
百二年	二五	三六	六一
百三年	一七	二三	四〇
百六年	一六	一九	三五
百九年	一	一	二
百十年	一	一	二
總計	一九九	一四七	三四六

概して女子は男子より高齡なるもの多しと知ること

◎都市の人口　明治廿八年末の調査に依れば全國にて十萬以上の人口（現住）を有する都市は左の如し

市名	本籍人	現住人
東京市	八六一、三七三	一、二六八、九三〇
京都市	二七四、五八四	三四〇、一〇一
大坂市	三三八、二一八	四八七、一八四
橫濱市	七三八五九	一七〇、二五二
神戶市	一〇九七九四	一、六〇、一三〇
名屋市	一、五五五八五	二二五、〇八五
廣島市	八八、一二三	一〇〇、〇一三

（禁轉載）

▲帶揚　黃繻子の類　生地少々入荷なれども何分注文多き故に品間に合ず

▲竹庵櫛　地出來物は賣口よし並物の職手間高直の爲め二〇以下の物は當分出來ず

▲丸六櫛　黃楊及び橡物ポ〳〵の賣行

▲黃楊及び南京の毛節立　生地拂底にて注文間に合はず

▲元結の類　相變らず高直金元結極太中細、賣口よし

▲化粧下の類　乙女姿だ、雪の梅々、あれしらず、梅が香、ねりりすりん、花筏、小町水、美人水、キレー水、大和水、鮑顏水、鮑の水、ラキメン水、鶴の露、其他有名品種々ありいづれも賣口よし

▲懷中鏡　差込の類安物にて大いに向よし

▲額鏡　塗縁二枚引以下小物の類賣行あり

▲石鹸　香ひ入物及び舶來の中等品並びに地製五六〇より三四〇位の處相變らず向よし

▲石鹸入　各種とも向よけれども就中トタン製の中下物賣行あり

▲櫛口紅　茶の生地品切にて當分間に合ず故に大玉川賣口よし

▲鋼尺用　象眼物、繪付、漆物、金、鞘金、鞘の類、丸、角、平、柳、太鼓の品上中下とも賣口よし

▲鑿留　上物向よし

▲丸鑿形　鑿心入、錦入其容店の流行形いづれも向よし

▲付鑿　中厚物賣口よし

▲唐人鑿　子供物相變らず向よし

▲竹根枝　生地拂底品間に合ず

▲餘毛楊枝　生地拂底品間に合ず

▲角楊枝　光毛上中物向よし

▲小楊枝　相變らず並物出來ず且つ遠く高直

▲象牙楊枝　材料拂底の爲め當分品切

▲絹紬の類　右同臨二〇以下の物ハ工賃高直の爲め賣行せず

▲內記打物　二〇以上十〇位の捻物相變らず賣行あり、原金紙付大物中物も亦向よし

▲水引の類　無地大房物流行せり

▲丈長の類　鶴亀、金銀形付、色繪物、白高引なと可なりの賣行

▲メリンスモス綾　相變らず賣口よし

▲角かん　新形の向み差、上等物十〇以上七八十〇位なる

▲金かんさし　月向の物賣口よし

▲櫛　三八、四寸、四二、四五の物にて、羅紗、班入、無地二丁物、一丁原向上中物賣口よし、細足、耳付、玉入の類向よし

▲ゴム自由雨天　ゴムばら上中物賣口よし

▲髮かざり　上中物、組物、二德、三德、はなれ物時繪櫛

▲玉櫛　モール模掛　上中下とも賣行あり

▲牛櫛　三八、四寸、四二、四五の物にて、羅紗、班入、無地二丁物、一丁原向上中物賣口よし、細足、耳付、玉入の類向よし

▲髮かざり　ゴムばら上中物賣口よし

▲推朱彫　高等向大に賣口よし

▲一等洋　玉入、蔵國、名古屋形、根朱彫物、三四〇付より二〇付位の物賣口よし、並洋も右同樣の向あり

▲鋼んかん　蔵國、名古屋形、玉入、玉なし、三〇前後の物向よし

▲花かんざし　相變らず花物の房付及び花籠の類大に流行

▲ゴム花の類　れ染菊房付、大中小、及び透し向ふさし花丸、紋形の類賣口よし

▲かんざし玉　ゴム、推朱、あるみ、蒔繪、丁貝、角、彫玉の類流行

▲推朱彫さゝなみ彫の流行　彼の橋町四丁目九義商店の創製に係る推朱彫の櫛、兩天、自由第一、魯玉等は目下非常の流行を極め猶ほ柴藩、千鳥、露、其他數種模入の新形に一倍の光彩を添へて大いに賣行を增し日々工匠を督勵して製造しつゝあるが賣に近來推朱彫流行以來漆の大立物となりたりと云ふべし同店にて事師向かんざし銀の新形數十種を發賣しが何れも最新意匠にて流行ものにして就中、推朱彫、蒔繪、大櫛みくり等にて多しといふ何もながら同店の新意匠と勉强に感じ入るなり

○のべさし御摩の外國注文　馬喰町一丁目金城堂大野金五郎氏方にて製造發賣の高等御摩めさしとして云へるハ其名海外にまで聞へ、和國御摩國ユーデルランド州アムステルダム、モーサーリン商會より請求品の見本を請求し來りしに付て本紙に記載せし處なるが同店にて右に對して直ちに數種の見本を送致せしに此程同商會より請求御摩の良好にして頗る嘖好に適する旨を賞賛し各種とも數百ダースづゝの注文を爲し銷路將來親密なる取引を爲さん事を申込み來りたりと云ふ是れ大野氏一人の名譽のみならず又同業者の名譽と謂ふべし

謝辭

左に列記する諸氏い孰れも當時の實業界中に於て其名最も錚々たるの人々なるが其藝賦の溢るゝ所又我商報の同業者を益する尠からざるを賞揚せら賜へり殊に印刷費補助として各金若干の寄贈を賜へり殊に我商報の面目之に過ぎず依て略儀ながら玆に貴名を列載して謝かす厚意を深謝す

（記名順序不同御海恕）

越後國長岡　田村力造君
播磨國北條町　尾芝作兵衛君
大坂市瓦屋町　森孫兵衛君
越後國高田　同盟會員某君
同　村松　山田龜造君
同　六郷町　小西直吉君
長崎島原　松本商店君
北海道日高國浦河　石川伊之吉君
羽前米澤立町　丁子屋吉藤君

本組合録事

▲總會兼新年會　來三十年一月に於ける本組合總會及新年會の會場其他の此程の役員會に於て左の如く確定せり

一會場　芝公園紅葉館
一會員出席時刻　一月十一日　午後正一時
一役員擬案　但時の出席一月七日迄に本組合事務所へ持參提出の事
一役員互撰　但投票の投票函へ投入の事
一同開票　開票は其前事務所より各員に配布す所に於て開票す
一同報告と役員互撰　一月十一日總會の席上に於て開票の結果を報告し直に役員の互撰を行ふ
一組合規約書　本組合規約書、人名簿、甲乙度計器代書、投票用紙等いづれも出來に付各員へ贈送す

▲清國への郵便稅　清國北京鎮江宜昌九江南京漢口蘇州牛莊太沽蘇郵便物の稅率は明年一月一日より左の通改定せらる（通知書省略）

書籍十五アーム若くは其總數每に
五錢
雜誌通常に限る）十グラム若くは其總數每に
十錢
商品見本（五十グラム迄）
二錢
商品見本（二百五十グラム迄）
二錢
商品見本（二百五十グラム迄）
二錢
同（六百五十グラム迄）
一錢

▲小銀貨の缺乏　小銀貨缺乏の事は前号の紙上にも記載せし如くなるが新聞へ所に依れば現地地方に於て小銀貨の足を感じたるは前月頃より本年に入り殊に甚だしく、小銀貨の不足を感じたる地方多かるべしとなり

▲商況の趨勢　近着の臺灣新報を見るに昨今の商況として記せるあり曰く內地なれば最早新年を迎ふる仕度の繁忙につれ一般の商業も活潑を帶ふべきあれども臺灣は然らず何處を一月の風が吹かと云へ有樣にて先づ第一最氣商賣として料理店或ひは藝娼妓が調の衣裳に苦心し或ひは婦女子供のそれ〳〵に指折り數へて疾く新年の來れよかしと待受け顧さへ年暮の景色をして繁雜ならしむるものなれども臺灣は別に其の新衣裳を調製せんとする輩もなく其他の社會も別段不常を取分て評判する程のことなく其上として是に從ひ揃つたものなり只僅かに其社會〳〵に忘年會の計畫もあれど二十日過ぎるも定まれず料理店の賑ふ事もあるべきか相變らず繁昌する旅人宿、印刷業、西門外の玉ころがし或ひは同種の營業不氣味なるがは營業の貸借或ひは貸借非常に荷物停滯して二進も三進も動かざること是全く問屋なき爲め月々各いんが如き些細の注文を內地になす位なれば一時僅かの資本によりマッチ一箱酒一壺といふ有樣にて今秋出地方にては五錢十錢品切に成りたる物を着荷するとは相方一處に詰込み送りは獨り場に困難するに至るなり其服太物類いかツ〳〵賣行あり其他涉用商人を除くの外は何商賣にも至つて鎭靜なり此不景氣の近因一に曰く中立銀行の貸出しの引締め二に曰く總督の官紀振粛の行き筋にベスト等にて現狀小目先をのみ目的として營業なし居る結果なられんと云々

▲府下仕立屋の近況　年始の賀者に比べ例年に比べ例年なれば光月頃より各仕立屋は此賀者に忙しき時なるに本年は一般不況の爲め蔵末の賀者少なく殊に賀者の多くは賀者の賀者にて仕立屋の取入はなく當を逸へて失望せし向もあり聞さる此光月頃より各店の格子先さへ黑々と一本中は仕立物暖簾上候へ〳〵と認めて貼るは全く景氣付けの策略にて實は閑隙の如きの有樣なりと云ム

▲本組合会員に注意　郵便切手販賣機械にもあるが如く來三十年の役員擬案は組合會一月七日までに事務所持參の者なられば右投票函の廻りに次第必らず御失念なく一日も早く御投票あらん事を要す

拜啓各位益々御隆盛奉賀候就テハ拙店儀從來ヨリ市內同業者諸君ノ御使利ヲ計リ御注文ハトシテ時ノ店員差出候處明年一月ヨリ御注文ノ多少ヲ論セズ一層薄利現金大勉强着實ヲ專一トシ御取次中上候間不相變御愛顧ノ程偏ニ願上候也頓首

再伸　萬一參上セシ店員中各位ニ對シ不都合ナル事有之候節ハ御遠慮ナク電話又ハ書面ニテ御一報願度尤モ時ニ取締、副取締參上仕リ候間其節御申渡被下候テモ宜シク候也

○各方面相廻リ候日數左ノ通リ

●鼎川方面（芝○麻布○品川○京橋）　凡ソ十回
●麹町方面（日本橋附近○麹町○四ッ谷○赤坂附近）　凡ソ八回
●千住方面（淺草○下谷○千住附）　凡ソ八回
●牛込方面（外神田○本郷○小石川○牛込附近）　凡ソ六回
●本所方面（本所○深川○八丁堀○築地○人形町附近）　凡ソ八回

●東京市內同業者諸君ニ謹告ス●

賣藥化粧品類問屋　小町水ダイヤモンド　本店　岳陽堂　平尾贊平商店
東京市日本橋區馬喰町一丁目
電話瓶花六百五十二番

營業主任　平尾貫一
營業主任　市中部取締　鳥飼光三
市中部取締　岩野榮次郎
市中部掛　同中前橋田田勘
同同同同　山ノ田北利利勘
同　片野喜三郎　岡田信保　中瀨造一　前田喜一郎

純良水齒磨

ドクトル能効

特約大販賣

定價　大瓶　錢　小瓶　拾錢

（本常之を用れば齒の根を堅固にし齒色を潔白にし口中之惡臭を除去し隨て胃の消化を助く其外口中より發する諸病を豫防するの効驗あり）

東京市銀座一　佐々木芝兵衛
同橋町　九谷屋義兵衛
同橋町二　近江屋源七
同通町　同通町
同通町　村田藤七
同馬喰町三　山田
武井藤三郎

▲株式會社五二會共同販賣所假定款（承前）

第六章　役員及其權限

第廿六條　當會社は左の役員を置く

取締役（理事）　一名

監査役　五名

但當會社に於て取締役を凡て理事と名稱す

第廿七條　取締役及び監査役は株主總會に於て記名投票を以て三十株以上の株式を所有する株主中より之を選擧す

第廿八條　取締役及監査役の選擧は出席株主の有する權利個數の過半數の投票を得たる者の內高点の順序を以て當選者とす

過半數の得票者なき時又は其豫定員に滿ざるときは最多數の得票者中より其全員又は不足人員數を得たる者を以て當選者とす

出席株主中異議者なきときは記名投票に代るに便宜法方法を以て之を選擧する事を得

第廿九條　取締役の任期は三ヶ年とし監査役の任期は二ヶ年とす

第三十條　取締役は當選の翌日其所有の株券三十株を監査役の封印を得て在任中當會社に預置すべし

第三十一條　取締役及び監査役は會員を生じたる時は直ちに補欠選擧を行ひ前任者の殘任期間其職に就かしむ但法定の數に下らず且事務に差支なき時は取締役の決議を以て次の總會迄其選擧を延期する事を得

第三十二條　取締役は業務上必要と認むる時一ヶ年の任期内に會員五名以内を選定し業務施行上に付其意見を諮詢する事を得

評議員は取締役會に列し業務上意見を陳述する事を得べし議も決の數に加はるを得ず

第三十三條　左の事件に付ては取締役總員共同者の決議を經ざる時は之を施行せざる事を得ず但緊急の事件は此限りに非ず

第一　金錢貸借及び定例なる新規の作業

第二　總會の招集及び其議に付すべき議案

第三　規定の制定及び變更

第四　訴訟行爲和解及び仲裁契約

第五　此定款中特に取締役會の議に付すべき事

第六　官廳に提出する事

第七　前各項の外重大なる事件

第三十四條　取締役（理事）中其互選を以て所長一名及び常任理事二名を選擧し前條に記載したる以外の事務を之に專任す

第三十五條　取締役は其責任を以て業務施行の爲めに必要なる代務人及び商業使用人を雇使する事を得

第三十六條　取締役會に何時にても其職に付すべき事件ある毎に擬任取締役を招集す

第三十七條　損益計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書及び利益金配當案は毎事業年度の終に於て計算を閉鎖し其年度末の現況に依り之を作り監査役の檢査を經て其翌月の株主總會に提出すべし

第三十八條　取締役は業務整理の爲め決議を設け代務人又の商業使用人をして之を分擔せしむる事を得

第三十九條　監査役の少くも一ヶ月一回以上商法第百九十三條の展開及び檢査を行ふことを要す

第四十條　前各條に定むるもの外業務施行に關する事項の別規則を以て之を定む

第四十一條　所長の報酬取締役及理事の給料並に監査役及評議員の報酬は株主總會に於て之を定む

給料及賞與

第八章　處務規程

第四十二條　取締役會に何時にても其職に付すべき事件を定む

第四十三條　代務人及び商業使用人の給料及び旅費日當は取締役會の決議を以て之を定む

第四十四條　監査役の報酬は株主總會に於て之を定む

第四十五條　取締役會の決議を以て之を定む

第四十六條　所長は取締役會の承認を經る事を要す

第四十七條　代務人及び商業使用人の給料及び旅費日當は取締役會の決議を以て之を定む

第四十八條　取締役會の決議を以て之を定む

第四十九條　取締役會の決議を以て之を定む

第四十九條　取締役會の決議を以て之を定む

第四十九

花王石鹸

花王石鹸は皮膚の美艶を增し且衛生上大に特効あるは已に需用者諸君の賞贊の如し委敍は本品に能書を附す

花王石鹸は宮内省○陸海軍○帝國醫科大學○其他各病院の御用を命せられ夙に内外需用諸君の高評博し且第四回内國勸業博覽會に於ては有効二等賞牌を受領す

製造發賣本舗　東京馬喰町二丁目（電話番號九三一番）　長瀨富郎

市内は勿論全國到所有名の和洋小間物店及貴樂店に大販賣所有之候間最寄なて御取次をこう

藥劑師　瀨戸東吉先生藥品發明
學士　高峯譲吉先生試驗證明
工學士　重治先生實驗證明
愛生病院々長　中村保親誠先生實驗證明
理學博士　大久保魁先生實驗賞狀
農學博士　飯島寶先生實驗賞狀
醫學博士　古屋垣次郎先生實驗賞狀
佐藤三吉先生實驗賞評

此の他各大家の賞狀あるも略す

●第一色を白くし美艶はだとなびかせばかすかなるはだけもせたむしの類はひとしもやけはだのかゆみ一切に効なし

●はだをつやつやとなし皮膚病はれ總て皮膚病一切に効なし

定價一個金拾貳錢　桐箱二個入卅五錢

商標

善

高評漣彫揃物櫛笄簪中差
新形朱推朱政子・政子髮
各種共柳髮糸政子形釵形
上等玉入簪向差長房付簪
本甲臺蒔繪彫刻揃物櫛笄
惣張臺黑唐代生地繪金地

高尚優美蒔繪漣彫

高尚優美蒔繪漣彫刻

廣告

嬌人小間物
特約保證販賣
高等櫛笄簪根掛
新形流行各種
讃歌（さんか）製品

東京市日本橋區橋町四丁目
小間物商
丸見屋
三輪善兵衛
◎電話濱花四百四十八番

人造麝香入
西洋花いかだ

TRADEMARK 專用商標

雪穂

製造本舗　下谷區御徒町三丁目　丹頂堂
大販賣東京小間物卸商組合中　發賣元
化粧品問屋　田中花王堂
橫山町二丁目
同賣藥卸商組合中

品質純良芳香絶ニシテ價格低廉ナルハ弊舗ノ保証スル所ナリ

定價　一鏡入五錢　中貝入一錢　大貝入二錢

特約割引法

鏡入一箱十二個入五圓未滿卖掛
大貝入一箱廿五入五圓以上五卖掛
中貝入一箱五十入廿圓以上五卖掛
猶亦多數ノ御注文之節ハ特ニ相談可仕候

擴賣法

◎引札看板等御入用之節ハ何程ニテモ無代星上可仕候

諸官省御用

●全國五二會品評會に於て進步銅牌受領

人造麝香入

商標

人造麝香

上油煙なし其効能は光沢常に强く炎鏡に比し効と一倍强に當る其原料は國の産貴なれ共良質なるを以て神佛經火及貴家には尤適し殊に美麗なる和洋小間物等に宜し

大形五錢間中形四錢間小形三錢間持參合

製造發賣元東京馬喰町二丁目（電話九三一）長瀨富郎

市内は十銭切上郵送手數料八錢送れ見本進呈

逆來到御あり人造麝香標商標注意之

人造麝香は光沢常に强く炎鏡に比し効と一倍强に當る其原料は國の産貴なれ共良質なるを以て神佛經火及貴家には尤適し殊に美麗なる和洋小間物等に宜し

大形五錢間中形四錢間小形三錢間持參合

製造發賣元東京馬喰町二丁目（電話九三一）長瀨富郎

鹿印煉齒磨

良質佳味ニシテ衛生上最効能アリ使用後精神ノ爽快ナルハ本品ノ特色ナリ

發賣元　東京馬喰町二丁目（電話九三一）花王石鹸本舗　長瀨富郎

鶴の嘴

第二十回　一瓢子稿

渉坐んすかエ　與ォヤ能い所へ浮舟さん柳川の旦那様が歸りましたア　浮左様だって先刻藤どんに聞ましたよと莞爾に入来る、兵藏は厚く禮を述べ扨

兵　段々の渉親切ハ與竹より精しく聞ましたシテ其菱川ハ今何うしてと半ば云はせず　浮サア其事先刻藤さんが來て貴方のお出の事を話すと菱印ハ何處から聞いたか與竹さんは遥州有馬の生れと聞いたが本當かと尋ねなさいました所感どんが又氣が利かないス浮とハイと苦へると菱印ハ何か成るに浮かない様子で屈托でもあるらしく見えましたが今しがた急ぎ歸んなさいましたと云れて兵藏と與竹の顔見合して若しや菱川軍藏にかりけり扨ハ新吾に先越されたかと殘念なりと兵藏ハ其身の不覺を悔むのみ新吾は與竹より何細を聞いて兵藏の心中を察し道り若且那樣の功を奪はれて反つて家來の道でなし此首ハ渡しアさんといふ兵藏ハ強い仇を狙ふ子として親の仇を報ひざりし身共の不覺、臣として主の仇を報ひしは其方の手柄嬉るべき筈なりと云て新吾を賞し、其夜は濱花屋へ歸藩し事の由を領主に聞て見れば兵藏を身受し三人故郷へ歸りしが兵藏ハ思ふ由あり上京に留まり實父の殘せし度に入り追贈恩を受かりしが或日一通の遺書を認め柳川の家を新吾に讓る旨を細々と記し已れハ

兵藏ハ心せき立ち與竹を物影へ招ひて聲をひそめ兵　其方の文通にて大方承知致したが其軍藏と云へる奴ハ誰さんの聊染で今でも此處へ通つて居るのか　與ェ、居ますどころの段かいな現に今日も來て居ますうるさと聞より兵藏ハ雀躍なし　與ナニ今日も來て居るとか　浮ソレ何處の部屋か　與　妾とは姉妹同様のあの浮舟さんがお相方心に濟まぬ客ながら妾の身の上を不便に思ひ貴方がお出なさるゝ迄引留めて置いて上んしやうと云て下さる渉親切マア嬉しいでハ渉　坐たぬか　與ム、切ハ浮舟さのゝ親切に依つて今日ハそで留めて置いたとな夫ハ何とも添はない補い跡にて下すとして免り角も开奴の人休全く日頃待遇人義川軍藏めに相違ないか念の爲め物陰より覗見が仕度い誠當の歟に相違なくば其場を去らせず名乘かけて身共が糞父實父の仇をつた其方ハ母の仇な女ながらも一太刀恨むがよい　與あい夫ハ合點で坐んす兎も角も浮舟さんを呼出して様子を聞いて見ましやうとやをら其座を起んとする時廊下に浮舟の聲として　浮與竹さん這入つて呉れ能う

いたンシン切つた方と感ぶ感ぐに兵藏も與竹も不審ながら急き其場へ駆付け頃はハヤ歳打ちしと覺しく數多の群集いちりんになり右と左へ別れながら　甲今の若い侍ハ何に似合ず中々腕が利いて居るな　乙夫に管主の仇を報ゆるといふ心だから捨ならない一方の色の黒い爺の方も中々の奴だつたが終へ違られもまつた　丙那の爺ハ能い年を仕やがつて何だってな此大磯の町で陀々羅を極て居た奴ださうだな　丁左様だらう何せ廓に馬鹿を盡せ入物に碌な奴はあゆやアしねへ杯噂さ合んて立去る様子に狭み兵藏と與竹ハ仰も何者の果しら合に氣掛りなと思ふ他松原影の細道を良半町程行きたるに彼方に白の鉢巻なし白小袖着たる若者が血染みた生首を小川の水に洗ひ居るにぞ初て淵出敷事かなと傍に近付いて顔を見れば思ひもやらぬ其若者ハ現に兵藏方の若黨にて與竹の爲にハ兄なる木梨新吾にてありければ是れハ〳〵と打驚ろき其生首を見れば紛ふ方なき當の敵菱川軍藏にてありけり扨ハ新吾に先越されたかと殘念なりと兵藏ハ其身の不覺を悔むのみ新吾ハ與竹より何細を聞いて兵藏の心中を察し道り若且那樣の功を奪はれて反つて家來の道でなし此首ハ渡しアさんといふ兵藏ハ強い仇を狙ふ子として親の仇を報ひざりし身共の不覺、臣として主の仇を報ひしは其方の手柄嬉るべき筈なりと云て新吾を賞し、其夜は濱花屋へ歸藩し事の由を領主に聞て見れば兵藏を身受し三人故郷へ歸りしが兵藏ハ思ふ由あり上京に留まり實父の殘せし度に入り追贈恩を受かりしが或日一通の遺書を認め柳川の家を新吾に讓る旨を細々と記し已れハ

三基の位牌の前に割腹して果たるを與竹の後にて聞知り是丈跡を追ふて自殺したれば死飯ハ庵へ一ツに葬むり夫婦塚といふ墓碑を建て新吾ハ柳川の家を繼ぎて亡人々の追福をいと懇に勤めしと云なん

（大團圓）

記者白す永久御愛讀を願ひし馬の嘶も獅子の靈を慰ぶし新年の紙上より是に優ること層一層面白き小說を掲げ皆なを而して其新小說は鬼が出るか蛇が出るか云はぬが花のおたのしみなるべし

❸×線と脈搏透見の法

伊太利の學者ハ心臓の動悸を怜まず手に取如く察らい得る新機械大學の講師ルハ博士其他二三の學者ハ×線を應用して脈搏より骨の運動を明かに透見するの術を工夫し先頃これを實驗したに成就を得て參觀せしが人々は只管學術研究を驚嘆せり云當時の機械を記さんに試驗室にハ一個の奇妙なる器械のみ置て他に何も普通の電氣機械のみ置て無しこれを見受さりしが此箱を即ち試驗の要素にして參觀人は箱の一端に在る小孔に目を押付見る間に室を通じ箱を管の方に差向れば今で黒色を帶居た箱の内部は忽ち灰白色に變じ又管は一種の光を放ちて其光赫耀たり此時ハート博士は管の前に其腕を差出せば肉の完然其の如くに透徹せり又て之を看て後左右に動じ又手を屈に上或は手首を上下に動ぜば其の通りに動じ又手を屈に上或は手首を上下に動ぜば其の通りに動じ又手を屈に上或は手首を上下に動ぜば其の通りに

▲歳の市　人にもまるゝ接摩あり歳の市、といふ骨皮道人が曾てくちずさみし狂句なるが扨て月日の經つ流つて矢の如く何の彼のといふ中に今年も早く今接摩の名に似たる歳の市も百目蠟燭に我ら人間なるかけ本り深川八幡の市を始め續いて淺草の市神田の市も過去りて市中何となく色めき立ち樒買て竹買て春を迎ふるの用意とり〳〵なるが中にも赤穂分の樂しさも籠りつゝあるべし依て玆に歳の市の起原及び今昔の比較を記して聊か讀者の參考とはなしぬる

▲歳の市の起原　歳の市は其初め淺草觀世音に開かれたるを略矢とするよし年代は疎らかならざれども古老の說によれバ今を去る二百三十八年前即ち高治二年両國橋の始めて架設せられし頃淺草寺門前近の商人ども注連飾草物その外二三種を立て賣りなしたるが歳の市の權輿なるべしといひ又一說に依れば夫より五六年の後寛文四甲辰年より淺草寺雷神門の左なる太神宮の地内蛭子神社の邊にて例年十二月九日十日の兩日に市を立て初め之を蛭子の市と呼びけるが其人出觀音の緣日即ちその月十七十八日の兩日に若かざりければ後之を變更して此緣日に市を立つることなりしといふ兩國橋の架設後に始りたる事を知る歳の市が兩國橋の架設後に始りたる事を知るに足るべし尤も其頃の注連飾　扨又門物を擔ぎ賣せし商人どもが淺草寺内若くは其附近に店を開き右の外藤手道具、農具、天秤棒の類を賣りたるに止まりしに此市年々に盛大となりければ遂には種々の物品を此所に持寄りて始めて市の形をなし降て元祿の頃に至りては諸大名、旗下、大店向きは毎年吉例として家人數名に革羽織を着せ籠長持を昇かしめて歳に諸品を買入るゝことなりけり其角の句に「年の市壁を呼ぶらん羽織との」とは遊廓、又は藝妓、職人の線引紋様などは緣喜を祝ひて花々しく隊を組み淺草市に押出すを吉例とするに依り其餘遠も亦緣喜を祝ひて盛宴を張りけれ〻並木の高年屋、上野廣小路の扇鍋、或は駒形の川魚、馬喰町の鳴蕨樂などを極めて繁昌したるよし

賑くて市は益〻盛大に赴きけれバ市商人も其味を占め其後八之の愛宕、麻布の平河天神、深川八幡、神田明神等にも日を定めて市を立つることゝなり特に愛宕の市は谷に泥棒の人の成光と笠に着て横行を振廻し例へば偽の品を金に變じ無錢にて携へ歸る又は種〻狠贈の所業に及びしが故なるべし左れば其頃愛宕の市の商人は淺草より我先にと店を仕舞遠歸る有様なりしと今も論起し相愛宕市に限らず他所にても此悪弊の行はれて往々間違を惹起す種とはなりけり

▲淺草市●両國橋　所〻で淺草の商人等の前記愛宕の市の如き悪弊の此所に狂い行はるゝを幸ひとし上野宮家へ願して宮家より歳の市取締方を時の寺社奉行に申出られければ寺社奉行は特に淺草の市に限り檢使の撿使に從者數十名を附して取締をなさしめ此大撿使と云ふは寺社奉行の名代役にて番頭役之を勤め頗る權威ありたるものなり裝束は宮家定紋を附したる黑縮緬の羽織に紺子の野袴を穿ち紺縮緬の上帶に陣笠を冠り馬乘にて撿使の供廻り數名を引連れたり又小撿使は大撿使の副役にて徒步にて腰刺の同心十六名各〻帶刀して赤房の十手を携へたるを隨へたり其他仲間は印半纏に六尺棒及び手錠、捕縄等嚴しく總勢四十名許り淺草寺に出張し一日數度巡廻して狼藉者を取締りければ淺草市には他所の如き悪弊なく從て其繁昌は亦格別にして例年歳の市の兩日は淺草見附外より西は上野廣小路、北は住吉近傍より南は淺草寺に至る迄その道筋の店々は精物なるべし或は手拭幅なんど押立て市の景氣を添へたりといふ

▲今昔の賣物と地割　扨に淺草歳の市にて昔しと變りたる物の重なるを記せば

注連飾　草物海老類　線喜物各種

謹言

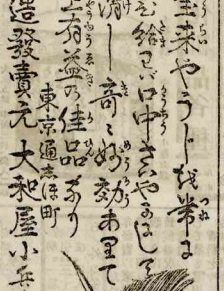
方今髢類原毛非常之騰貴ニ付止ヲ得ス最低格卸髢金四錢以下之品當分之内出來致兼候此段御承引被成下度奉願上候也

明治廿九年十二月二十日

東京髢職組合

諸國御客様

新製宝来やうゝ找者ゝ
由用ゐ給ひ口中さやはして
口熱を消し一奇〻妙効あるて
傷生上有益の佳品あり
東京通ほり町
製造發賣元　大和屋小兵衛



定價（金一錢包）一箱（十五包入）十箱以上割引　看板（一箱ニ付金拾錢）

特約大販賣店　本横町所　伊勢吉二丁目横山町　脇田一丁目横山町　柏善二丁目横山町　花王堂

深川仲町　大與　蛭殖町　井筒堂　常山北町　三寶堂　常山北町　三善下谷　萬金

通り仲町　花王堂　外神田一丁目　帝國堂　銀坐　佐々木三丁目　花房町　三勇馬喰町　三善下谷　守田

定價　大　九錢　小　二錢

近世無比　初雪

土州高知産髪屋町　化粧品　石鹸問屋

東京日本橋區通町五番地　山田篤三謹製　井上作次郎

牡丹香の功能は總香に委敷しるす

宮師　神酒口　五十名
招き猫　絵暮物　五十名
桶屋　打附物　三十八名
勝手道具類　羽根　八名
箕類　宮師　二十二名
海老草物　十名
磯佛　十二名
棒類　十名
笊　二名
帽子　二名

来櫃大黒
張子達磨
羽子板羽根
白木鉢
鏡同錠
豆ゑこと
麻茶袋
棒屋
破魔弓
鏡多頭園

左衛門の専賣品△金龍山幾代餅　雷おこと
又地割は店ノ一軒を間口六尺、奥行三尺と定め二日間の借料一貫ノ一百文なり本堂の東西及び正面敷石の上（但奉合に出店す）仁王門の兩側等に番號を以て店を出せり番號は切符に記されて地役人より之を所與し切符なき者の出店を許さず拠已に此地割の切符を受けたるものは翌年迄保存して毎年新規に改めて引替を爲もの例なりしかば切符は自から價を生じ仲間にて賣買あり就中中店の常店或は奥の掛弓店抔を二日間五両六両の位にて借り受け出店する者も間々ありしとゝ
近年に到りて淺草公園は東京市の管轄する所にして公園事務所の支配に屬し年々抽籤法に依り十二月十一日十二日の兩日抽割を定む、出店の數は年々多少の異動あれども大抵四百名前後なり
地割は一等より五等迄に區別して一人に付間口二間奥行一間と規定し一等は一坪五十錢、二等三一等の場所は本堂の兩側より本堂に向ひたる店及び正面の敷石の兩側等なり
又本年市商人の申送に其種類は左の如くなりしと但し昨年に比すれば概して二割以上の減少なるよし

桶類　五十三名
金物　二十四名
羽子板　六十五名
破魔弓　八名
櫛　二十五名
達師　十二名
俵　十名
箒木　十名
飲食店　二十五名
暖簾店　二名

▲博覧會評議員會審議の結果
此程來農商務省樓上の會議室に於て開會中なりし博覧會評議員會は去る十四日より終了を告げたる由なるが今回の會への諮問は都合六案にして其密議修正可決したるもの左の如くなりと
第一問　出品撰擇の方針
一諸産物は既に賣易品として世上の販路を有し若くは幾多の販路を有すると雖も未だ販路を有せざるも將來大に之を擴張するの見込あるものに限る
一諸陶械諸工具等は本邦人の創意にして機巧特に秀つるもの又は源を海外に取るも本邦に於て之に改良を加へたるもの又は源を海外に取り最て改良を加へたるものに至らざるも其製作の精巧外品と相競ふに足るべきものに限る
一美術品は技術巧妙の貴ぶべきは勿論既に本邦風の高雅趣文の價を表發し或は又外人をして其計趣を聴知し易からしむる旨を擴大事一日猶戰爭等の國に於て彼の取ると示し我の譽を誇羅するが如き國に可成之を選べき事
一美術工藝品は意匠、精巧、堅牢を主とし特に其趣味は十分本邦固有の風格を保持し而て外人の用具に應用するに足べきものを撰び出事
一教育、學藝、衛生、警衛、印刷等は特別の進度を示す所以なり宜しく要を取り警を省き實を以て示すことを得べきものは實物を出し實物以て示すべからざるものは或は附要の規則法令等を編譯し或は統計記錄を編纂する事
一參考品は普通品に在ては本邦物産の特異及産源を顯はすを目的とし右物又は美術品に在ては本邦既往の開明を示しまは本邦及物の高雅奇麗を顯はすを以て目的とする事
第二問　出品整理の方針
一第一問の審議に於て決定する所の出品撰擇の方針に基き事務局は主なる各廳並に出品人の管内に於て出品に適すべき物産及其他物産の撰擇を定め各地方長官に命じ出品を廃勵すべき常業者又は地方の稱揚を爲すべし尤も之が撰擇には付ては商業會議所は適當なる諸協會若くは諸組合に諮問せしむる事
但各官廳出品に就ては事務局に於て直に各官廳へ照會すべし
二地方長官は前項の手續に依り慎重なる詮議を經て其意見を定め之を事務局に報告して其認可を受けしむる事
三事務局に委員若干名を置き出品表目録並物數撰擇の標準委托を爲さしむ但出品種類の區別及出品の許否に關する事項を調査せしむる事

特別練製
優麝香入高評石鹸
○優麝香入高評石鹸　定壹號一個廿五錢　貳號一個十五錢
此程來農商務省樓上の會議室に於て開會中なりし博覧會評議員會は去る十四日より終了を告げたる由なるが今回の會への諮問は都合六案にして其密議修正可決したるもの左の如くなりと
第一問　出品撰擇の方針
一諸産物は既に賣易品として世上の販路を有し若くは幾多の販路を有すると雖も未だ販路を有せざるも將來大に之を擴張するの見込あるものに限る
一諸陶械諸工具等は本邦人の創意にして機巧特に秀つるもの又は源を海外に取るも本邦に於て之に改良を加へたるもの又は源を海外に取り最て改良を加へたるものに至らざるも其製作の精巧外品と相競ふに足るべきものに限る
一美術品は技術巧妙の貴ぶべきは勿論既に本邦風の高雅趣文の價を表發し或は又外人をして其計趣を聴知し易からしむる旨を擴大事一日猶戰爭等の國に於て彼の取ると示し我の譽を誇羅するが如き國に可成之を選べき事
一美術工藝品は意匠、精巧、堅牢を主とし特に其趣味は十分本邦固有の風格を保持し而て外人の用具に應用するに足べきものを撰び出事
一教育、學藝、衛生、警衛、印刷等は特別の進度を示す所以なり宜しく要を取り警を省き實を以て示すことを得べきものは實物を出し實物以て示すべからざるものは或は附要の規則法令等を編譯し或は統計記錄を編纂する事
一參考品は普通品に在ては本邦物産の特異及産源を顯はすを目的とし右物又は美術品に在ては本邦既往の開明を示しまは本邦及物の高雅奇麗を顯はすを以て目的とする事
第二問　出品整理の方針
一第一問の審議に於て決定する所の出品撰擇の方針に基き事務局は主なる各廳並に出品人の管内に於て出品に適すべき物産及其他物産の撰擇を定め各地方長官に命じ出品を廃勵すべき常業者又は地方の稱揚を爲すべし尤も之が撰擇には付ては商業會議所は適當なる諸協會若くは諸組合に諮問せしむる事
但各官廳出品に就ては事務局に於て直に各官廳へ照會すべし
二地方長官は前項の手續に依り慎重なる詮議を經て其意見を定め之を事務局に報告して其認可を受けしむる事
三事務局に委員若干名を置き出品表目録並物數撰擇の標準委托を爲さしむ但出品種類の區別及出品の許否に關する事項を調査せしむる事

優麝香入
特別練製
○優麝香入高評石鹸　定壹號一個廿五錢　貳號一個十五錢
抑此石鹸は世間在來の物と異なり純粹無雜にして芳香甚しく加へ如何なる原料を用ゆるや知る能はざるなり其眞實の義に就ては秘密なる云へ斗り
此程來農商務省樓上の會議室に於て開會中なりし博覧會評議員會は去る十四日より終了を告げたる由なるが今回の會への諮問は都合六案にして其密議修正可決したるもの左の如くなりと
第一問　出品撰擇の方針
一諸産物は既に賣易品として世上の販路を有し若くは幾多の販路を有すると雖も未だ販路を有せざるも將來大に之を擴張するの見込あるものに限る
一諸陶械諸工具等は本邦人の創意にして機巧特に秀つるもの又は源を海外に取るも本邦に於て之に改良を加へたるもの又は源を海外に取り最て改良を加へたるものに至らざるも其製作の精巧外品と相競ふに足るべきものに限る
一美術品は技術巧妙の貴ぶべきは勿論既に本邦風の高雅趣文の價を表發し或は又外人をして其計趣を聴知し易からしむる旨を擴大事一日猶戰爭等の國に於て彼の取ると示し我の譽を誇羅するが如き國に可成之を選べき事
一美術工藝品は意匠、精巧、堅牢を主とし特に其趣味は十分本邦固有の風格を保持し而て外人の用具に應用するに足べきものを撰び出事
一教育、學藝、衛生、警衛、印刷等は特別の進度を示す所以なり宜しく要を取り警を省き實を以て示すことを得べきものは實物を出し實物以て示すべからざるものは或は附要の規則法令等を編譯し或は統計記錄を編纂する事
一參考品は普通品に在ては本邦物産の特異及産源を顯はすを目的とし右物又は美術品に在ては本邦既往の開明を示しまは本邦及物の高雅奇麗を顯はすを以て目的とする事
第二問　出品整理の方針
一第一問の審議に於て決定する所の出品撰擇の方針に基き事務局は主なる各廳並に出品人の管内に於て出品に適すべき物産及其他物産の撰擇を定め各地方長官に命じ出品を廃勵すべき常業者又は地方の稱揚を爲すべし尤も之が撰擇には付ては商業會議所は適當なる諸協會若くは諸組合に諮問せしむる事
但各官廳出品に就ては事務局に於て直に各官廳へ照會すべし
二地方長官は前項の手續に依り慎重なる詮議を經て其意見を定め之を事務局に報告して其認可を受けしむる事
三事務局に委員若干名を置き出品表目録並物數撰擇の標準委托を爲さしむ但出品種類の區別及出品の許否に關する事項を調査せしむる事

特別練製
優麝香入
高評石鹸
抑此石鹸は世間在來の物と異なり純粹無雜にして芳香甚しく加へ如何なる原料を用ゆるや知る能はざるなり其眞實の義に就ては秘密なる云へ斗り
此程來農商務省樓上の會議室に於て開會中なりし博覧會評議員會は去る十四日より終了を告げたる由なるが今回の會への諮問は都合六案にして其密議修正可決したるもの左の如くなりと
第一問　出品撰擇の方針
一諸産物は既に賣易品として世上の販路を有し若くは幾多の販路を有すると雖も未だ販路を有せざるも將來大に之を擴張するの見込あるものに限る
一諸陶械諸工具等は本邦人の創意にして機巧特に秀つるもの又は源を海外に取るも本邦に於て之に改良を加へたるもの又は源を海外に取り最て改良を加へたるものに至らざるも其製作の精巧外品と相競ふに足るべきものに限る
一美術品は技術巧妙の貴ぶべきは勿論既に本邦風の高雅趣文の價を表發し或は又外人をして其計趣を聴知し易からしむる旨を擴大事一日猶戰爭等の國に於て彼の取ると示し我の譽を誇羅するが如き國に可成之を選べき事
一美術工藝品は意匠、精巧、堅牢を主とし特に其趣味は十分本邦固有の風格を保持し而て外人の用具に應用するに足べきものを撰び出事
一教育、學藝、衛生、警衛、印刷等は特別の進度を示す所以なり宜しく要を取り警を省き實を以て示すことを得べきものは實物を出し實物以て示すべからざるものは或は附要の規則法令等を編譯し或は統計記錄を編纂する事
一參考品は普通品に在ては本邦物産の特異及産源を顯はすを目的とし右物又は美術品に在ては本邦既往の開明を示しまは本邦及物の高雅奇麗を顯はすを以て目的とする事
第二問　出品整理の方針
一第一問の審議に於て決定する所の出品撰擇の方針に基き事務局は主なる各廳並に出品人の管内に於て出品に適すべき物産及其他物産の撰擇を定め各地方長官に命じ出品を廃勵すべき常業者又は地方の稱揚を爲すべし尤も之が撰擇には付ては商業會議所は適當なる諸協會若くは諸組合に諮問せしむる事
但各官廳出品に就ては事務局に於て直に各官廳へ照會すべし
二地方長官は前項の手續に依り慎重なる詮議を經て其意見を定め之を事務局に報告して其認可を受けしむる事
三事務局に委員若干名を置き出品表目録並物數撰擇の標準委托を爲さしむ但出品種類の區別及出品の許否に關する事項を調査せしむる事

優麝香入
高評石鹸
特別練製
優麝香入高評石鹸
○優麝香入高評石鹸　定壹號一個廿五錢　貳號一個十五錢
抑此石鹸は世間在來の物と異なり純粹無雜にして芳香甚しく加へ如何なる原料を用ゆるや知る能はざるなり其眞實の義に就ては秘密なる云へ斗り
此程來農商務省樓上の會議室に於て開會中なりし博覧會評議員會は去る十四日より終了を告げたる由なるが今回の會への諮問は都合六案にして其密議修正可決したるもの左の如くなりと
第一問　出品撰擇の方針
一諸産物は既に賣易品として世上の販路を有し若くは幾多の販路を有すると雖も未だ販路を有せざるも將來大に之を擴張するの見込あるものに限る
一諸陶械諸工具等は本邦人の創意にして機巧特に秀つるもの又は源を海外に取るも本邦に於て之に改良を加へたるもの又は源を海外に取り最て改良を加へたるものに至らざるも其製作の精巧外品と相競ふに足るべきものに限る
一美術品は技術巧妙の貴ぶべきは勿論既に本邦風の高雅趣文の價を表發し或は又外人をして其計趣を聴知し易からしむる旨を擴大事一日猶戰爭等の國に於て彼の取ると示し我の譽を誇羅するが如き國に可成之を選べき事
一美術工藝品は意匠、精巧、堅牢を主とし特に其趣味は十分本邦固有の風格を保持し而て外人の用具に應用するに足べきものを撰び出事
一教育、學藝、衛生、警衛、印刷等は特別の進度を示す所以なり宜しく要を取り警を省き實を以て示すことを得べきものは實物を出し實物以て示すべからざるものは或は附要の規則法令等を編譯し或は統計記錄を編纂する事
一參考品は普通品に在ては本邦物産の特異及産源を顯はすを目的とし右物又は美術品に在ては本邦既往の開明を示しまは本邦及物の高雅奇麗を顯はすを以て目的とする事
第二問　出品整理の方針
一第一問の審議に於て決定する所の出品撰擇の方針に基き事務局は主なる各廳並に出品人の管内に於て出品に適すべき物産及其他物産の撰擇を定め各地方長官に命じ出品を廃勵すべき常業者又は地方の稱揚を爲すべし尤も之が撰擇には付ては商業會議所は適當なる諸協會若くは諸組合に諮問せしむる事
但各官廳出品に就ては事務局に於て直に各官廳へ照會すべし
二地方長官は前項の手續に依り慎重なる詮議を經て其意見を定め之を事務局に報告して其認可を受けしむる事
三事務局に委員若干名を置き出品表目録並物數撰擇の標準委托を爲さしむ但出品種類の區別及出品の許否に關する事項を調査せしむる事

登録商標
TRADE MARK
金城道人
精選銘法
めさまし
御藥を始め
新發賣
東京市神田區金城堂製
東京市神田區金城堂
定價　大瓶廿錢　中瓶十錢　小瓶五錢
大瓶五錢　中瓶三錢　小瓶二錢

小間物化粧品各種
花王洗粉
色白くしかも肌へ美しくなる
九頭龍ゆうスリ
艶自慢
白白くしかも肌へ美しくなる
めさまし石鹸
方香卓絶
良燥石鹸
都すみた
西洋化粧品
きめのはた
東京市日本橋區横山町
大野金五郎

特別
別引
三十錢
三十五錢以上
（仝）
三十五錢以上
（仝）
三十錢
三十五錢
三十錢
三十五錢
三十錢
三十五錢

四出品人直接に出品するものは其官を屆出しむる五出品人に於て其出品に關する一切の事務を委託すべき者自ら定めたるときは双方連署の上屆出しむる事

六出品人自ら出品に關する事務を取扱はざるか又は直接に委托すべき受托者を選ぶに適せざるか可を得たる受托者に委托せしむる事

七前項に依り出品者に委托せしむる事精巧等に關する一切の委託を引受けんと欲する者は物品の種類に應じ責任管理の方法を設け事務局へ願出認可を受けしむる事

八前項の委托を引受くるものは同種類に付一協會若くは一組合に限る事

九第七項に依り委托を引受くるものは其事務を處辨するため適當の事務委員を撰定し其姓名を事務局へ屆出しむる事

十繼て出品取扱に關し博覽會開設地に渡航する者は其姓名を事務局へ屆出しむる事

十一第七項の受托者より派出する渡航委員に對し若干渡航費を事務局より補給する事

十二第七項の受托者より派出する渡航委員に對し若干渡航費を事務局より支給する事

十三第項渡航委員の外出品人若くは代理人渡航するときは若干の船車賃を事務局より支給する事

十四出品人及出品受托者は出品に關する一切の事十五官廳に於て出品に關する事務局の指揮監督を受けしむる事

十六官廳の出品は輸送及積戻に至るまで事務局直接之を管理する事

第三回　特殊の出品補助の方針

一美術品美術工藝品諸機械工具模型標本の類は之を賣上げ其他特殊の方法を設けて補助奬勵を加ふる事

一前項方法に関し明治三十二年中特に優開設するものを撰抜し其等級に依り之を賞上げ又は補助して協會又は技術者の名義を以て出品せしむる事

一參考品は第一回第六項の目的に適合するものに限り之を賞上げ又は公館有志者の所藏品を借り入れ事務局に於て出品すべし

第五回　事務攻究員派遣の方針

一左の事項を攻究せしむる爲め適當なる人物を撰擇し派遣する事

博覽會場各館の排置建築及其附帯工事

一出品の配置陳列及列品場の裝飾法並飾箱臺の意匠

第六回　出品規則

今回の評議員會に於て可決せし臨時博覽會出品規則の左の如し

第一條　明治三十三年巴里萬國大博覽會出品現則十一月五日迄）佛國巴里府に開設する千九百年巴里萬國大博覽會に出品せんとせる者は別に規定あるものを除くの外此規則に依る者とす

第二條　明治廿九年七月廿日時博覽會事務局告示第一號の部類に該當し左の各項に適合する物品は出品すること自得

一、美術品を天はざる的の技能に限る

二、美術工藝品は美術を旗用し優雅尚久能海外の需用に適し喧好に應ずるものに限る

又同評議員會に於て評議員早川孫弥氏外數名より提出可決せし建議案は左の如しと云ふ（可決）

建　議

明治三十三年巴里萬國博覽會は歐洲文明の中心に於て字内の精華を萃め尚國の利益を競進する為め其事務局は既に渡航計畫の為め遠算なきを期せらるべし之に鑑み左記の事項は該博覽會の好果を収むるに最も効なるを以て特に朝野官民を征進して之れが賛行を勧められんことを希望す

一、適當なる專門家を朝野より撰抜して博覽會開設地に派遣し各國出品に就き精密の攻究を遂げ併せて本邦重要物産に關する市上の情況をも調査せしめられたる事

一、我熟練なる良工を撰抜派遣して各國の出品に就き周到研究を遂げ以て我製品品質を希圖せんとする事

一、審査官は成るべく多數の人員を派遣し本務の外前二項の派遣員と相待て精密の研究をなさしめられたる事

一、博覽會出品中に於て習慣の資料となるべき標本を購求せられたる事

議（可決）

一貴神宮宮家若くは妙技者に對し事務局より特に國力富源勸誘の目的を以て特別有功なるものは賞功の上奏ありんことを希望す

一、櫻井の家に潜し三枝の家を立て置とは片腹痛き話なり、父の無念は如何計りなるぞ。サア親常に立ち出て勝負を挑せ。乘物の中にて聞かれた掛解由。家來共がバラ〳〵と立掛らうとするを押留め、思ふ通の珍らしい小金吾殿。云はるゝ處尤も至極。如何にも時常に勝負いたすもの。彼の卑怯を働き召されるな。家來共鳥籠の戸を引けと。鳥籠の戸を引かして立出たるゐ。當年二十三歳三枝の掛解由景憲。紺縮子の野袴黒羅紗の裂羽織。家來に持たせし槍を取り出し。鳥家來共主人の身に何の機なく危き事のあらうとも。決して出て口論成らん。先方は斯く淫問しき下郎奏。某の大勢の家來を連たるゆゑ。家來に助太刀いたさるゝと云ふ六ヶ敷士の恥辱。決して手出しは相成らんと。冷委細承知仕まして待坐いたす。大鹽平八郎之を見て。平ア、迚れは。さう云ふ傳助。鳥なるほど恐れ入りました。併し向ふハ江派な淫武家で強さうだが。可哀想に病身らしい人足が敵きを討といふなら六ヶ敷士の。彼りやアア返り討になりませぬ。平遠寄の悪いを云ふな。討れもまた中に返り討など、……双方位取に及び暫らく眼み合て居りましたが。中々をうるゝ小金吾の搦へまだ年十九か廿歳位で。あるが凄ましいものゆゑ。成心をして見て居りましたが。掛解由景憲といふ者は。劍道ばかりでなく槍術も能く出來ますが。併しどうしても小金吾の方が急き込で居るやうで淫坐います。向ふハ泰然として居ります處を見て。平可哀想に彼りやア返り討だ。返り討になるツイ。さう了致して助太刀を致して遣り度ない。天保年間に其名を揚げた大鹽平八郎。勝負如何にと息をこらして見て居ります。双方堅をあげやッと突出す掛解由の槍は。電光石火アッヤ小金吾ハ。思ひしに。ヒラリと身を替して突出す槍を右に開き。向ふの呼吸の亂るゝ。隙を待て居る樣子。されど掛解由の槍術は中々熟練致して居るゆゑ。容易に手繰るの淫計らひ。父の無念は如何計りなるぞ。サア親常立て出て勝負を挑せ。乘物の中にて聞かれた掛解由。家來共がバラ〳〵と立掛らうとするを押留め。鳥運の珍らしい小金吾殿。云はるゝ處尤も至極。如何にも時常に勝負いたすもの。彼の卑怯を働き召されるな。家來共鳥籠の戸を引けと。鳥籠の戸を引かして立出たるゐ。當年二十三歳三枝の掛解由景憲。紺縮子の野袴黒羅紗の裂羽織。家來に持たせし槍を取り出し。鳥家來共主人の身に何の機なく危き事のあらうとも。決して出て口論成らん。先方は斯く淫問しき下郎奏。某の大勢の家來を連たるゆゑ。家來に助太刀いたさるゝと云ふ六ヶ敷士の恥辱。決して手出しは相成らんと。冷委細承知仕まして待坐いたす。大鹽平八郎之を見て。平ア、迚れは。さう云ふ傳助。鳥なるほど恐れ入りました。併し向ふハ江派な淫武家で強さうだが。可哀想に病身らしい人足が敵きを討といふなら六ヶ敷士の。彼りやア返り討になりませぬ。平遠寄の悪いを云ふな。討れもまた中に返り討など、……双方位取に及び暫らく眼み合て居りましたが。中々をうるゝ小金吾の搦へまだ年十九か廿歳位で。あるが凄ましいものゆゑ。成心をして見て居りましたが。掛解由景憲といふ者は。劍道ばかりでなく槍術も能く出來ますが。併しどうしても小金吾の方が急き込で居るやうで淫坐います。向ふハ泰然として居ります處を見て。平可哀想に彼りやア返り討だ。返り討になるツイ。さう了致して助太刀を致して遣り度ない。天保年間に其名を揚げた大鹽平八郎。勝負如何にと息をこらして見て居ります。双方堅をあげやッと突出す掛解由の槍は。電光石火アッヤ小金吾ハ。思ひしに。ヒラリと身を替して突出す槍を右に開き。向ふの呼吸の亂るゝ。隙を待て居る樣子。されど掛解由の槍術は中々熟練致して居るゆゑ。容易に小金吾ハ手詰の

▲某氏の經濟談

我國今日の經濟事情を解釋せんとせば資本と通貨の供給と需用を委しく調査せざる可らず然しながら資本の移動を知ると容易に非ずして通貨の事亦容易ならざる問題なり依て其當局者の語る所により現今の事情及び將來の結果如何を記さんに

銀貨の下落と物價の騰貴

印度政府に於て銀貨の自由鑄造を禁止し米國政府亦其賦入を挽回するの勢を以て下降したる銀の價は我國の物價を底より動かして一時は輸出の利を爲す輸入の不利を爲す從て通貨は膨脹し物價は騰貴したる爲め一時甚しき活氣を添へたるとして心酒の起るさんとするに當り後然として目消の感を起れり此銀貨暴落より戰爭商運物價騰貴の樞機を聞くに農產物も工產物も概して皆一割五分にして從來輸出に利なかりしものも之を輸出するの利を見たるの少からず又輸入品に關係されたるものも大抵倒するの力を得たり是に於て百般の生產事好況に向ひたる生產組合より引出されて軍事費に投ぜられたり是に於てか經濟社會は知らず知らず生產資本の一部分を失のたるに拘らず戰勝の餘燼を拾て事業の發達を希ひたるものの少なからず

戰後の事情

戰爭商運物價騰貴の樞機を聞くに農產物も工產物も概して皆一割五分にして從來輸出に利なかりしものも之を輸出するの利を見たるの少からず又輸入品に關係されたるものも大抵倒するの力を得たり是に於て百般の生產事好況に向ひたる生產組合より引出されて軍事費に投ぜられたり是に於てか經濟社會は知らず知らず生產資本の一部分を失のたるに拘らず戰勝の餘燼を拾て事業の發達を希ひたるものの少なからず

戰後の事情

然るに戰後の事情は戰爭中生產的の資本を一時引拔きて之を全く消費したるに拘らず其消費したる金の幾部分否全部分外に寧ろ外國より來りて軍人、軍馬及び戰爭供給者の手に入りしもの少からず殊に此輩は其性質上生產的の營業者に非ずして皆不生產的の消費者なれば戰後狹れも其金を收支するに吝ならず衣食住とも皆爭て之を求ひる爲め紙幣の購買力は非常に增加し戰爭前に比して現今一割五分の勝貴あり之は實際統計家の云ふと之るなり去れば銀貨下落と戰爭とに依て我國の物價は明治廿五年に比すれば實に四割の差を生せり生產者好況を盲はずして可ならんや工業者喜ばずして可ならんや起業家の野心又起らずして止まんや

生產業

の中農家の繁榮は實に驚想外にして如何繁榮とい實に今日の事なり到るところ田畑の總て夜業を爲し家内閑暇して婦色両外に溢る是を以て壯年の他郷の出稼を嫌ひ婦人の婚姻を喜ぶや爲め都會の勞働にまで其影響を與へしの日常目擊するところ爲る可し又鎮業の農業に次で盛なり石炭の寡行るい次で供給の少なきを訴ふれども勞働者少なくして之に應ずる能ハざるの誤りなき事實といふ可又石油業の如き者しも五六年前の相場ならんにハ到に之を發場するものなりしならんに今や廣大の景況として企業家の競爭場たりて工業業の斯の如く或は輸出の爲め又は輸入物に代る爲め及び戰後勝貴分想の爲め背景況ならざるいなし

企業家の勃興

戰爭前後の形勢は即の如くなる爲め種々の企業に全國到るところに起りて種々の事業を目論ずるものの甚多く鐵道、銀行、其他諸事業の勃興又數ふ可からざるに至れり然しながら以上陳る如く物價の騰貴して生產者の氣好き銀貨の下落に依り物價の上りたる之戰後の賜買力從來の軌道と異なりたる爲に即ち不生產者の手に起りし者なりたる爲に即ち不生產者の手に起りし者なりにして此間に實際の資本喜ず膨脹したるに非ず寧ろ一億五千萬圓の資本の幾分か去られて實力の縮少し居る際なり去れば銀貨家の希望ハ空想にして今や利足の騰貴と金融の逼迫に苦み居るも嫌なる事といふ可し戰後持主に異りたる流動金も未だ銀行者の手に入らざる間に銀貨の結果と價金の領收とい早くも紙幣の濫發を起し來れり

紙幣濫發と貿易の不平均

今や我國は貴幣の濫發を告げたるの秋なり或は貿易の不平均を以て通貨濫發の結果に非ず價金を英國より引寄するは爲替の我れに不利なるが爲めなりと云ふ可し雖も貴幣價金を引き寄せ始めたる以本年三月にして且つ爲替の相場も午程格外なるに非ず唯重なる原因は實に通貨の膨脹したると輸入商が戰後の賣行きを見込て約束仕入れを爲したるにあり故に此事に嘱者ざるべきの以頃り通貨を乏しきが爲め利息の高きものを思ひ之を貸て貸出しを增さしめんとすと雖も是れ理に於てゐるまとき事にして之を喩へば橋に餐みれと既に十分の水を渡へたるものにして此以上に發行せば濫發して他に出ん事明りなり

前途の樂想

然らば此前途は果して如何物價は此儘に維持す可きか利足も亦此點に止る可きか輸入物は一切負給より超過の色ありて需要者は寧ろ賣拔くに汲々たり又內地の製造品も同じく生產超過の色ありて持重する商人の間は都會の地も今日の繁榮を保つ可し盛んなる者は最早其敗益を遂へ來つるか然らずんば自然儲蓄を起して振勞を止むるが故に決して永續す可からざるは明かにして少くも最初之が爲めに動きたる點即ち一割五分までの下落と一般に及ぼすや明かならん去れ今日商賣の別も道を起る投機的會の希望が遠して新事業の勃興するは寧ろ今日の如き商品賣行きの盛んなる時に於て此賣行の減退して流動金に餘剩を來すの時にあり可し今や全國の景況は押なべて消費の一方にのみ傾き生產力の寧ろ增加せざるも價の騰貴して利益ある爲め所謂剩さすして喰ふの傾きあり故に是等の實力が溜り積んで新資本の流動を起すは其日月を遲せざる可く又愈々活潑を起すや然しながら遠を一般の事業に見る可き事明かなりしかも今日斯の如きの事情中に人爲的の救濟策は決して其必要なるのみならず國家の經濟上甚だ有害なるなり

▲日獨條約と特別輸出入港

歐米諸國にて貴幣の爲め通商港を設くるに付て條約上の規定を以てしたるなどの例なくんを港を開き港を閉ずるが如きことは一國主權者の自由なる權能に屬して頃日北龍公布せられたる日獨條約に在りては條約上、明かに通商港の事を約定し特其港の約定する所、日英條約等の所定に比して最明晰なるが如し新條約の所定に據れば總て特別輸出入港と指定せられたる博多、日ノ津、唐津、敦賀、境、濱田の六港は皆條約實施後、特り日本人所有の船舶のみならず外國人所有の船舶にも輸出入を許すべきことゝなるべく從て日本の通商港は今後、新に增すべきを除き現在の五港に本年指定の六箇特別港を加へて總計十一港となるべき都合なり然れば九州に四港、畿內に一港、山陰道に二港、北海道に一港、東海道に一港、山陽道に二港、四國、山陽、東山の三道に一の互に通商港を增すことなれど頃日獨逸の議、起らんと雖なきも所なり開く事

▲はゞ物（時事新報に載る）

〔前号の續〕

上目とは木理の最も細かにして年數を經たるもの三十年位を經たるは上の部にて木理の最も正しく最も細かなるは臺のみにて十圓以上に達するもあり中目は稍粗くして十年内外を經たるもの三四年に過ぎざる小木に至りては粗目と唱へて直段も亦隨て下直なり表も亦極精撰せば表のみにて十圓以上に達するものゐれども石は好みの譏向と知る可し

▲婦人向　上目横柾小町臺（底可く高き方）にて表は本南部、鼻緒は本天丸物、小櫻色雪の色、直段は四圓五十錢位

黒塗り小町臺にて表本南部又は籐表鼻緒繻珍裏本天の腹合等最も高尚なり直段は三圓五十錢位

令嬢向　黒塗りにて高き品、又は「ダメ」塗りをよしとす籐表に鼻緒は繻珍裏本天の腹合、直段は三圓五十錢位

黒塗り小町臺、又は「ダメ」塗り黒塗りに金時繪付、本南部繻珍裏本天或は本天丸物、小櫻色雪の下色等、直段は四圓より三圓五十錢位

商人向　横柾道鳴臺、高さ二寸より一寸九分表は南部、鼻緒は市樂鹿裏、又は紅梅織鹿裏、鹿鳴丸物等、直段は二圓五十錢位

職人向　上目横柾道鳴臺又に横柾無操臺高さ一寸八分より一寸七分表は本南部、鼻緒は鹿鳴丸物、又は本天糖丸物、鼠色又は御納戸色の「ラシャ」丸物等、上等直段四圓位

尚柾大阪（俗に月和下駄）市三寸四五分、形は角又は丸にて樫羽、鼻緒は南同斷、直段は上等二圓位

藝人向　横柾両操臺、又は横柾跡丸臺、本南部表、鼻緒は上珍繻裏本天の腹合、中州印傳繪、皮鹿鼠裏の腹合等、直段は上等四圓位

内儀向　白木貫鳴臺、横柾南部表、鼻緒は本天丸物色は黒、御納戸、利久色等にて直段三圓位

又は白木横柾の東下駄、南部表、鼻緒前同樣、上等直段二圓五十錢位

右の外雪駄も亦近年流行し始めて唯今の賣ると雖く男物の上等品は臺厚三枚に裏金は真鍮を用ひ鼻緒に絹二筋裏鹿の腹合にして三圓内外のもの紳士紳商の間に流行せり普通品は臺跡だけを二枚にして鼻緒は凡て縞り物を用ひ此直段一圓五十錢前後のもの商店の手代等に行はる婦女子向には上等臺厚三枚又は二枚にて鼻緒は本天丸物、色い小櫻色、雪の下等二圓五十錢位、又五十錢より色い小櫻色、雪のもの亦追ふ小學校の男生女生間に流行し始め共賣日頗る宜しき方ありとか

（終）

▲地中電話埋設計畫　東京及大阪の如き繁華の大都會に於ける電話線は日を追て其増加するに隨ひ風雨の際線あるも毎に往々混線を飛線を為す事あり其他通信上不完全の點少からずして其筋に於ては先頃地上地中線を設け將來漸を以て現在の空架線をも改設せんとし逐に局技師工學士飯沼基次郎氏を大阪に出張せしめて測地に從事しめつゝあり同氏の談なりとて大阪朝日に記す所を見るに右地中線は既に横濱に埋設され實驗上効用の全くるを認められわるも費莫大にして空架線の十數倍に上り迚も一時に各地を通じ改設し難ければ通信上頗る繁雑なりさる土地は後廻しとし先づ東京大阪より着手せる次第にて東京の分は約二十萬圓を投じ本局及伏見濠北分局（日本橋區濠北町）間に設け大阪は約十萬圓とし本局を中心に東に東横堀西に西横堀南に南久寶寺町、北に平野町を限り界とし此區域外にても既に電用の許可を限り空架線を撤せんと考案なれば次に坂ハ糖丸物、鼠色又は御納戸色の「ラシャ」丸物等、上等直段四圓位

尚柾大阪（俗に月和下駄）市三寸四五分、形は角又は丸にて樫羽、鼻緒は南同斷、直段は上等二圓位

藝人向　横柾両操臺、又は横柾跡丸臺、本南部表、鼻緒は上珍繻裏本天の腹合、中州印傳繪、皮鹿鼠裏の腹合等、直段は上等四圓位

内儀向　白木貫鳴臺、横柾南部表、鼻緒は本天丸物色は黒、御納戸、利久色等にて直段三圓位

又は白木横柾の東下駄、南部表、鼻緒前同樣、上等直段二圓五十錢位

右の外雪駄も亦近年流行し始めて唯今の賣ると雖く男物の上等品は臺厚三枚に裏金は真鍮を用ひ鼻緒に絹二筋裏鹿の腹合にして三圓内外のもの紳士紳商の間に流行せり普通品は臺跡だけを二枚にして鼻緒は凡て縞り物を用ひ此直段一圓五十錢前後のもの商店の手代等に行はる婦女子向には上等臺厚三枚又は二枚にて鼻緒は本天丸物、色い小櫻色、雪の下等二圓五十錢位、又五十錢より色い小櫻色、雪のもの亦追ふ小學校の男生女生間に流行し始め共賣日頗る宜しき方ありとか

（終）

▲地中電話埋設計畫　東京及大阪の如き繁華の大都會に於ける電話線は日を追て其増加するに隨ひ風雨の際線あるも毎に往々混線を飛線を為す事あり其他通信上不完全の點少からずして其筋に於ては先頃地上地中線を設け將來漸を以て現在の空架線をも改設せんとし逐に技師工學士飯沼基次郎氏を大阪に出張せしめて測地に從事しつゝあり同氏の談なりとて大阪朝日に記す所を見るに右地中線は既に横濱に埋設され實驗上効用の全くるを認められわるも費莫大にして空架線の十數倍に上り迚も一時に各地を通じ改設し難ければ通信上頗る繁雑なりさる土地は後廻しとし先づ東京大阪より着手せる次第にて東京の分は約二十萬圓を投じ本局及伏見濠北分局（日本橋區濠北町）間に設け大阪は約十萬圓とし本局を中心に東に東横堀西に西横堀南に南久寶寺町、北に平野町を限り界とし此區域外にても既に電用の許可を限り空架線を撤せんと考案なれば次に坂ハ糖丸物、鼠色又は御納戸色の「ラシャ」丸物等、上等直段四圓位

尚柾大阪（俗に月和下駄）市三寸四五分、形は角又は丸にて樫羽、鼻緒は南同斷、直段は上等二圓位

藝人向　横柾両操臺、又は横柾跡丸臺、本南部表、鼻緒は上珍繻裏本天の腹合、中州印傳繪、皮鹿鼠裏の腹合等、直段は上等四圓位

内儀向　白木貫鳴臺、横柾南部表、鼻緒は本天丸物色は黒、御納戸、利久色等にて直段三圓位

又は白木横柾の東下駄、南部表、鼻緒前同樣、上等直段二圓五十錢位

右の外雪駄も亦近年流行し始めて唯今の賣ると雖く男物の上等品は臺厚三枚に裏金は真鍮を用ひ鼻緒に絹二筋裏鹿の腹合にして三圓内外のもの紳士紳商の間に流行せり普通品は臺跡だけを二枚にして鼻緒は凡て縞り物を用ひ此直段一圓五十錢前後のもの商店の手代等に行はる婦女子向には上等臺厚三枚又は二枚にて鼻緒は本天丸物、色い小櫻色、雪の下等二圓五十錢位、又五十錢より色い小櫻色、雪のもの亦追ふ小學校の男生女生間に流行し始め共賣日頗る宜しき方ありとか

（終）

岳善廣告

改良　柳ばし形
一文字形
御てんがた
歌舞伎新形
名一　樂屋好
かづらがた
入白　新小町形

最新流行　御まげ入

軍艦　歯磨　本店　岳海屋

佐野善衛

横山町壹丁目角
岳善

移轉廣告

慶店義各位之御引立ヲ以テ是迄浅草區下平右衛門町十四番街ニテ營業罷在候處何分從前ノ所ニテハ不便不少候而今筮左記ノ所ヘ移轉致有名家ノ化粧品及ビ香水香油類モ販賣營業仕候間不相變御注文御引立之程奉願候

白粉毒性　元祖　日本橋區人形町通　松島町壹番地　幾久園

紀念石鹸發賣廣告

謹啓　清征

四方ノ華客益々御清廉ノ由奉賀候本年ハ意外ノ御愛顧ヲ蒙リ厚ク奉謝候今般弊舍ニ於テ製造セル紀念石鹸ハ日清戰爭ニ大事件ニ關シ又戰爭中弊舍ノミ特別物價騰貴ニ不關忍耐以テ廉値ヲ旨トシ只管顧客ノ便利ヲ計リシヲ合セテ一ノ確乎タルノ紀念ヲ遺シ衆人ノ參考ニ供セント欲スルモ皆是一トシテ符合スルモノナク只之ニ遺憾トシ手ヲ空シクシテ徒ニ腦漿ヲ絞リ高價ヲ拂テ集ムルト雖ドモ遺憾アリ弊舍雀躍直チニ之ヲ摸寫シ且ツ世人ノ高價ヲ拂テ集ムルトコロノ各國ノ郵便切手ヲモ摸造シ紀念石鹸ト稱セリ

此紀念石鹸ハ萬國ノ摸造切手ヲ細密ノ印刷ナリ
此紀念石鹸ハ型ノ摸樣ハ貫顯ノ肯像ナリ
此紀念石鹸ハ高尚優美ナル体裁ナリ
此紀念石鹸ハ品質純良ニシテ有功無害ナリ
此紀念石鹸ハ二個入ニシテ年玉進物ニ適當ナリ

右紀念石鹸ハ發賣者ノ充分ニ腦ヲ絞リテ意ヲ注ギタルモノナレバ豫期ヲ後レ本年ノ間ニ合ズ遺憾ナガラ來出年ヨリ賣出候間其期ニ及ビ候ハバ續々ご注文アラン事ヲ偏ニ希望ス

東京　芳誠舍石鹸製造所

販賣所　ハ當市和洋小間物卸店ニ有リ

▲臺灣の戸口其他　陸軍經理局長の調査に依れバ新竹、苗栗、臺中、彰化、北斗、雲林、嘉義、臺南、鳳山、打狗、澎湖島の十三ケ所現住戸數四十四萬四千五百八十戸以上の戸數を有する臺北、彰化、嘉義、鳳山、澎湖島の五ケ所なり人口總計二百二十四萬二百三十二人内十萬以上を有する臺北、新竹、臺中、彰化、雲林、嘉義、臺南、鳳山、澎湖島の九ケ所なり又官吏、雇傭人、兵隊、囚徒、浮浪者を除き本年三月迄に基隆へ上陸せし内地人男一萬三千二百五、女二千七百二、内官吏五百四十五、農子六百九、工子八百九十八、商五千四十五、農子六百九、工子八百九十八、商五千四百三十七、無職子六百七十一、雜業四千七百四十七にして熊本縣人は三千五百人以上鹿兒島縣人千五百人以上東京、大阪、京都、兵庫、山口、廣島、福岡、佐賀、大分、宮崎、鹿兒島、長崎の各府縣人は五百人以上上陸せし又合灣人にして百萬圓以上の資産家十三戸、萬圓以上の資産家十一戸、一萬圓以上の資産家九十戸あり

▲乃木總督の施政方針　乃木臺灣總督が去る二日地方官諮問會の席上に於て演說したる施政方針は左の如し

臺灣總督府を設置せらるゝに際し取捨の清兵士賊と共に王師に抗し全島を擧げて一時兵馬の地たらしめたり而して本年三月臺灣總督府條例を發せらるゝに及び行政の組織就り經營の基礎を定まるに初めて定まるとは雖も百事草創然政未だ緒に就かず是を以て大小の政令全島畫一ならんと欲ども總督府に於て講究整備を爲せり爾來七閲今や中央と地方と區絡貫通するを認むるに以て將來事の重要にして施政の全局關係を及ぼすものの類ならざる以上は漸次之を地方廳適宜の處分に一任し總督府の全局を統轄して各廳政務の臺否と成蹟の如何とを監視し以て地方當路者の治績を見るを欲す

現在地方の下に於て行政機關を設置し之が更に同廳の下に於て組織せらるゝ事を採用し以て上下不動の情意を疎通し且行政の統一を期せんが爲め經營の方針を調査審議し就中計畫亦將に整頓とす即ち經費を節減し欲ども人民の負擔を減じ以て人民の福利を增進せんとす而して今や之が計畫の基礎を定むるに至る第十回帝國議會に於て本年度の豫算を提出し

反古ふみよべ

作者不詳

▲主從日用條目

▲乳母の式目

一乳母奉公の主人より預りの子を大切にし畫夜心を用ひ少しも物とがめにすべきこと事

一人くの我が食物とがめむべし、あおらてき煎鳥、時ならぬ菓子、蒟蒻などを喰へバ育つる子の毒となり癖を生じ病身となる然ればおそれたしなむべき事

一預りの子を抱さすこと能くよく寢入らバ我身は起きて横臥なさを洗ひ其外家内の用を手傳べき事

一子を守して外へ出るとき食物を買て喰はすまじき事

一近隣の乳母子守女と餘り心安くならぬやうにすべき事

一師匠奉公に出て乳のあがらぬやう用心すべき事

一育て子が疱瘡はしか又は病み煩らふ事あらバ晝夜とも怠りなく介抱し藥をせんと指でさすりし我身の毒忌食、衾を上神佛は祈誓し本復を祈るべき事

一預り子を我眞實の子と思ひ高に氣をつけ怪我あやまちをさせぬやう守り育つべき事

右の外乳母奉公の心得さまく～あるべし元來人の大事の子を預かり育てる後にて尤も大切の奉公なれバ能く～心を貫て勤むべきなり世上の乳母の中には大切な子を育つるを奥にかけ我なくバと云はゝバかりに當事我意をふるひて主人を侮るなくバ日くの來を小言いひ親方が彼是いへバ内証で子にあたるはかりつゝきつゝ或ひ子の寢るとかこつけに日の昇るまで弼寢し又は子をだしに晝寢よねし一飯くひ箸を下に置や否や出歩行て近所の乳母子守と寄合ひ親方の事を誹るを合ひ又ハ彼若の取沙汰男の美醜を論じ合ひ口とやの彼は嫌とやのと浮氣ばなしに現をぬかし子の軸倒るゝを知らず下男たる乳母の親方より遣ひ錢を取り子には一文も二文の駄をゆるさず已れハ餅と芋よと買喰ひし少し子が泣けバ此御見は能うはへるのイヤ性の悪い小悔のと大切なる主人の子を微多の子か石貨の子のやうにあしらひ親方がもれ聞て苦口いへバ嘘八百を言ひならべ又ハ俄病起して困らすも多し大事の子を預けれバこそ高い給金を先貰にして若の外に古若より餘まどの心船をあだに思ふ以寡加なし嘯預りの子を大切に育てるこそ誠の乳母といふべきなり

▲下女の式目

一下女奉公の主人大切ハ云ふに及ばず萬やさかたに愛敬を失ひ然も身を慎まず健にはたらくべき事

一櫛元縛りを洗らかに洗ひ拭し皿鉢茶碗その外うついものを制ぬやう丁寧に眼あつかひすべき事

一三度の食事ごしらへの間に縫つくろう雑箱等に精を出すべき事

一寢姿を慎み朝とく起て髪なでつけ食拵らへにかゝるべき事

一晝の働らに疲れ夜に眠花さものなれども堪へ忍び夜業に鐘針を勵ミ智ムべき事

一朋輩さし話しするとも男の噂ばなしさし事を大聲に高笑ひなをすべからず隨分しとやかにすべき事

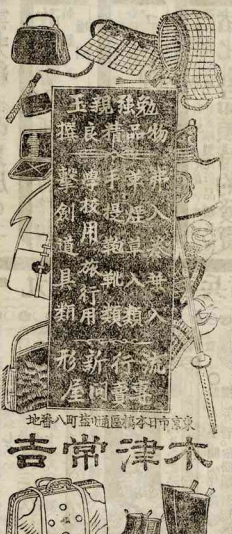
一朋輩の中言を主人に告げまゐさる事

一度く暇を乞ひ親元宿など へ歸るまゐる事

一衣類帶櫛かんざし等身に不相應の品を求ひべかるまゐる事

一實体に勤め同じ家に長く勤めるやうにし半季毎に出代りするハ宜しからざる事

右の外孫家がさし事を堅く慎むべし世上の下女奉公をする者初めの程はおとなしく實体に見られども奉公されに隙ひ親方をふろをかにし油うる事ばかりを考へたまく～主人に叱らるれば佛頂顔し何の此家にばかりに日ハ無まいしと心につゝぶやき家内の事を他人の方へ行きてもしゞまに云ひ不相應の衣服櫛かんざしを買ひてもしゞまに云ひ不相せども是は不ながら種きひす垢ぶみしに氣もつかず男さへ見れバいやな目つきし美女がりて横子つくるに引替て人の見ぬ間には摘み喰し坐りて針を



持パ早や居眠るかと思へば芝居ばなしか男の噂に話飽かに目を覺ましてやべり出し何時の間にやら男をとしらへ親が目をさわしたの伯母が死だのと嘘い放して主に喝を石ひ隠し男と忍び逢ひ親方に一年と申約を結ぶ年季立の間を待かねて出代りし口入屋へ行て同じ奉公に日を送る者多し是等の我世帯をするやうになりて思ひ知るものなり「女子年季をする人は よく〳〵慎み實体に勤め身の出世を待つべき事　（をはり）

▲たわけ問答　（承前）

▲既も立ず嬉をとなく道具を破るいいかん
▲新鰹もせぬ道具を拵えいふがごとし
▲限りなく病の數を知る病の數を極るいいかん
●千金方の藥に萬病丸あるがごとし
▲道法ならぬ豆腐の鴨を一丁二丁といいかん
▲開に上りて高山の麓を一台二台と云がごとし
▲雛の人形もある鯛魚をすべて身とはいいかん
▲漿喰ひでも始めに喰へば飛ぶと云ふがごとし
▲炭俵を積あがら茶瓶とはいいかん
▲海川へも入ぬ鼠居の箱を水舟湯舟と云がごとし
▲寒よみの中に赤紙衛門馬の内侍といいかん
▲男にも女あるがごとし
▲一つの者へ女を思（四）樂とはいいかん
▲見もせぬ鳥布を三日とはいいかん
●貰ものにもあらぬに鰯りといふがごとし
▲とさも木にもあらぬに鳥居といいかん
▲魚類にあらぬに鮑りといふがごとし
▲日輪一ッを天だら（十）樣とはいいかん
▲れ月さまを十三七といふがごとし
▲手に持てしみ（踏）箱とはいいかん
▲雨手を突て足下をいふがごとし
▲律儀なものを洗面といいかん
▲やさわたるものの宜いのをすいと云ふがごとし
▲あきて居るものをねこといいかん
▲來るものを猿（去）といふがごとし　（未完）

▲昔ばなし忍ぶ草　（承前）

金原亭　馬之助

▲ば　源氏茶漬がはやりますうち平家とばといふを思ひ
▲やした先きれいに施たのが清盛りふりの出のがあつ盛たゝ盛もござります同じおかはりが、とも盛たんとあるのが宗盛ゝ「あれならその蕎麥をみんな喰て餞を一せん置て出やす「なせへ「平家い皆一もんでいない

▲發句　柳風亭　柳枝

ムとん者て解たる炎や東山といふが其樣なおはなし
なれ國もれへもんだ「ナニありやす」國でまはらといふがある

▲ならず　金原亭　馬石

鳥に反哺の孝ありと云つて宮島サをこで日の出に
かう〳〵と鳴きやす「それはどな宮島が月夜にい
時でもねへ時分になくい馬鹿なものだね「あれは
鳴きやうがちがひます「なせへ「ハテあはう〳〵
といひます

▲角力　登龍亭　鱗蝶

若番等よつて相撲をとり居る處へ高野聖きたりて
取りけるに勝ものなかりけるゆゑみな〳〵おそれ
て相撲のわざを教へたまへと云ふに僧くまりて金
く角力に勝を得たるにあらず聊か本事あり工勝
たりといふに人〳〵ゆるさず是非をしへ給へといふ
に僧外の事でない立合の時土俵をよりかけしと
云へり

▲祇園　林家正藏

六月十四日には祇園會のお祭りで沙興かさが大坂
からきます四條の橋の上で七寶をふみやすが事な
なものさ江戸にはあるめへ「ばかアいひねへ江戸
の天王樣をかつぐには沙遣酒のうへで祇伏やうし
をふみやす

▲川柳　桂文治

青公さいねへ今流行の川柳点に、年號わかさいの
せなア能く覺へとは宜いとやアねへか「さうサ能
くふんべつをすればするほど宜ね　（未完）

廣告

丸善商店發賣品廣告

婦人小間物　各種
高等御美髮刻煙草　御櫛笄簪類各種
指矢師新匠　漆彫御櫛笄簪玉
御櫛師用品　携帯用品
特製意匠品　新形花簪根掛手柄類
金・銀・珊瑚・玉・宝石・組物・寄物・織物・絹・綿・紬・縮・縮緬・縮子・綾・絹・紗・羅・紋・紋羽・紋織・紋・紋羽・紋織・紋・紋羽・紋織

●登録商標 軍艦はみがき

定價
二錢　三錢　五錢　六錢　十錢　十五錢

此歯磨粉は單に歯牙を清潔純白ならしむるの効あるのミならず能く銀を緊め歯牙を保全し又充く口中の悪臭を去るを以て常時之を用れは身躰健康強壮にして神氣亦自ら發揚すべし

東京市横山町一丁目
小間物問屋 佐野善衛製

特製 丈長 金鶏掛發賣廣告

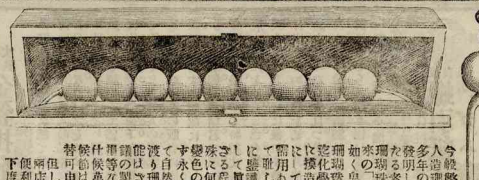
本舗 岳海屋

製造主任 金坂天陽

渉婦人の粧飾品は總て其品位或い模様体裁等の如何に拘て大に其人の品格に關す就中髪掛の如き其品位の如何は陪に其人の品優劣なれば之を用ふる人も亦自ら優劣なるべし故に之を製出して需用に供する者は其品位の如何に拘らず價格の高下を論ぜず宜しくめざるべからざるを保たしめざるべからざるを論ぜず日本婦人の優なる美を保たしめざるべからざるを論ぜず日本婦人の優なる美を保たしめざるべからざるを論ぜず日本婦人の優なる美を

專賣特許人造珊瑚珠

今般弊舗に於て發賣仕候人造珊瑚珠に付製作者多年研究特許を得たる者にて他の人造珊瑚珠と異なり粹を從來の珊瑚珠と異なり粹を



特許人造珊瑚珠は其性質に至る迄明らかに人造の御需用しも品にあらず本類に製造仕候者は人造の御需用しも品にあらず本類に製造仕候者は人造の御需用しも品にあらず本類に製造仕候者は